

令和6年度
大学共通教育履修案内
(基盤教育・プラスIプログラム)

2024



茨城大学
Ibaraki University

大学共通教育履修案内について

- ・この冊子では、本学教育課程のほか、大学共通教育（基盤教育、プラスⅠプログラム）の概要及び令和6年度入学者を対象とした履修基準や履修上の注意事項等を解説しています。
- ・本要項をよく理解し、要件に則って必要な科目を履修してください。（専門科目の履修については、各学部等の専門科目履修要項等を参照してください。）
- ・履修基準等は入学年度によって異なることがあり、卒業には本要項が適用されますので、大切に保管してください。紛失しても再配付はありません。
- ・本要項の内容は更新される場合があります。教務情報ポータルシステムや大学ホームページ等でお知らせしますので、よく確認してください。
- ・不明な点は、共通教育センターへ問い合わせてください。

以下の資料も併せて参照してください

○令和6年度大学共通教育開講授業科目一覧

令和6年度に開講される大学共通教育の授業科目（開講科目や時間割、担当教員、教室等）を掲載しています。下記のスチューデントサクセスセンターのホームページに掲載されています。なお、集中講義の日程や当該年度の授業科目変更の案内も下記 URL に掲載されますので、定期的に確認してください。

・ホームページ：<http://www.lae.ibaraki.ac.jp/>

○茨城大学での学修の手引き－「大学入門ゼミ」から始めよう－

新入生全員が履修する「大学入門ゼミ」の教科書にもなっています。大学での学修や注意事項、授業を受けるにあたってのポイント、茨城大学の教育課程・制度、図書館の活用法等については確認してください。

茨城大学憲章

平成 21 年（2009 年）5 月 30 日、茨城大学は大学憲章を定めました。

本学は地域に根ざした総合大学として、地域社会・国際社会に有為な人材を輩出してきました。基礎から応用まで幅広い高度な研究を行ってきました。地域の教育、研究、芸術、文化、産業の振興に寄与してきました。

「茨城大学憲章」を制定し、新たな大学創りに踏み出します。

茨城大学は、教職員と学生がともに茨城大学の公共の役割を深く理解し、それぞれの立場に応じた責任の下で、社会からの期待と要請に応じていくために、行動の指針として「茨城大学憲章」を制定します。

○基本理念

茨城大学は、真理を探究し、豊かな人間性、高い倫理性と社会性をもった人間の育成と「知」の創造、蓄積、体系化および継承に努めます。多様な教育と高度な研究を展開し、世界の平和、人類の福祉ならびに自然との共生に貢献します。社会の変化に対応できるよう自己変革します。

○教育

未来を拓く学生が、自由に、自発的に行動できる学びの場として、また市民が継続して学習する場として、さまざまな学習の機会を保障します。人類の文化と社会や自然についての理解を深め、高い倫理観をもち、持続可能な社会と環境保全の担い手となる市民を育成します。豊かな人間性と幅広い教養をもち、多様な文化と価値観を尊重する国際感覚を身に付けた人間を育成します。学部教育では、大学のもつ総合力を生かして一貫した教養教育と専門教育を行います。専門知識と技能を修得し、自らの理想に基づいた将来設計ができる力と課題を探究し問題を解決する力を兼ね備えた人材を育成します。大学院教育では、幅広く豊かな学識と高度な専門知識と技能を身に付け、学術研究と科学技術の進歩に対応できる豊かな創造力をもった高度専門職業人と研究者を育成します。

○研究

研究が自由な発想と主体的な判断に基づいて自律的に遂行されることを保障し、研究環境の整備を行い、卓越した「知」の創造に努めます。大学における研究が社会からの信頼と負託を受けていることを自覚し、高い倫理性をもって真摯に研究を行います。真理の探究に関わる基礎研究を充実するとともに、新しい学術分野や産業創出に繋がる組織的研究の育成に努めます。茨城大学が立地する地域の自然的資源および社会的資源を生かした独創的な研究を組織化し、世界的な研究拠点の形成に努めます。創造的研究の継承と発展のために、未来を担う若手教員と大学院生の研究を積極的に支援します。

○地域連携と国際交流

市民や社会から信頼される大学であるために、大学の情報を広く発信し、大学への期待や要請の把握に努めます。市民、自治体、教育界、高等教育研究機関、経済産業界等と連携した教育と研究を推進します。教育研究の成果を積極的に社会に還元し、地域の教育と文化の向上、環境保全、産業振興、社会の発展に寄与します。教育と研究の成果を広く国際社会に向けて発信するとともに、学生や教職員の国際的な交流と共同研究を行い、国際水準の教育と学術研究の推進及びその成果の共有に努めます。アジア地域を中心とした国際社会から信頼される学術と文化の交流拠点となることを目指します。

○運営

教職員および学生の協働と自治の下で大学の運営を行います。基本的人権を守り、男女が等しく大学の運営に参画できる条件を整備します。計画的な組織整備と教職員の研修を行い、社会の変化に柔軟に対応できる運営体制を整えます。安全と健康に配慮したキャンパスづくりと環境緑化に努めます。教育、研究、地域連携、国際交流、財務および経営について自己点検評価し、結果を公表するとともに大学改革に適切に反映させます。

茨城大学 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

茨城大学の教育目標は、変化の激しい 21 世紀において社会の変化に主体的に対応し、自らの将来を切り拓くことのできる総合的人間力を育成することである。

そのために茨城大学の学生が卒業する時に身につけているべき能力を、以下に示す 5 つの知識及び能力で構成されるディプロマ・ポリシー（卒業基準）として定める。これら 5 要素の比重は分野毎に異なるが、茨城大学を卒業する学生は、どの分野で学んだとしてもこれらの知識・能力を備えていることが必要である。



1 世界の俯瞰的理解

自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解

2 専門分野の学力

専門職業人としての知識・技能および専門分野における十分な見識

3 課題解決能力・コミュニケーション力

グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、および実践的英語能力を含むコミュニケーション力

4 社会人としての姿勢

社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性

5 地域活性化志向

茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

茨城大学 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

ディプロマ・ポリシーに示す茨城大学の教育目標を実現するためカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）を以下に示す。

1 教育課程の編成

ディプロマ・ポリシーで定めた 5 つの能力を育成するため、共通教育と専門教育からなる 4 年あるいは 6 年一貫の体系的な教育課程を編成する。

2 課題解決能力の育成

課題解決力を育み、学生が自らの理想に基づいた将来を切り拓く基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するため、共通教育及び専門教育でそれぞれの特色を生かしたアクティブ・ラーニング科目を充実させる。

3 実践的英語能力の養成

グローバル化が進む地域や職域での活動を支える実践的英語能力を共通教育、及び専門分野に即した形で専門教育において養成する。

4 地域・国際志向と態度を育成する教育の推進

共通教育及び専門教育のそれぞれにおいて、地域の理解と国際的な視野を育み、異なる地域や分野、文化的背景をもった人達とのコミュニケーション力や協働性を育成する科目を充実させる。

5 教育の質の保証

丁寧な学修ガイドにより学生の主体的な学びを促進し、単位の実質化を図るとともに、各授業科目の到達目標及び明確な成績評価基準に基づく厳格な成績評価を行う。学修成果の可視化に努め、教職員と学生の相互協力と点検により不断の教育改善を提供する。

目 次

巻頭

茨城大学憲章
ディプロマ・ポリシー
カリキュラム・ポリシー

第 I 部 基盤教育科目の履修

1 茨城大学の教育課程

- 1-1 教育課程の科目構成…………… 1
- 1-2 単位制度…………… 2
- 1-3 卒業に必要な修業年限及び単位数… 2
 - (1) 修業年限
 - (2) 各学部等の卒業に必要な最低修得単位数 (履修基準)
- 1-4 シラバス…………… 4
- 1-5 科目ナンバリング…………… 5
- 1-6 学年暦と 2 学期クォーター制…………… 6
 - (1) 学年暦
 - (2) 2 学期クォーター制
 - (3) iOP クォーター
- 1-7 授業時間…………… 8
- 1-8 授業実施方法…………… 8
 - (1) 授業の実施形態
 - (2) 遠隔授業受講上の注意【重要】
 - (3) 授業関連システム
- 1-9 試験期間・予備日・振替曜日…………… 10
 - (1) 試験期間
 - (2) 予備日
 - (3) 振替曜日

2 基盤教育科目の履修

- 2-1 基盤教育の目標…………… 11
- 2-2 基盤教育科目の概要…………… 11
 - (1) 基盤学修 (共通基礎/キャリア形成)
 - (2) 主体学修 (リベラルアーツ)
- 2-3 基盤教育科目の履修上の一般的注意… 20
 - (1) 「大学入門ゼミ」の履修上の注意
 - (2) 「茨城学」の履修上の注意
 - (3) 「プラクティカル・イングリッシュ」の履修上の注意
 - (4) 「情報リテラシー」の履修上の注意
 - (5) 「データサイエンス・AI 入門」の

履修上の注意

- (6) 「心と体の健康」の履修上の注意
- (7) 「科学と倫理」の履修上の注意
- (8) 「ライフデザイン」の履修上の注意
- (9) 「多文化コミュニケーション」の履修上の注意
- (10) 「ヒューマニティーズ」の履修上の注意
- (11) 「自然・環境と人間」の履修上の注意
- (12) 「グローバル化と人間社会」の履修上の注意
- (13) 各科目に共通の注意事項
- (14) 入学前の既修得単位と大学以外の教育施設等における単位の認定
- (15) 休学期間中に他大学で修得した単位の認定
- (16) 編入学生における本学入学前の大学等の単位の取扱い
- (17) 教育職員免許状取得に必要な事項
- 2-4 休講・補講…………… 28
 - (1) 休講
 - (2) 補講
 - (3) 休講・補講の連絡方法
 - (4) 自然災害等発生時の授業実施について
- 2-5 保険への加入…………… 29
- 3 履修科目の登録
- 3-1 授業時間割の作成…………… 30
 - (1) 基盤教育科目の時間帯と専門科目の時間帯
 - (2) 学部コード
 - (3) 時間割の作成
- 3-2 「プラクティカル・イングリッシュ」のクラス分け…………… 31
- 3-3 「心と体の健康」のクラス分け… 31
 - (1) クラス分けの手順
 - (2) 「心と体の健康」ガイダンス注意事項
- 3-4 主体学修 (リベラルアーツ) のクラス分け…………… 32
- 3-5 履修科目の登録…………… 32
 - (1) 履修科目の登録

(2) 履修登録の確認	
(3) 履修登録単位数の上限 (CAP 制)	
3-6 履修科目の登録完了まで	33
4 試験及び成績評価	
4-1 試験	35
4-2 茨城大学における試験及びレポート 作成等に関する留意事項	35
4-3 追試験	36
4-4 やむを得ない事情により授業を欠席 した場合について	38
4-5 成績評価	38
4-6 GPA (Grade Point Average)	38
4-7 再履修	40
4-8 成績評価に対する異議申立てについて 	40

第Ⅱ部 各学部等の履修上の注意

1 各学部等の履修上の注意	
1-1 人文社会科学部学生の履修上の注意 	42
1-2 教育学部学生の履修上の注意	46
1-3 理学部学生の履修上の注意	49
1-4 工学部学生の履修上の注意	52
1-5 農学部学生の履修上の注意	55
1-6 地域未来共創学環学生の履修上の注意 	58

第Ⅲ部 プラスⅠプログラム

1 プラスⅠプログラム	
1-1 プラスⅠプログラムとは	61
1-2 プラスⅠプログラムの履修方法 	61
2 各教育プログラムの説明	
2-1 グローバルコミュニケーションプロ グラム (GCP)	62
2-2 地域志向教育プログラム	67
2-3 サステイナビリティ学教育プロ グラム	73
2-4 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム 	77
2-5 アントレプレナーシップ教育プログラム 	82
2-6 日本語教員養成プログラム	87

第Ⅳ部 付録

初修外国語の紹介	90
時間割表	96
学問分野コード・教育プログラムコード一覧 	100
別紙	104

第 I 部

基盤教育科目の履修



1 茨城大学の教育課程

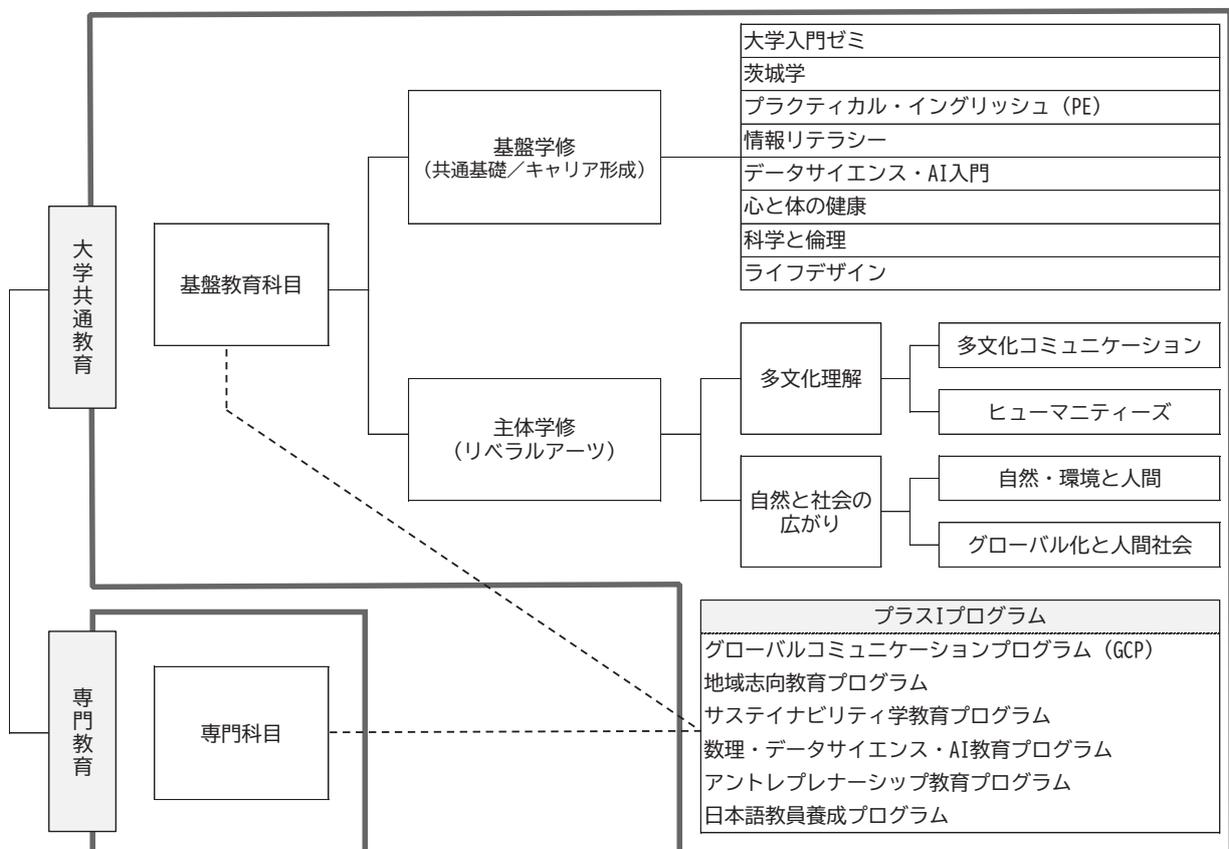
1-1 教育課程の科目構成

茨城大学の教育課程は、大学共通教育と専門教育により構成され、図1のように**基盤教育科目**及び**専門科目**から成り立っています。各学部等の教育課程を修了するには、一定の年限内に、定められた授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければなりません。詳しくは3ページの **表2 各学部等の卒業に必要な単位数（履修基準）**を参照してください。

図1 茨城大学における授業科目

基盤教育科目及び**専門科目**は、それぞれ複数の**授業科目**で構成されています。令和6年度に開講される基盤教育科目は、「令和6年度大学共通教育開講授業科目一覧」を参照してください。**基盤教育科目**（特に**主体学修**）には授業科目名のほかに授業題目がついているものがあります。例えば、主体学修の「ヒューマニティーズ」における、「思想・文学」、「歴史・考古学」などといった名称が**授業科目**です。そして、授業科目「思想・文学」の中で、さらにいくつかの種類の授業が開講されており、その各授業には「変体仮名を読む」などといった名称がついていますが、これを**授業題目**といいます。

図1 茨城大学における授業科目



1-2 単位制度

各授業科目には学修時間に応じた単位が定められており、卒業要件等の履修基準は修得すべき単位数によって規定されています。

1単位を修得するには、大学で行う授業時間に予習復習時間を含めた45時間(2単位の場合は90時間)の学修が必要です。表1のとおり、基盤教育科目では、「プラクティカル・イングリッシュ」、「多文化コミュニケーション」の「初修外国語」及び「心と体の健康」の「身体活動」については30時間、それ以外の科目は15時間と設定されています。

基盤教育科目の標準的な授業実施形態は、期末試験を除く週1回1学期13回、又は週1回1クォーター6.5回です。

表1 基盤教育科目と単位数

授業科目等	単位数	授業回数	学修時間	
			授業時間	予習復習時間
プラクティカル・イングリッシュ 多文化コミュニケーション(初修外国語)	1単位	13回	30時間	15時間
	2単位	26回	60時間	30時間
心と体の健康(身体活動)	1単位	13回	30時間	15時間
上記以外の科目	1単位	6.5回	15時間	30時間
	2単位	13回	30時間	60時間

1-3 卒業に必要な修業年限及び単位数

(1) 修業年限

茨城大学における修業年限は、茨城大学学則によって次のように定められています。

(修業年限)

第7条 修業年限は、4年とする。

(在学期間)

第8条 在学期間は、修業年限の2倍を超えることができない。

(休学期間)

第28条 休学期間は、1年を超えることができない。ただし、引き続き休学の必要がある者は、学長の許可を得て休学期間を延長することができる。

2 休学期間(前項ただし書きの規定により延長する期間を含む。)は、連続して2年を超えることができない。ただし、学長が、特別の理由があると認めた者については、この限りでない。

3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

4 休学期間は、在学年数に算入しない。

(2) 各学部等の卒業に必要な最低修得単位数(履修基準)

茨城大学を卒業するには、4年間以上在学し、124単位以上を修得しなければなりません。各学部等は、表2に示すように卒業に必要な単位数(履修基準)を指定しています。基盤教育科目については、基盤学修、主体学修の各科目に示されている最低修得単位数を含み、各学部等で定めている必要単位以上修得しなければなりません。

表2の中の選択履修は、基盤教育科目の中から、自由履修は、基盤教育科目及び専門科目の中から選択して履修する単位です。どの科目を自由履修とするかは、各学部等・学科(課程)の指示に従ってください。選択履修については、「各学部等の履修上の注意」(p.42~)を参照してください。

表2 各学部等の卒業に必要な単位数（履修基準）¹⁾

科目群・科目区分		学部等	人文社会 科学部	教育 学部	理学部	工学部	農学部	地域未来 共創学環	
基盤 教育 科目	基盤学修 （共通基礎 ／キャリア 形成）	大学入門ゼミ	2	2	2	2	2	2	
		茨城学	1	1	1	1	1	1	
		プラクティカル・ イングリッシュ	4	4	4	4	4	4	
		情報リテラシー	2	2	2	2	2	2	
		データサイエンス・ AI 入門	2	2	2	2	2	2	
		心と体の健康	1	2	1	1	1	1	
		科学と倫理	0	1	1	1	1	1	
		ライフデザイン	1	1	1	1	1	0	
	計	13	15	14	14	14	13		
	主体学修 （リベラル アーツ）	多文化 理解	多文化コミュニケーション	2	3	3	3	3	1
			ヒューマニティーズ						2
		自然と 社会の 広がり	自然・環境と人間	4	4	4	4	4	2
			グローバル化と人間社会						4
	計	6	7	7	7	7	9		
	選択履修	3	0	3	3	3	4		
合計	22	22	24	24	24	26			
専門科目合計			75～77 ²⁾	79～92 ³⁾	86～92 ⁴⁾	92～93 ⁵⁾	86	88	
自由履修			25～27 ²⁾	10～23 ³⁾	7～14 ⁴⁾	8	12	10	
卒業に必要な最低単位			124	124	124	124	124	124	

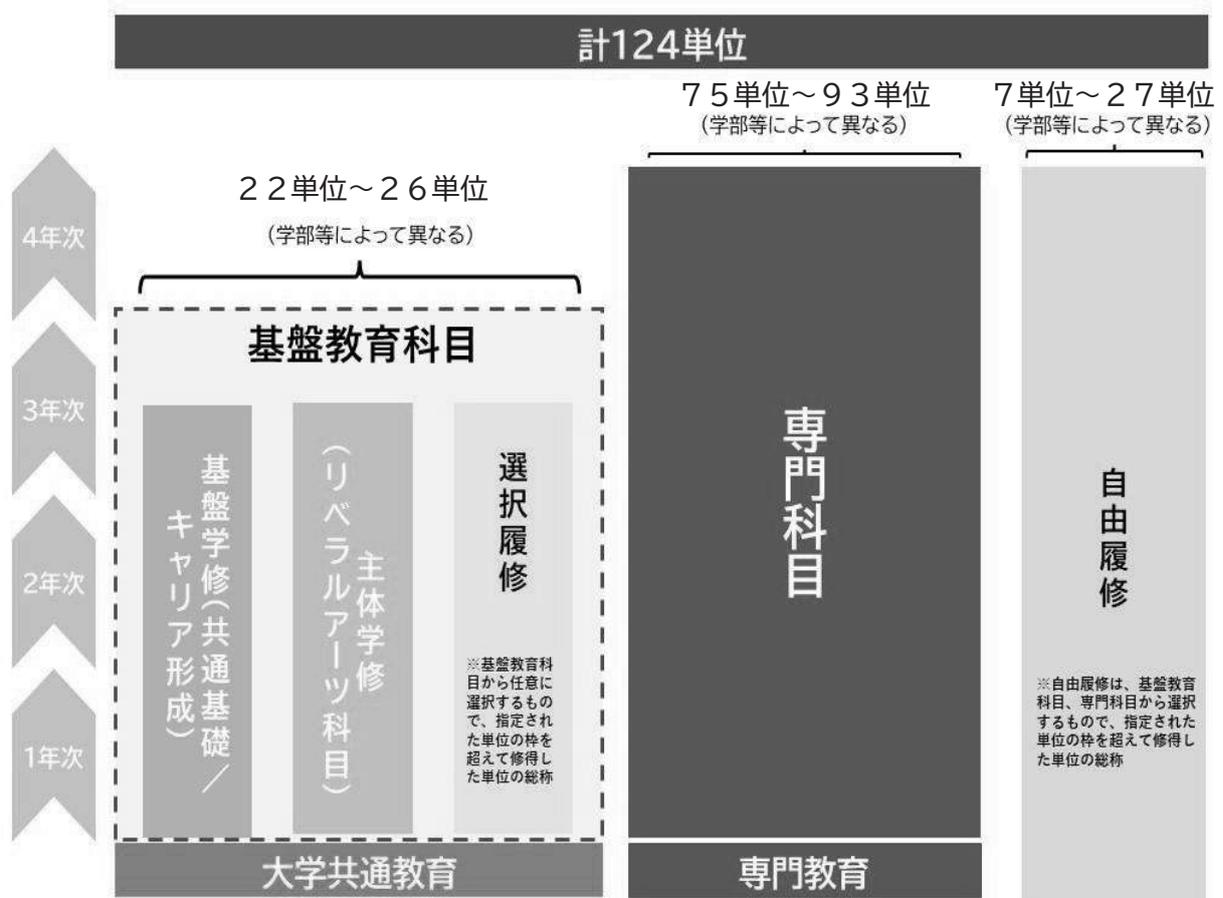
注：1) 履修方法は各学部等により異なりますので、各学部等の履修上の注意（p.42～）を参照してください。

注：2) 学科により異なりますので、人文社会科学部履修要項を参照してください。

注：3) 課程、コースにより異なりますので、教育学部履修要項を参照してください。

注：4) 地球環境科学コース地球科学技術者養成プログラムは要件が異なりますので、理学部履修要項を参照してください。

4年間の教育課程



履修基準は表2のとおりで、学部等によって必要単位数が異なります。それぞれが4年の間に、卒業に必要な単位を大学共通教育と専門教育、自由履修とを合わせて修得していくことになります。

上図は、全体でみた場合の4年間の単位修得のイメージです。それぞれの科目について、単位数に幅があるのは、学部等によって必要単位数が異なるためです。

基盤教育科目は、基盤学修、主体学修ともに1年次から3年次にかけて、それぞれ配置されています。

1-4 シラバス

授業の内容を記したものを「シラバス」といいます。シラバスには、授業科目名、授業題目名（基盤教育科目のみ）、授業の開講年度・学期・曜日講時、授業担当教員、単位数のほか、科目ナンバリングコード、授業の概要、キーワード、到達目標、授業及び授業外学修、履修上の注意、成績評価基準、成績評価の方法、教科書、参考書など、授業についての様々な情報が記載されています。茨城大学のシラバスは、大学共通教育、専門教育にかかわらず、教務情報ポータルシステムで確認できます。どのような授業があるのか、実際にシラバスを検索してみるとよいでしょう。

1-5 科目ナンバリング

茨城大学では、体系的な教育課程の編成のため、教育課程における当該授業の位置づけ等を示すものとして、各科目にナンバリングコードを設定しており、次の項目についてアルファベットや数字で表示します。ナンバリングコードは、シラバスにも記載されています。

各コードについて、授業科目「茨城学」を例に説明します。授業選択の際の参考にしてください。

(例) 「茨城学」のナンバリングコード

ナンバリングコード	KB	-	IBS	-	1	-	COE
説明 No.	①	-	②	-	③	-	④

各コードの説明

No.	コード名	説明																																	
①	部局コード	<p>当該授業を実施する部局を示すコードです。基盤教育科目にはすべて「KB」（学生サクセスセンター）が付されています。</p> <p>学部等専門科目には、それぞれ、「L」（人文社会科学部）、「P」（教育学部）、「S」（理学部）、「T」（工学部）、「A」（農学部）、「R」（地域未来共創学環）が付されています。</p> <p>「茨城学」の部局コードは「KB」なので、この授業は「学生サクセスセンター」が実施する授業であることがわかります。「KB」が付された授業に関する質問は、スタディサポート室にお問い合わせください。</p>																																	
②	学問分野コード	<p>当該授業の学問分野（科目区分）を示すコードです。学問分野コードの一覧は巻末（付録）を参照してください。興味のある学問分野があれば、教務情報ポータルシステムでキーワード検索してみるとよいでしょう。</p> <p>「茨城学」の学問分野コードは「IBS」（Ibaraki Studies）です。</p>																																	
③	難易度コード	<p>各学問分野における当該授業の難易度を示すコードです。1～9の数字によって難易度を示します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コード</th> <th>難易度の基準</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">学部</td> <td>1</td> <td>1年次に修得が望まれる科目</td> <td>基盤教育科目は「1」が原則</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2年次に修得が望まれる科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3年次に修得が望まれる科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>4年次に修得が望まれる科目</td> <td>卒業論文等「5」を除く</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>卒業論文、卒業研究、卒業制作等</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">大学院</td> <td>6</td> <td>修士課程及び博士前期課程： 大学院共通科目及び研究科共通科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>修士課程及び博士前期課程：専攻科目 専門職学位課程：専門科目及び実習科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>博士後期課程科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td>共通</td> <td>9</td> <td>レベル分けが困難な科目</td> <td>海外留学、インターンシップ等</td> </tr> </tbody> </table> <p>「茨城学」の難易度コードは「1」なので、この授業の難易度は1年次に修得が望まれる科目であることがわかります。</p>	コード	難易度の基準	備考	学部	1	1年次に修得が望まれる科目	基盤教育科目は「1」が原則	2	2年次に修得が望まれる科目		3	3年次に修得が望まれる科目		4	4年次に修得が望まれる科目	卒業論文等「5」を除く	5	卒業論文、卒業研究、卒業制作等		大学院	6	修士課程及び博士前期課程： 大学院共通科目及び研究科共通科目		7	修士課程及び博士前期課程：専攻科目 専門職学位課程：専門科目及び実習科目		8	博士後期課程科目		共通	9	レベル分けが困難な科目	海外留学、インターンシップ等
コード	難易度の基準	備考																																	
学部	1	1年次に修得が望まれる科目	基盤教育科目は「1」が原則																																
	2	2年次に修得が望まれる科目																																	
	3	3年次に修得が望まれる科目																																	
	4	4年次に修得が望まれる科目	卒業論文等「5」を除く																																
	5	卒業論文、卒業研究、卒業制作等																																	
大学院	6	修士課程及び博士前期課程： 大学院共通科目及び研究科共通科目																																	
	7	修士課程及び博士前期課程：専攻科目 専門職学位課程：専門科目及び実習科目																																	
	8	博士後期課程科目																																	
共通	9	レベル分けが困難な科目	海外留学、インターンシップ等																																
④	教育プログラムコード	<p>当該授業を構成科目とする教育プログラムを示すコードです。教育プログラムコードの一覧は巻末（付録）を参照してください。「茨城学」の教育プログラムコードは「COE」なので、この授業は「地域志向教育プログラム」の構成科目であることがわかります。</p>																																	

1-6 学年暦と2学期クォーター制

(1) 学年暦

茨城大学の学年暦は、茨城大学学則によって次のように定められています。

(学年)

第9条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を分けて次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月20日まで

後学期 9月21日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期に2つの期間（以下「クォーター」という。）を置くことができる。

3 各クォーターの始期及び終期については、別に定める。

(授業を行わない日)

第11条 授業を行わない日（以下「休業日」という。）は次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 土曜日

(3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第 178号）に規定する休日

(4) 春季休業 2月24日から3月31日まで

(5) 夏季休業 8月12日から9月20日まで

(6) 冬季休業 12月27日から翌年1月5日まで

2 教育研究上必要がある場合は、学長は、前項に規定する休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に規定するもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

なお、1年間の授業可能日は期末試験などの日数を含めて、大学設置基準により35週を確保することとされています（「令和6年度大学共通教育開講授業科目一覧」巻頭の令和6年度の茨城大学学年暦及び履修カレンダーを参照してください）。

(2) 2学期クォーター制

本学の授業期間は、前学期・後学期それぞれ14週（13週＋期末試験）にわたって授業を実施する方式（セメスター制）と、各学期をさらに半分に分け、7週で授業を完結する方式（クォーター制）を併用して授業を開講します。

クォーター制は、留学や長期インターンシップなど学外での学びを促進すること、短期間で集中的に授業を実施することも可能にして各授業科目における教育効果の向上を図ること、7週完結の授業科目の設定で履修の選択肢を増やすことなどを目的として導入するものです。

2学期クォーター制のイメージ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前学期						後学期					
ガイダンス等	前学期 授業期間			学外学修における活動期間 (夏季休業)	後学期 授業期間			学外学修における活動期間 (春季休業)			
	第1クォーター 授業期間	第2クォーター 授業期間	第3クォーター 授業期間		第4クォーター 授業期間						

主な授業開講パターン

	授業回数/週	授業期間	単位 (※) (一般的な講義)
①	1回	7週 (6.5回授業+期末試験)	1単位
②	2回	7週 (13回授業+期末試験)	2単位
③	2回 (2コマ連続)	7週 (13回授業+期末試験)	2単位
④	1回	14週 (13回授業+期末試験)	2単位

※実験・実習・実技及び一部の演習授業の単位数は、講義の半数。

2学期クォーター制では、授業開講パターンは7週完結のパターン（上記①、②、③）と、13週+期末試験のパターン（上記④）とに分かれます。また、7週完結のパターンには、週1コマ実施（①）、週2コマを異なる曜日で実施（②）、週2コマを連続で実施（③）の3つのパターンがあります。上記のパターンを各々の授業に応じて、教育効果により併用します。

(3) iOPクォーター

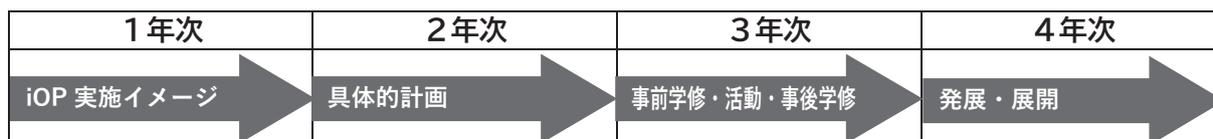
本学では、3年次の第3クォーターを学生自らが特に学外において主体的に行う学修を促進する期間としています。そして、この期間をiOPクォーター（internship Off-campus Program Quarter）といいます。これは、社会から求められる「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力」を身に付けてもらうことを目的に設定する期間です。

この期間に実施する学修には、大学が提供する海外での語学研修、国内外でのインターンシップ（短期・長期）、ボランティア活動のほか、学生自身が企画・実施するものなど、様々な形態があります。

iOPを行うに当たっては、基本的に1年次で活動内容を構想し、2年次でより具体的な計画を立て、3年次に事前学修を踏まえた上で実際の活動を行い、事後の振り返りや専門分野への活用を行います。一連の活動を通じて4年次又は卒業時にどのような能力等を身に付けたいのかをイメージして計画を立てる必要があります。具体的には各年次にわたってクラス担任や指導教員などに相談してください。

この期間にiOPを行い一定の要件を満たした場合は、それを証明する認定証が交付されます。また、活動の内容によっては単位を修得することもできます。詳しくは「iOPガイドブック」を参照してください。

4年間の教育課程とiOP



iOPの流れ（3年次の年間スケジュール）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前学期						後学期					
前学期 授業期間			学外等における学修期間 (夏季休業)			後学期 授業期間			学外等における学修期間 (春季休業)		
第1クォーター 授業期間			第2クォーター 授業期間			第3クォーター 授業期間			第4クォーター 授業期間		
						i O P					

※iOPは原則として3年次の第3クォーター（夏季休業を含む）に学外等において活動するものです。

※基盤教育科目「ライフデザイン」（3年次前学期必修（地域未来共創学環は除く））は、iOPをつなぐ科目として位置づけられています。iOP実施に向けて、この科目で学んだことを活用してください。

※地域未来共創学環では、3年次の第3クォーターに専門科目である「コーオペ実習Ⅰ」（必修）を履修するため、他の学部学生とはこの期間の過ごし方が異なります。iOPを行う場合は、「コーオペ実習Ⅰ」との両立が必要となるので学生担任に相談してください。

1-7 授業時間

授業時間は105分を一講時とし、次のように各講時の授業時間を定めています。

表3 授業時間

講 時	開始時刻 ~ 終了時刻
第1講時	8:40 ~ 10:25
第2講時	10:35 ~ 12:20
(昼 休 み / 12:20 ~ 13:10)	
第3講時	13:10 ~ 14:55
第4講時	15:05 ~ 16:50
第5講時	17:00 ~ 18:45

1-8 授業実施方法

(1) 授業の実施形態

本学の授業は、対面授業を原則としつつ、教育効果や科目の性質等を勘案し、オンラインによる遠隔授業等も取り入れて行います。実施形態は次のいずれかの方法によります。

- 1) 対面授業：キャンパス内の同一教室等において対面で実施する授業
- 2) オンライン授業（リアルタイム配信型）：Teamsなどを利用して授業をリアルタイム配信する同時双方向型オンライン授業
- 3) オンライン授業（オンデマンド型）：manabaなどにアップされた教材や指示書を学生が各自受講後、速やかに質問などを受け付けるオンデマンド型オンライン授業
- 4) ハイフレックス型：授業対面授業を実施しながら、Teamsなどを利用して当該対面授業をリアルタイム配信し、対面で受講する学生、オンラインで受講する学生をあらかじめ指定して実施する授業

各授業科目の実施形態はシラバス及び授業担当教員から案内されます。シラバスの実施形態の欄には、当該授業の上記の実施形態が示されています。なお、対面とオンラインが混在する科目や、実施形態が適宜変更される場合がありますので、シラバス及び各授業担当教員の案内に従ってください。

(2) 遠隔授業受講上の注意【重要】

本学で実施する遠隔授業の受講にあたっては、以下の「遠隔授業受講にあたっての行動規範」、「情報倫理に反する行為事例」、「遠隔授業をTeamsで受講する場合の注意点」の3点に留意してください。

また、オンラインによる試験や課題・レポート等の作成・提出あるいは出欠確認などにおいて不正を行った場合には、対面時と同様に処分の対象となります。

○遠隔授業の受講にあたっての行動規範

本学で実施する遠隔授業の受講にあたっては、以下のような授業妨害（遠隔授業に対する不正アクセスや不適切行為）やプライバシー侵害を招く恐れのある行為は、情報倫理に反する行為に該当します。

皆様は、入学時に「情報セキュリティポリシーの把握」及び「情報セキュリティ関係規則等順守の誓約書」を提出しています。これらに反した場合には懲戒処分の対象となりますので、各自、十分留意の上、受講してください。

○【情報倫理に反する行為の例】

- ① 茨城大学認証IDのパスワードを第三者と共有すること
- ② 他人の茨城大学認証ID、パスワード、メールアドレス、電話番号等の個人情報を本人の許可なく取得し、利用（第三者との共有を含む）すること
- ③ 授業の様子、個人の画像・映像・音声を許可なく撮影、画面キャプチャ、録音、録画を含む）すること
- ④ 授業で配付された資料等を、担当教員の許可なくSNS等で公開すること
- ⑤ その他遠隔授業の正常な進行を故意に妨げること

○遠隔授業をTeamsで受講する場合の注意点

- ① オンライン開始時は基本的に、カメラオフ、マイクオフでスタートしてください。
- ② 遠隔授業の様子を許可なく撮影、画面キャプチャ、録音、録画しないでください。
- ③ 教員の指示でカメラオンにする場合には、背景画像を設定することもできます。ただしオンライン試験等で解除を指示された場合には従ってください。

○Teams利用上の注意点

- ・ 面識のない教職員、学生から通話が来た場合には、応答する必要はありません。
- ・ 面識のない相手からの通話にやむをえず応答する場合には、「音声のみ」で応答してください。
- ・ 不審な着信が続くなど心配なことがあれば、ご自身の所属学部等に申し出てください。すぐに調査します。

（3）授業関連システム

本学では、以下3つの授業関連システムが運用されています。それぞれのシステム上に必要な情報が掲載されますので、下記を参考に大学からのメール等と併せて確認してください。

1) 教務情報ポータルシステム

シラバス閲覧、授業の履修登録、休講・補講・教室変更の連絡、成績の確認、授業アンケートなどの各種アンケート、大学からの各種お知らせの確認等で使用します。確認しなかったため必要な手続きを怠り履修等に関して不利益を被ることのないよう、毎日ログインして確認する習慣をつけ、最新の情報を正確に把握するようにしてください。

○PC・モバイル用アドレス <https://csweb.ibaraki.ac.jp/campusweb/>
茨城大学ホームページからアクセスする場合
茨城大学HP⇒ 教務情報ポータル等⇒ 教務情報ポータル



2) manaba

授業の資料閲覧、小テストやレポートの提出、授業毎の各種連絡、授業内で行う各種アンケート等で使用します。教務情報ポータルシステムと同様に学生生活で大変重要です。

○PC・モバイル用アドレス <https://manaba.ibaraki.ac.jp/>
茨城大学ホームページからアクセスする場合
茨城大学HP⇒ 教務情報ポータル等⇒ manaba



3) Teams

リアルタイム配信型のオンライン授業で利用される、オンライン会議ツールです。Teamsを利用する授業の場合は、履修登録後に授業担当教員から周知されたチームコードにより、チームに参加します。

1-9 試験期間・予備日・振替曜日

(1) 試験期間

茨城大学では、通常の授業日程とは別に試験期間を設けています。試験期間は、各クォーター末に設定されており、試験のない授業では補講に活用することもあります。

試験期間については、スチューデントサクセスセンターホームページの「履修カレンダー」を参照してください。

(2) 予備日

茨城大学では、通常の授業日程とは別に、**補講を実施するための日**として、各クォーターに「予備日」を設けています。予備日は、基本的には各クォーターの試験期間と同日程で組まれますが、それ以外の平日等に1日程度設定することもあります。予備日は、原則として補講に活用する日としていますが、履修学生と十分な調整を図ったうえで、補講等を実施できることとしており、予備日以外で補講を実施することもあります。予備日については、スチューデントサクセスセンターホームページの「履修カレンダー」を参照してください。

(3) 振替曜日

茨城大学では、各曜日の授業終了日を揃えるように各学期の授業期間を設定しています。特にクォーターの授業は、各曜日7週の期間で実施されるため、次のクォーターへスムーズに移行する必要があります。そのため、必要に応じて、本来の曜日とは異なる曜日の時間割で授業を実施する「振替曜日」を設定することがあります。

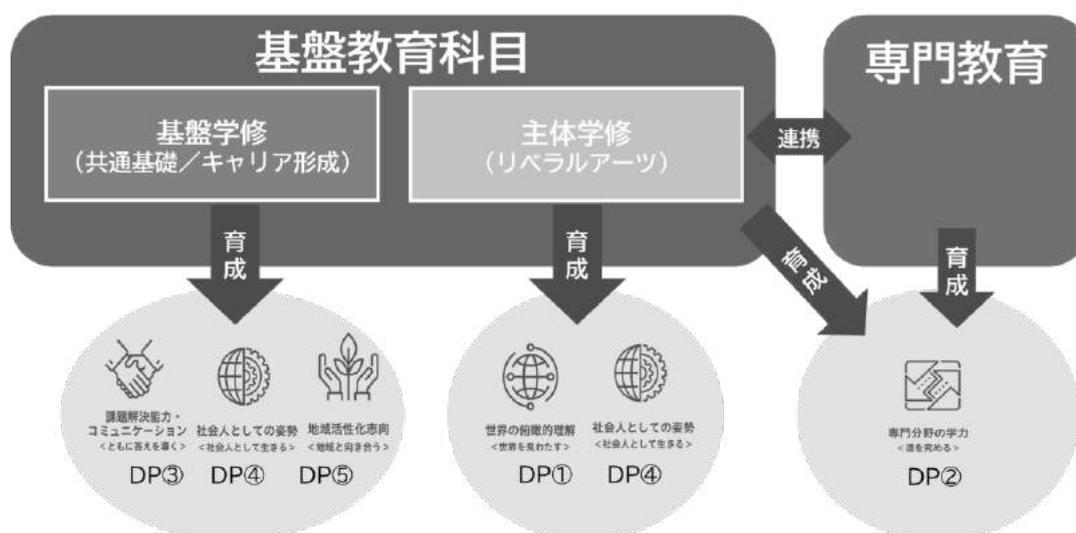
振替曜日については、学年暦及び「履修カレンダー」を参照してください。

2 基盤教育科目の履修

2-1 基盤教育の目標

基盤教育科目では、大学共通教育の中心としてディプロマ・ポリシー（本冊子巻頭を参照。以下「DP」と略します）で定めた5つの能力を全学共通に育成します。

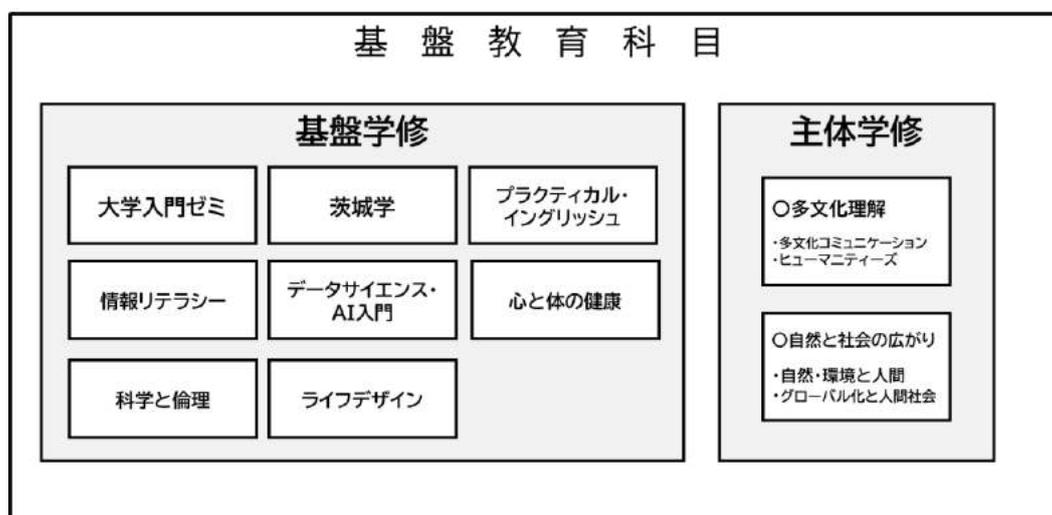
具体的には、「基盤学修」では、DP③（課題解決能力・コミュニケーション力）DP④（社会人としての姿勢）、DP⑤（地域活性化志向）の能力をとりわけ育成します。「主体学修」はDP①（世界の俯瞰的理解）、DP④（社会人としての姿勢）の能力をとりわけ育成します。また、すべての基盤教育科目は、専門教育と連携してDP②（専門分野の学力）の能力育成を担います。



特に、大学教育における初年次教育の重要性に鑑み、学生が学修を続けるために必要な基礎的な知識と技能を修得させること、及び学生が主体的に問題を発見し、解を見い出していく能動的学修への導き入れに力を注ぎます。

2-2 基盤教育科目の概要

基盤教育科目は次のように「基盤学修」「主体学修」の2つに区分されています。さらに、これらの科目群はそれぞれ各科目区分に細分され、それぞれに以下の修得目標や内容を備えています。なお、各授業の内容については、シラバス（Web）を参照してください。



基盤教育科目の構成

基盤教育科目で開講される授業は次の表のとおりです。

科目群	科目区分	授業科目	授業科目（英訳）	開講形態	1科目あたり		授業形態	
					授業回数	単位数		
基盤学修（共通基礎／キャリア形成）	大学入門ゼミ	大学入門ゼミ	University Introductory Seminar	セメスター	13	2	演習	
	茨城学	茨城学	Ibaraki Studies	クォーター	7	1	講義	
	プラクティカル・イングリッシュ	Integrated English 1A・2A・3A			セメスター	13	1	演習
		Integrated English 1B・2B・3B			セメスター	13	1	演習
		Integrated English 1C・2C・3C			セメスター	13	1	演習
		Integrated English 1D・2D・3D			セメスター	13	1	演習
	情報リテラシー	情報リテラシー	Information Literacy	セメスター	13	2	講義	
	データサイエンス・AI入門	データサイエンス・AI入門	Introduction to Data Science & AI	セメスター	13	2	講義	
	心と体の健康	身体活動	Physical Activities	セメスター	13	1	実技	
	科学と倫理	科学と倫理	Ethics in Science	クォーター	7	1	講義	
ライフデザイン	ライフデザイン	Life Design	クォーター	7	1	講義		
主体学修（リベラルアーツ）	多文化コミュニケーション	初修外国語	ドイツ語入門	Introductory German	セメスター	13	1	演習
			フランス語入門	Introductory French	セメスター	13	1	演習
			中国語入門	Introductory Chinese	セメスター	13	1	演習
			朝鮮語入門	Introductory Korean	セメスター	13	1	演習
			スペイン語入門	Introductory Spanish	セメスター	13	1	演習
			学術日本語Ⅰ・ⅡA・ⅡB・ⅡC	Academic Japanese I・IIA・IIB・IIC	セメスター	13	1	演習
	多文化理解	共生とコミュニケーション	Living together in culturally diverse societies	クォーター	7	1	講義	
		パフォーマンス&アート	Performance and Art	クォーター	7	1	演習	
	ヒューマニティーズ	思想・文学	Thought and Literature	クォーター	7	1	講義	
		歴史・考古学	History and Archaeology	クォーター	7	1	講義	
		人間科学	Human science	クォーター	7	1	講義	
		メディア文化	Media culture	クォーター	7	1	講義	
	自然と社会の広がり	自然・環境と人間	物質と生命	Substance and Life	クォーター	7	1	講義
			技術と社会	Technology and Society	クォーター	7	1	講義
環境と人間			Environment and Human	クォーター	7	1	講義	
グローバル化と人間社会		法律・政治	Law and Politics	クォーター	7	1	講義	
		経済・経営	Economics and Management	クォーター	7	1	講義	
		日本国憲法	Japanese Constitutional Law	クォーター	7	1	講義	
		公共社会	Public society	クォーター	7	1	講義	
		グローバル・スタディーズ	Global Studies	クォーター	7	1	講義	

(1) 基盤学修（共通基礎／キャリア形成）

大学での学修・生活に必要な事柄を学び、本学で学ぶことへの意欲と地域への関心を高めるとともに、大学での学修に不可欠な基礎的な能力を身に付けることを目的とする科目です。

[大学入門ゼミ]

初年次教育の一環として、茨城大学での学修への導入を図ります。すなわち、大学入学直後の時期において、学生が、自由な環境の中で自律的・意欲的な学生生活を行うための知識・技能を獲得し、専門分野の学修における思考力・判断力・表現力を養い、研究上の倫理の重要性を理解し、主体的な学修の習慣を身につけます。

DPとの関係	育成する力
<ul style="list-style-type: none"> ・ DP①  ・ DP③  ・ DP④  	<p>本科目では、以下の4つを育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自律的な学生生活を行う意欲と主体性 ・ 自らの専門分野（学部・学科等）に関する幅広い知識と俯瞰的な理解の基盤 ・ 協働的な課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤 ・ 大学生、社会人として身につけるべき研究倫理の基盤

[茨城学]

茨城県の自然・地理・産業・歴史・文化などの学修を通して、茨城についての理解を深めると同時に、茨城の事例を他の地域と比較することで、地域を多角的にグローバルに捉える視点を養います。

DPとの関係	育成する力
<ul style="list-style-type: none"> ・ DP③  ・ DP④  ・ DP⑤  	<p>本科目では、課題解決のための思考力、多様な人々とのコミュニケーション力、社会の発展に貢献できる意欲、茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性を涵養する。</p>

[プラクティカル・イングリッシュ]

「英語を学ぶことによって、グローバルな視野を持ち、考え、行動し、多様な人々と協働できる人間を育成する」ことを理念とし、グローバル化が進む地域や職域において、世界の多様な人々と協働して課題解決していくための、実践的コミュニケーション能力、すなわち、国際共通語としての英語のコミュニケーション能力を育成します。

DPとの関係	育成する力
<ul style="list-style-type: none"> ・ DP①  ・ DP③  	<p>本科目では、英語を通じて以下の態度・能力を育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会、多種多様な文化に対する知識と俯瞰的視野 ・ さまざまな情報やものの考え方に触れ、より総合的・全体的に物事を捉える態度 ・ 広く情報を得ることにより、実証的な態度や物事を主体的に判断する能力 ・ 専攻する学問と自然、社会および人間のかかわりについての考えを養うための基礎的な英語のスキル ・ 国際化・情報化の社会や職域において主体的に対応し協働できる言語的・社会的能力

[情報リテラシー]

AI・データサイエンス・IoTを前提とした社会を迎えるにあたり、その素養を身に着けておくことは、新たな価値の主體的な活用にもつながります。このような観点に立ち、メールの活用、情報収集、アウトプット方法を自身の持つコンピュータを利用した演習を通して学ぶ「情報リテラシー」「データリテラシー」、情報セキュリティなどの情報に関する倫理を「法的リテラシー」とした3つのリテラシーにてバランスよく身につけます。

DPとの関係	育成する力
・ DP③ 	本科目では、情報を整理する力（インプットスキル）と分かりやすい文書にする力（アウトプットスキル）を育成する。また、正しい情報倫理に従ったコンピュータの活用能力、自身の持つ情報機器の操作能力も育成する。

[データサイエンス・AI入門]

社会への普及が急速に広がるAIやIoTを有効利用していくために、これまで必要とされてきた情報機器の操作能力や活用能力などに加え、AIおよびデータサイエンスに関する知識や技術も必要となってきました。本科目では、文理を問わずAIに関する基礎知識や活用事例を学ぶと共に、セキュリティやプライバシーに関する理解を深めることで、安全かつ適切にデータを利活用できるような数理データサイエンスの基礎的能力を身に付けます。

DPとの関係	育成する力
・ DP① 	インターネットは国境を越えたサービスであり、AIやIoTを利用したデータ収集及びデータ分析は、国内外を問わず様々な分野の問題解決に向けて利用されている。こうした現状において、専門分野を問わずAI及びデータサイエンスの基本的能力を身に付ける。また、正しい倫理観のもと安全にデータの利活用が行えるように、セキュリティ及びプライバシーの理解を深める。
・ DP③ 	
・ DP④ 	

[心と体の健康]

身体および心理に関する理論を学び実践することで、心身の調和を図り、健康・体力を保持増進し、生涯にわたり健康的で豊かな生活を設計するために必要な基本的技能や知識を修得します。また、運動やスポーツを通じて人間や自然とのコミュニケーションを深めます。

DPとの関係	育成する力
・ DP③ 	生涯にわたり、健康的な生活を多様な人々と共同して営むための基盤を育成する。そのために、自分の心身の状態への気づき、および他者との関係を把握するための基礎力を修得させる。また、自分の心身の課題を把握し、主体的に解決するための能力を育成する。そして、大学全体が掲げる「たくましい茨大生」の育成に資する。
・ DP④ 	

[科学と倫理]

科学の発展は人々に多くの幸福をもたらしてきました。しかし、人間社会は科学の発展に伴う数多くの問題にもさらされています。これら人類が直面する課題や、その解決方法は、すべての人々が考えるべきことです。この授業では、多様な側面から科学と倫理に関する問題を俯瞰し、我々が果たすべき役割を考えます。

DPとの関係	育成する力
<ul style="list-style-type: none"> ・ DP①  ・ DP③  ・ DP④  	世界の多様な文化・価値観に基づく科学に対する考えや、立場の違いにおける科学に対する考え方を学ぶことにより、科学と倫理について考える力を醸成する。

【ライフデザイン】

グローバル化の進展で激変する国際・地域社会に即応して未来を切り拓く、逞しい茨大生の育成のため、社会に出るまでの助走期間に当たる3年生時に、就職活動なども念頭に、大学時代に体得しておくべき最低限の社会の常識、知識、マナー、多様な文化や価値観などを学び、倫理観や総合的判断力を身につけるほか、自らの将来について思いをめぐらし、地域はもちろん、海外など働く可能性を含めた今後の主体的な生き方を設計します。

DPとの関係	育成する力
<ul style="list-style-type: none"> ・ DP①  ・ DP④  ・ DP⑤  	社会に出て活躍できる能力を身に付ける。働く意義を理解し、自らの将来に思いをめぐらし、今後の主体的な生き方を設計できる能力の基礎をつくる。学外学修の計画を立て、大学での学びを活かす。

(2) 主体学修（リベラルアーツ）

世界の広さ、多様性を様々な観点から学ぶことで、グローバル社会の中で自由かつ主体的に生きる力を身に付けることを目的とする科目です。幅広い分野をその目的に応じて系統立てた科目群により構成し、また、喫緊の社会課題や本学が特色とする学問等からなる横断的・融合的な科目を配置することにより、学生の興味関心に沿った文理横断的な学修を促進し、広い視野、複眼的な視点を養います。

○ 多文化理解

【多文化コミュニケーション】

身近な生活や社会、職域等において、グローバル化が今後ますます進むことが予想される状況に鑑み、異なる文化を持つ人々との協働を可能にするコミュニケーション能力に必要な知識やスキルを身につけます。コミュニケーション能力には、異なる文化についての多様な知識、異なるライフステージや性別などに対する理解、芸術表現の受容・発信能力、英語以外の言語（初修外国語）の運用能力が含まれます。

【共生とコミュニケーション】

様々な種類の異文化に対する知識を身につけるとともに、各個人がそれぞれ有している性別・ライフステージ・価値観・環境などの相違や多様性、抱えている障害・格差などの問題について理解し、他者との共生に必要なコミュニケーション能力を身につけます。

【パフォーマンス&アート】

表現活動に関する学習を通して人間活動の多様性と奥深さを理解し、作品などから発せられるメッセージを感知する能力を養う。また、自ら表現する能力の基礎を身につけ、他者との共通点や相違点に着目することにより、スポーツや芸術を媒介としたコミュニケーション能力を高めます。

【初修外国語】

様々な地域や職域において、グローバル化が今後ますます進むことが予想される状況に鑑み、英語以外の言語（初修外国語）の運用能力を身につけます。また留学生の日本語運用能力を向上させるため「学術日本語」を開講します。

DPとの関係	育成する力
<ul style="list-style-type: none"> ・ DP①  ・ DP③  ・ DP④  	<p>世界に住む多様な人々の様々な価値観を認識することにより、世界を幅広く俯瞰的にとらえる力、また、課題解決のためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【共生とコミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界に住む多様な人々の様々な価値観を認識することにより、世界を幅広く俯瞰的にとらえる力を身につける。 ・多様な価値観の存在を理解した上で様々な人と協働し課題解決するためのコミュニケーション力、思考力・判断力・表現力の基盤を身につける。 <p>【パフォーマンス&アート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ、音楽、美術などによる表現方法を学び実践することで、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解を身につける。 ・他者が伝えようとしていることを感じ取る力と、自らの意思を他者に伝える表現力を身につける。 <p>【初修外国語】</p> <p>各言語・科目ごとに以下の到達目標を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語入門：初歩的なドイツ語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得する。 ・フランス語入門：初歩的なフランス語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や規則動詞の現在時制などを修得する。 ・中国語入門：初歩的な中国語をおおむね理解し、聞き、話すことができるようになるため、ピンイン（表音ローマ字）を正しく読めて綴れる、単語約500語を簡体字で書けるなどの技能を修得する。 ・朝鮮語入門：初歩的な朝鮮語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、朝鮮語の文字と発音及び初歩的な文法や会話を学び、指定詞・存在詞の語尾変化を修得する。 ・スペイン語入門：初歩的なスペイン語をおおむね理解し、聞き、話すことができるよう、発音の原則や直説法現在形の規則動詞などを修得する。 ・学術日本語Ⅰ：論理的な文章を読むための読解技術、講義理解を促進する方略、学術的な表現・語彙など、学術日本語の基礎能力とスキルを総合的に修得する。 ・学術日本語ⅡA：大学での学修に必要な学術的な日本語能力を総合的に修得する。 ・学術日本語ⅡB：論文などの学術文書を分析的に読む読解力、学術的な内容の講義が理解できる聴解力、論理的な自己表現力を修得する。 ・学術日本語ⅡC：適切な表現を用いた効果的なプレゼンテーションや学術的な内容のディスカッションを行うなど大学での学修に必要な日本語の表現力と表現技術を修得する。

【ヒューマニティーズ】

古来、多様な形で形成されてきた人間とその活動についての問いとそれへの答えの集積、およびその現代的な姿について、広い知識と俯瞰的な理解を育みます。人間の生命の神秘と知の多様性、奥深さを知ることを主眼とし、人間更にはその知的活動により形成される文化に対する理解を深めることに力点を置きます。

【思想・文学】

古今東西の哲学、思想、文学などを通じて、古来より積み重ねられてきた人間の思考や論理、言葉による作品について学びます。

【歴史・考古学】

日本及び世界の歴史、考古学、文化財などを通じて、遠い過去から現在に至る人間の歩みについて学びます。

【人間科学】

医学、心理学、文化人類学などを通じて人間の内的・外的特徴について科学的視点から学びます。

【メディア文化】

様々なメディアに囲まれた現代社会における人間のあり方と、そこに生まれる文化について学びます。

DPとの関係	育成する力
<p>・ DP① </p> <p>・ DP③ </p>	<p>人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解、また、古来より蓄積されてきた叡智を踏まえ、現代社会において直面する様々な問題を解決するための思考力・判断力・表現力を養う。</p> <p>【思想・文学】 思想、文学、あるいはそれらが表現される言葉を学ぶことによって、人間の思考や感情、ならびに作品が生み出される背景となる文化や歴史について自分なりの観点から考察し、それらを他者と共有可能な文章としてまとめる力を身につける。</p> <p>【歴史・考古学】 多様な歴史資料やそれらを用いて歴史を復元する過程や方法について学ぶことを通して、国内外の社会の変容をふまえ、人間と社会の歩みを構造的かつ体系的に理解することができる力を身につける。</p> <p>【人間科学】 心理学や文化人類学などの基礎的概念に基づき、人間を社会・環境との関係の中で分析する手法を学ぶことによって、人間の心理や行動の仕組み、人間関係、文明について各学問分野の専門的知見を用いて説明するための力を身につける。</p> <p>【メディア文化】 メディアと社会および自己と他者や世界との関係のあり方を学ぶことによって、それらを俯瞰的に理解するとともに、現代のメディアを論理的・批判的に考察し、有効に利用できる力を身につける。</p>

○ 自然と社会の広がり

[自然・環境と人間]

自然に対する人類の捉え方や関連する基礎科学が、どのように発展し、その結果として、科学技術や人間社会にどのように利用・応用されてきたかを理解します。また、技術革新がどのように人間社会を進展させていったかに関する幅広い知見、および自然・環境に配慮した持続可能な社会を作る上で必要となる幅広い視野を育成します。

【物質と生命】

純朴な自然への知的好奇心から、基礎科学は発展してきました。「物質と生命」では、自然に対する人類の捉え方や関連する基礎科学が、どのように発展し、その結果として、科学技術や人間社会にどのように利用・応用されてきたかを理解する。また、自然科学と周辺の学問の発展を学ぶことで、自然や係わる基礎科学への幅広い知見とともに、基礎科学から他の幅広い分野への応用に対する理解を養うことに重点を置きます。

【技術と社会】

自然科学の発達とそれを基礎とした技術革新により、人間による経済活動がかつて無いほどの広がりを見せています。過去から現在までの技術革新の基盤となる基礎科学を学び、関連する経済・社会活動の拡大について理解し、技術革新がどのように人間社会を進展させていったかに関する幅広い知見の修得を目指します。

【環境と人間】

技術革新や経済活動の拡大は、人間の生活を豊かにすると同時に、人間を取り巻く環境を大幅に改変し、地球温暖化や海洋汚染に代表される人間にとって負の側面を持つ問題を引き起こしています。「環境と人間」では、自然・環境と科学技術・社会・人間との関わり合いについて、科学的知見に基づきグローバルな視点から考察し、自然・環境に配慮した持続可能な社会を作る上で必要となる幅広い視野を育成します。

DPとの関係	育成する力
・ DP① 	科学技術と自然・環境および人間との関わりについてグローバルな視点から考察し、現在人間をとりまく社会や環境における様々な課題を解決するための基礎的な力を育成する。
・ DP③ 	
・ DP④ 	
	【物質と生命】 自然に対する人類の捉え方、関連する基礎科学がどのように発展し、利用・応用されてきたかを理解し、自然科学と周辺の学問の発展を学ぶことで、自然や関連する基礎科学、それらが応用された多くの分野同士の学問的なつながりを修めることで、自然や基礎科学から出発する横断的な知見の修得を目指す。
	【技術と社会】 過去から現在までの技術革新の基盤となる基礎科学を学び、関連する経済・社会活動の拡大について理解し、技術革新がどのように人間社会を進展させていったかについて基礎的な知見の修得とその延長にある技術と社会の発展について考察する力の育成を目指す。
	【環境と人間】 環境および人間との関わりについてグローバルな視点から考察し、現在人間をとりまく社会や環境における様々な課題を解決するための基礎的な力を育成する。

[グローバル化と人間社会]

急速にグローバル化しつつある現代社会と、地域社会の持続可能性が課題となっていることに鑑み、社会科学の視点・方法を用いて社会の仕組みや特徴等を解説し、現代社会および地域社会に対する問題意識を深めます。

【法律・政治】

人間社会は、法律や政治によって秩序を維持してきました。この秩序が成立する諸条件を解説し、時代や地域ごとの法律改正や政治変遷から秩序の変化への理解を促します。こうした学習を通して、法律や政治の視点から人間社会を理解し、諸課題へ対処する思考を深めます。

【経済・経営】

人間社会は、世界規模で経済や経営によって秩序のあり方を左右しています。この秩序が成立する諸条件を解説し、時代や地域ごとの経済や組織ごとの経営から秩序に与える影響の理解を促します。こうした学習を通して、経済や経営の視点から人間社会を理解し、諸課題へ対処する思考を深めます。

【日本国憲法】

人間社会の中には、憲法によって秩序を維持してきた地域が存在します。この秩序が成立する諸条件を解説し、時代ごとの憲法やその解釈から秩序の変化への理解を促します。こうした学習を通して、憲法の視点から人間社会を理解し、諸課題へ対処する思考を深めます。

【公共社会】

人間社会は、公共の存在によって秩序を維持してきました。この秩序が成立する諸条件を解説し、時代や地域ごとの公共のあり方や維持の方法から秩序への理解を促します。こうした学習を通して、公共社会の視点からグローバル化が進む人間社会を理解し、諸課題へ対処する思考を深めます。

【グローバル・スタディーズ】

人間社会は、グローバリゼーションによって秩序が変化しつつあります。この秩序の変化をどのように分析できるのか解説し、時代や地域ごとの価値観の変化や文化衝突から秩序の変化への理解を促します。こうした学習を通してグローバルな視点から人間社会を理解し、諸課題へ対処する思考を深めます。

DPとの関係	育成する力
・ DP① 	本科目は、グローバル化しつつある社会に対する理解を深め、地域社会の諸課題の理解と改善提案に主体的に取り組み、社会科学の基礎学力、思考力、判断力、表現力を育成し、ミクロレベル・マクロレベルの両面から課題解決する能力の基盤を育む。
・ DP② 	
・ DP④ 	
	【法律・政治】 法律や政治が人間社会を成立させている側面を理解し、法学や政治学の基礎学力、思考力、判断力、表現力を育成することにより、身近な事例と俯瞰的な理解が接続していることを表現できる能力の基盤を育む。
	【経済・経営】 グローバル化が進行する経済社会に対する理解を深め、経済や経営が人間社会を成立させている側面を理解し、経済学や経営学の基礎学力、思考力、判断力、表現力を育成し、身近な事例と俯瞰的な理解が接続していることを表現できる能力の基盤を育む。

	<p>【日本国憲法】</p> <p>憲法が人間社会を成立させている側面を理解し、憲法学や人権解釈の基礎学力、思考力、判断力、表現力を育成し、身近な事例と俯瞰的な理解が接続していることを表現できる能力の基盤を育む。</p> <p>【公共社会】</p> <p>グローバル化下の公共社会に対する理解を深め、公共社会が人間社会を成立させている側面を理解し、社会学や地理学等の基礎学力、思考力、判断力、表現力を育成し、身近な事例と俯瞰的な理解が接続していることを表現できる能力の基盤を育む。</p> <p>【グローバル・スタディーズ】</p> <p>国際社会の事例に対する理解を深め、グローバル化が人間社会を成立させている側面を理解し、多文化理解や文化衝突の分析における専門分野の役割理解から、基礎学力、思考力、判断力、表現力を育成し、身近な事例と俯瞰的な理解が接続していることを表現できる能力の基盤を育む。</p>
--	---

2-3 基盤教育科目の履修上の一般的注意

茨城大学における卒業に必要な単位数は、表2 各学部等の卒業に必要な単位数（履修基準）（p.3）に示しました。1年次から、基盤教育科目のほかに専門科目も開講されます。履修計画をしっかりと立てて履修してください。令和6年度に開講される基盤教育科目は、「令和6年度大学共通教育開講授業科目一覧」を参照してください。なお、専門科目については、それぞれの学部等の履修要項などを参照し、必修科目・履修年次等を確認してください。また、教育職員免許状の取得を希望する学生は、本節（17）（p.27～）を参照してください。

(1) 「大学入門ゼミ」の履修上の注意

- ア) 全学部等とも、2単位必修です。2単位を超えて履修することはできません。
- イ) 全学部等とも、1年次前学期に履修します。各学部等・学科（課程）等の指示に従い、開講授業科目一覧の「指定学部クラス等」で指定されたクラスで履修してください。
- ウ) 全学共通部分（最低4回）と学部等独自部分で構成されています。全学共通部分は、共通テキスト「茨城大学での学修の手引き」を使用します。

(2) 「茨城学」の履修上の注意

- ア) 全学部等とも、1単位必修です。1単位を超えて履修することはできません。
- イ) 全学部等とも、1年次の第2クォーターに履修します。
- ウ) 地域志向教育プログラム（p.67）の修了要件の1つとなっています。

(3) 「プラクティカル・イングリッシュ」の履修上の注意

○ Integrated English (IE)の履修

Integrated English(IE)の授業は、入学時の英語学力 (TOEICにより判定) により「1」、「2」、「3」にクラス分けし、習熟度別を実施します。

IEは、対面授業 (週2回) と最低週1回のコンピュータ等による自律的学修からなります。各IE授業では、到達目標を共有し、共通の教材・シラバスを用いて授業を行い、共通の評価基準に基づいて成績評価を行います。

また、TOEIC(IP)一斉テストを1年次12月に実施します。このTOEIC(IP)一斉テストの成績は、後学期IEの成績の20%分として組み込まれます。



～履修上の注意～

ア) 全学部等とも、合計4単位が必修です。

同一授業科目名を重複して単位修得することはできません。

イ) 1年次にIE (4単位) を履修します。

[1年次前学期]

習熟度 (入学時に実施するTOEICのスコア) によってクラス分けを行い、「Integrated English 1A～3A」 (1単位)、「Integrated English 1B～3B」 (1単位) を指定のクラスで履修します。

[1年次後学期]

前学期のクラス分けを引き継ぎ、「Integrated English 1C～3C」 (1単位)、「Integrated English 1D～3D」 (1単位) を履修します。前学期に1を履修していた学生は1を、2を履修していた学生は2を、3を履修していた学生は3を履修します。

[2年次以降]

1年次のIE履修により自律的英語学習習慣を身につけた後は、ALC Net Academy NEXTを活用した自律的学修やグローバルコミュニケーションプログラムの履修など各自の習熟度に応じた英語学修を通して、英語力を強化し、3年次前学期に自身の学力の確認としてTOEICを受験します。

(4) 「情報リテラシー」の履修上の注意

ア) 全学部等とも、2単位必修です。2単位を超えて履修することはできません。

イ) 全学部等とも、1年次前学期に履修します。学部等・学科 (課程) 、又は習熟度別クラス等により指定された曜日・講時に履修してください。クラス分け等については、学部等別ガイダンスでの説明や掲示等の指示に従ってください。

(5) 「データサイエンス・AI入門」の履修上の注意

ア) 全学部等とも、2単位必修です。2単位を超えて履修することはできません。

イ) 全学部等とも、1年次後学期に履修します。学部等・学科 (課程) 等により指定された曜日・講時に履修してください。

(6) 「心と体の健康」の履修上の注意

ア) 「身体活動」は、ガイダンス後に履修希望調査をWebで行い、クラスの調整を行います。どの授業科目を履修するかはガイダンス後に発表されます。活動場所に相応しいクラス定員とするため、全員が希望通りに配属されない場合があります。あらかじめご了承ください。なお、決定した授業科目の履修登録は学生が行う必要はありません。ガイダンスは履修種目にかかわらず1回目の授業となりますので、**後学期開講の授業を履修したい場合にも、4月に行われるガイダンスに出席**しなければなりません。

このガイダンスについては、あらかじめ“茨城大学ホームページ”で案内していますので、日時（曜日・講時）、実施方法等をよく確認し、全員、必ず出席してください。ガイダンスを欠席した場合は希望する授業科目の履修ができなくなります。

2年次に履修する場合も2年次4月にガイダンスが実施されます。工学部及び農学部の2年次のクラス分けは、各キャンパスで行われます。

イ) 学部等・学科（課程）等により定められた曜日・講時のクラスで履修することになっていますので、開講授業科目一覧の「指定学部クラス等」に従ってください。

ウ) 「身体活動」は、教育学部の学生は2単位必修、教育学部以外の学生は1単位必修です。教育学部以外の学生が「身体活動」1単位を超えて修得した場合、その単位は選択履修（選択履修の所定単位を超えた場合は自由履修）の単位に算入されます。

エ) 「身体活動」は、必ず1年次から履修してください。**原則として1年に1科目しか履修できません。**

オ) 「身体活動」では以下の授業群を設定し、学生のニーズに合わせて選択してもらうことにしています。ただし、希望者多数の場合は必ずしも希望する授業を履修できないことがあります。

チームスポーツ	比較的大人数のチームを形成し、自分の身体や友人とコミュニケーションを深めながら、運動技能の向上、心身の健康や体力を保持増進するための実践力を養う。
個人スポーツ	個人、ペア、あるいは少人数のチームを形成し、自分の身体や友人とコミュニケーションを図るための知識や技能を習得し、運動技能の向上、心身の健康や体力の保持増進に役立てられるようにする。
コンディショニング	心身のバランスを整えることを通して、自分の心身の課題に気づき、その課題解決のための知識や技能、思考力や判断力を養い、体調の維持や、健康・体力の保持増進に役立てられるようにする。

※ 障害を有する等で「身体活動」の種目選択に特別な配慮が必要な学生は、ガイダンス後に行う履修希望調査においてその旨回答してください。原則として、クラス分け後のクラスの変更は認められません。

キ) 単位を修得するためには、総授業時間数の4分の3以上出席し、かつ授業で提示された課題に取り組む必要があります。

ク) 1年次開講の「身体活動」では「心と体の健康・スポーツ」（大修館書店）を教科書として指定していますので必ず購入してください。また、履修する授業のシラバスを確認してください。

(7) 「科学と倫理」の履修上の注意

ア) 全学部等（人文社会科学部を除く）とも1単位必修です。1単位を超えて履修することはできません。

イ) 全学部等（人文社会科学部を除く）とも、1年次第1クォーターに履修します。学部等・学科（課程）等により指定された曜日・講時に履修してください。

(8) 「ライフデザイン」の履修上の注意

- ア) 全学部（地域未来共創学環を除く）とも、1単位必修です。1単位を超えて履修することはできません。
- イ) 全学部（地域未来共創学環を除く）とも、3年次に指定されたクラスで履修します。

(9) 多文化理解：「多文化コミュニケーション」の履修上の注意

～「多文化コミュニケーション科目」の履修上の注意～

- ア) 同一学期に、「多文化コミュニケーション科目」を2単位履修することはできません。
- イ) 地域未来共創学環の学生は「多文化コミュニケーション科目」から必ず1単位を修得しなければなりません。
- ウ) 「多文化コミュニケーション科目」の履修については、前学期中に履修希望調査（事前申告）を行い、調査に基づいて抽選によってクラス分けをします。
- エ) 履修希望調査においては、「初修外国語」科目と「共生とコミュニケーション」、「パフォーマンス&アート」からどの科目を履修するか選択することとなります。履修希望調査の実施方法については、教務情報ポータルシステムのお知らせにより案内します。

～「初修外国語科目」の履修上の注意～

「初修外国語科目」の開講学期及び対象とする学部等は以下のとおりです。

科目	開講学期	対象
「ドイツ語入門」「フランス語入門」「中国語入門」 「朝鮮語入門」「スペイン語入門」	1年次後学期 (各1単位：週1回授業)	全学部等
「学術日本語Ⅰ」／「学術日本語ⅡA・B・C」	1年次前学期／後学期 (各1単位：週1回授業)	外国人留学生

「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「朝鮮語」「スペイン語」の履修上の注意

- ア) 同一言語において同一授業科目名（「〇〇語入門」）を重複して単位修得することはできません。
- イ) 人文社会科学部人間文化学科の学生は「〇〇語入門」を1年次に履修することはできません。履修を希望する場合は、2年次以降に履修してください。

「学術日本語」の履修上の注意

- ア) 「学術日本語」は、大学における教育・研究活動に必要な日本語能力を修得することを目標として、外国人留学生のために特別に開講されている科目です。したがって、外国人留学生以外の学生は履修することはできません。ただし、在留資格が「留学」ではない外国籍学生のうち、私費外国人留学生選抜によって入学した学生は、外国人留学生と同様の履修基準でこの科目を履修することができます。
- イ) 「学術日本語」では、週1回で全13回の授業を行う「学術日本語Ⅰ」、「学術日本語ⅡA」、「学術日本語ⅡB」、「学術日本語ⅡC」が開講されます。「Ⅰ」「Ⅱ」は習熟度を表したものです。4月に実施するプレイスメントテストで一定水準に満たない学生は「学術日本語Ⅰ」を1単位履修しなければなりません（一定水準以上の学生は「学術日本語Ⅰ」を履修することはできません）。
- ウ) 外国人留学生に限り「学術日本語」も「初修外国語科目」の必要単位に含めることができます。
- エ) 「学術日本語」に限り異なる授業題目であれば同一授業科目を複数履修することができます。

(10) 多文化理解：「ヒューマニティーズ」の履修上の注意

- ア) 入学後に履修希望調査（事前申告）を行い、調査に基づいて抽選によってクラス分けをします。
- イ) 地域未来共創学環の学生は「ヒューマニティーズ」から必ず2単位を修得しなければなりません。

(11) 自然と社会の広がり：「自然・環境と人間」の履修上の注意

- ア) 入学後に履修希望調査（事前申告）を行い、調査に基づいて抽選によってクラス分けをします。
- イ) 地域未来共創学環の学生は「自然・環境と人間」から必ず2単位を修得しなければなりません。

(12) 自然と社会の広がり：「グローバル化と人間社会」の履修上の注意

- ア) 前学期中に履修希望調査（事前申告）を行い、調査に基づいて抽選によってクラス分けをします。
- イ) 「日本国憲法」を履修する場合は、原則として同一担当教員の授業（1単位+1単位）を同一学期内に連続して履修してください。

再履修する学生も、原則として次学期以降に同一担当教員の授業（1単位+1単位）を同一学期内に連続して履修してください。例外として、次学期以降にも、単位を修得できなかった同一教員の同一授業科目が開講されている場合、単位を修得できなかった部分の授業（1単位）のみを履修することができます。

- ウ) 「日本国憲法」は、教育職員免許状取得の関係から、履修を希望する学生が多くなることが予想されますので、履修年次及び指定学部クラスを厳守してください。

また、「日本国憲法」の履修は一学期2単位を限度とします。

- エ) 地域未来共創学環の学生は「アントレプレナーシップ入門Ⅰ」「アントレプレナーシップ入門Ⅱ」（各1単位、計2単位）を含めて「グローバル化と人間社会」から必ず4単位を修得しなければなりません。4単位を修得するためには、2年次以降にも履修する必要があります。

(13) 各科目に共通の注意事項

- 1) 一度単位を修得した同じ教員による同じ科目の授業を再度履修しても、単位は認められません。ただし、同じ教員による同じ授業科目であっても、授業科目が異なれば別の授業として単位が認められます。
- 2) 病気その他の理由により授業の履修が困難な場合は、履修方法等についてスタディサポート室にご相談ください。
- 3) 授業の出席時数が、その授業科目の総授業時間数の3分の2（「身体活動」については4分の3）に達しない場合は、単位を与えられませんので注意してください。

(14) 入学前の既修得単位と大学以外の教育施設等における単位の認定

入学前に他大学等において修得した単位、又は大学以外の教育施設等における学修（在学中の学修も含む）で修得した単位については、**60単位を限度**として、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する制度があります。成績評価は、「N」と表示されます。なお、申請に必要な証明書等についての詳細は、1年次はスタディサポート室へ、2年次以上は所属学部等の学務グループへ問い合わせてください。

1) 入学前の既修得単位等の認定

本学入学以前に在学した大学又は短期大学で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修で修得した単位や資格等（下記2）参照）を、本学における単位として認定を希望する学生は、以下の証明書等を添えて、**令和6年4月26日（金）**までにスタディサポート室へ申し出てください。

- ア. 他大学等の学業成績証明書

- イ. 他大学等の卒業証明書又は在学期間証明書（中途退学者は退学証明書）
 - ウ. 単位認定を希望する授業科目の内容や、1単位当たりの授業時間等が明記された履修要項及びシラバス等
 - エ. 大学以外の教育施設等における学修で単位の認定を希望する学生はその証明書など
- （注）：外国語の証明書には必ず日本語訳を添付してください。

2) 大学以外の教育施設等における学修の単位認定

本学入学以前に大学以外の教育施設等で行った学修のうち以下の資格ア～サについて、本学においてプラクティカル・イングリッシュ、初修外国語の単位として認定（下表参照）を受けたい場合には、上記1)に従って所定の期限までに申し出てください。

また、在学中に大学以外の教育施設等で行った学修のうち以下の資格ク～サについて、本学において基盤教育科目の単位として認定（下表参照）を受けたい場合にも、上記担当係へ問い合わせてください。

なお、人文社会科学部及び教育学部の学生は、下記ア.について、専門科目としての認定を受けることができます。

- ア. 実用英語技能検定試験／準1級以上合格
- イ. ケンブリッジ大学英語検定試験／CPE、CAE、FCE合格
- ウ. TOEFL／iBT 72点以上、PBT 533点以上、CBT 200点以上
- エ. TOEIC／785点以上
- オ. GTEC 1190点～
- カ. TEAP 309点～／TEAP CBT 600点～
- キ. IELTS 5.5点～
- ク. ドイツ語技能検定試験／4級以上合格
- ケ. 実用フランス語技能検定試験／5級以上合格
- コ. 中国語検定試験／準4級以上合格
- サ. スペイン語技能検定試験／6級以上合格

3) 上記の資格ア～サの学修の基盤教育科目に係る認定授業科目及び単位数は以下のとおりです。

【プラクティカル・イングリッシュへの単位認定】

- ア) 単位認定の対象となるのは、入学前に取得した公式テストスコアとします。在学中に取得した公式テストスコア、入学時に実施するプレイスメントテスト及び本学が実施する一斉テストのスコアは対象となりません。
- イ) すでに授業を履修して単位が認定された科目を重ねて単位認定することはできません。
- ウ) TOEFL(ITP)はTOEFL(PBT)と同等として単位認定します。

○ 実用英語技能検定

区 分	準1級以上					
	認定授業科目	認定単位数				
基盤教育科目 (プラクティカル・イングリッシュ)	Integrated English 3A Integrated English 3B Integrated English 3C Integrated English 3D	<table style="border: none;"> <tr><td style="text-align: center;">1単位</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1単位</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1単位</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1単位</td></tr> </table>	1単位	1単位	1単位	1単位
1単位						
1単位						
1単位						
1単位						

○ ケンブリッジ大学英語検定

区 分	CPE、CAE、FCE	
	認定授業科目	認定単位数
基盤教育科目 (プラクティカル・イングリッシュ)	Integrated English 3A Integrated English 3B Integrated English 3C Integrated English 3D	(1単位 1単位 1単位 1単位)

○ TOEFL 及び TOEIC【TOEFL (ITP) 及び TOEIC (IP) を含む】

区 分	TOEFL(iBT)/72点以上 TOEFL(PBT)/533点以上 TOEFL(CBT)/200点以上 TOEIC 785点以上	
	認定授業科目	認定単位数
基盤教育科目 (プラクティカル・イングリッシュ)	Integrated English 3A Integrated English 3B Integrated English 3C Integrated English 3D	(1単位 1単位 1単位 1単位)

○ GTEC、TEAP、IELTS

区 分	GTEC 1190点以上 TEAP 309点以上 TEAP(CBT) 600点以上 IELTS 5.5点以上	
	認定授業科目	認定単位数
基盤教育科目 (プラクティカル・イングリッシュ)	Integrated English 3A Integrated English 3B Integrated English 3C Integrated English 3D	(1単位 1単位 1単位 1単位)

[初修外国語への単位認定]

ア) 同一の検定において、新たに上位の級の資格を得た場合は、既に認定した資格に係る認定授業科目がある場合は、認定できません。

イ) 既に授業を履修して単位が認定された「○○語入門」と同一言語の科目を重ねて単位認定することはできません。また、この制度を利用して単位認定された「○○語入門」と同一言語の科目を授業として重ねて履修することはできません。

○ ドイツ語技能検定

区 分	4級以上
	認定授業科目と単位数
基盤教育科目 (初修外国語)	ドイツ語入門：1単位

○ 実用フランス語技能検定

区 分	5級以上
	認定授業科目と単位数
基盤教育科目 (初修外国語)	フランス語入門：1単位

○ 中国語検定

区 分	準4級以上
	認定授業科目と単位数
基盤教育科目 (初修外国語)	中国語入門：1単位

○ スペイン語技能検定

区 分	6級以上
	認定授業科目と単位数
基盤教育科目（初修外国語）	スペイン語入門：1単位

(15) 休学期間中に他大学で修得した単位の認定

留学などの学外学修を目的とした理由により休学し、その間に修得した単位については、本学における授業科目の履修とみなして単位を与えられる場合がありますので、休学期間開始の2カ月前までに所属学部等の学務グループへ問い合わせてください。

(16) 編入学生における本学入学前の大学等の単位の取扱い

本学入学前に他大学等において修得した単位については、各学部等の定めるところにより認定していますので、所属学部等の学務グループへ問い合わせてください。

(17) 教育職員免許状取得に必要な事項

- 1) 教育職員免許状の取得を希望する学生（地域未来共創学環の学生は取得できません）は、**教育職員免許法**で定められている単位を必ず修得する必要があります。その履修方法等については、**各学部の履修要項**などや、4月に行われる**教職オリエンテーション**、学部別ガイダンスなどで詳細な説明がありますので、それらを参考にし、単位の修得漏れがないように注意してください。
- 2) 教育職員免許法では、**教科及び教職に関する科目**の必要単位数のほか、「**教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目**」として**日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位、数理、データ活用及び人工知能に関する科目2単位**の修得が定められています。

これらの単位を履修する場合には、次の事項に注意してください。

なお、これらの単位を基盤教育科目として修得した場合、各学部の**基盤教育科目履修基準**に則し、本学の卒業に必要な単位にも換算されます。

○教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

科目	単位数	茨城大学で対応する科目
日本国憲法	2単位	基盤教育科目「日本国憲法」を2単位（2科目）修得
体育	2単位	基盤教育科目「身体活動」を、1年次の1単位（1科目）に加え、2年次に1単位（1科目）履修し、計2単位（2科目）修得
外国語コミュニケーション	2単位	基盤教育科目「Integrated English 1A・2A・3A」、「Integrated English 1B・2B・3B」（いずれか2科目2単位（必修））を修得
数理、データ活用及び人工知能に関する科目	2単位	基盤教育科目「情報リテラシー」（2単位（必修））を修得

3) 介護等体験について

小学校及び中学校教諭普通免許状の取得を申請する場合は、7日間の**介護等体験**が義務付けられています。詳しくはスタディサポート室にお問い合わせください。

2-4 休講・補講

(1) 休講

大学行事や自然災害、又は授業担当教員のやむを得ない事由によって授業を行えない場合、授業は休講となります。

(2) 補講

単位制度 (p.2) の説明にあるように、単位を付与するには所定の時間数の授業を行わなければなりません。そこで、授業を休講とした場合、補講を行うことで、必要な授業時間数を確保します。補講は、履修カレンダーで予備日として指定された日又は授業担当教員と受講者との日程調整によって決定された日に行われます。

(3) 休講・補講の連絡方法

基盤教育科目の休講・補講の連絡は、**茨城大学教務情報ポータルシステム**にて案内します (p.9参照)。授業の前に確認してください。

(4) 自然災害等発生時の授業実施について

次のいずれかに該当する又は該当することが十分に予想されると判断される場合、その状況に鑑み、学生の登校禁止や休講、授業実施の変更等の措置を講じます。

- ・各キャンパスが所在する地域 (キャンパス外での実習等においては実習施設等の所在地) に気象庁から大雨・洪水・大雪・暴風・暴風雪のいずれかの警報 (特別警報を含む。) が発令された場合
- ・各キャンパスの主たる最寄り駅 (キャンパス外での実習等においては実習施設等の主たる最寄り駅) を含む区間の鉄道が自然災害等により運休した又は計画運休が予定されている場合
- ・感染症がまん延した場合
- ・大規模地震対策特別措置法 (大震法) に基づく警戒宣言が発令された場合
- ・事件・事故又は自然災害以外の災害が発生した場合
- ・その他学生及び教職員の安全を考慮すべき事態が発生した場合

1) 授業実施に関するお知らせ

自然災害等の状況により次のいずれかの措置をとることを原則として前日午後5時までに決定し、決定後速やかに教務情報ポータルシステム及び大学ホームページ (<https://www.ibaraki.ac.jp>) によりお知らせします。授業等の前日午後5時以降に決定する場合は、決定次第速やかにお知らせします。

- ・対面授業、遠隔授業とも休講
- ・対面授業は休講、遠隔授業は時間割どおり実施

2) 「対面授業は休講、遠隔授業は時間割どおり実施」の場合の注意事項

- ・授業によっては、対面授業を予定していた授業を遠隔授業に変更して実施する場合や、遠隔授業を予定していた授業を休講とする場合があります。
- ・上記の場合は、担当教員から教務情報ポータルシステムにより連絡がありますので注意してください。
- ・担当教員から連絡がない場合は、対面授業は休講、遠隔授業は時間割どおり実施します。

3) その他の注意事項

- ・学外で行う実習等については、担当教員と受入れ機関等との協議により実施の可否を決定しますので、担当教員からの連絡に注意してください。
- ・休講とした授業については補講を実施します。
- ・ネットワーク環境の不調等又は自然災害等の影響により、時間割どおり実施された遠隔授業を受講できなかった場合は、代替措置の実施により出席したものとみなす場合があります。詳細は担当教員に確認してください。
- ・対面授業を休講とする場合には、原則としてキャンパスへの入構を禁止します。

2-5 保険への加入

本学では、講義、実習、実験、教育実習、フィールドワーク等の授業や、介護等体験、ボランティア活動、インターンシップ、課外活動等での不慮の事故に備えて、「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険（Aコース）」の加入が義務付けられており、新入生全員が入学時に加入しています。特に基盤教育科目においては、「心と体の健康」（身体活動）や学外授業では教室内よりも怪我や事故の危険が高くなるので、保険の加入は必須です。

これら保険制度の詳細については、スチューデントライフサポート室に問い合わせてください。

1) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

国内外において、学生が、正課中、学校行事中、学校施設内、学校施設外で大学に届け出た課外活動中、通学中の事故により身体に傷害を被った場合に対処する保険です。

2) 学研災付帯賠償責任保険（Aコース）

国内外において、学生が、正課、学校行事及びその往復中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償に対処する保険です。

3) 学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）

学生生活の24時間を補償するもので、病気・ケガ等の保険及び賠償責任保険等学生生活全般に保障範囲を広げた保険です。付帯学総の加入は、学生教育研究災害傷害保険（学研災）の加入者に限られます。なお、この保険の加入は任意です。

3 履修科目の登録

授業を履修し単位を修得するためには、所定の手続きが必要です。ここでは、個人の履修計画に基づく時間割の作成から履修科目の登録の仕方までを簡潔に説明します。

3-1 授業時間割の作成

(1) 基盤教育科目の時間帯と専門科目の時間帯

効率的に授業の履修ができるように、各年次において、基盤教育科目の時間帯と専門科目の時間帯は重複しないように設定されています。また、基盤教育科目内でも授業科目毎に曜日・講時が指定されています。基盤教育科目の時間帯は、「令和6年度大学共通教育開講授業科目一覧」を参照してください。

専門科目の開講科目、曜日・講時等の詳細は、各学部等履修要項等を参照し、必修科目等の履修漏れのないよう注意してください。

(2) 学部コード

個人の時間割を作成する際には、**学部等別の「時間割表」**を照らし合わせ、さらに**開講授業科目及び基盤教育科目シラバス** (Web) を参照し、対象学部等・クラスや授業内容等を確認してください。

各授業には、対象学部等が**学部コード**で示されています。学部コードは、学生番号に用いられているコードと同じで、次のようになっています。

人文社会科学部：L 教育学部：P 理学部：S 工学部：T 農学部：A 地域未来共創学環：R

(3) 時間割の作成

それでは、時間割を実際に作成してみましょう。巻末の時間割表の用紙に時間割を記入してみてください。時間割作成の手順と注意は以下のとおりです。別添の学部等別の「時間割表」を参照しながら作成します。

- 1) まず、必修科目の時間帯を確保します。基盤学修、主体学修の指定曜日・講時を確認してください。また、基盤教育科目のほか、専門科目にも学部等・学科（課程・コース）などで履修が指定されている科目がありますので、注意してください。

なお、必修科目が後学期に開講される場合は、後学期の時間割に組み込みます。

- 2) 次に、その他の履修科目を決めます。年間の履修計画を立て、前・後学期を合わせて必要な単位数が揃うようにします。**ただし、例外的な科目を除き、年度内で履修できる単位は46単位までとなっていますので、計画的な履修を心掛けてください。**

- 3) 主体学修（リベラルアーツ）科目では、それぞれのクォーターに複数開講されている授業の中から希望する授業を選択して履修します。特定の授業に履修希望者が集中するため、抽選によって履修者の調整（制限）をすることがあります。必ずしも希望する授業を履修できないこともありますので、あらかじめ第2、第3希望の授業を決めておくといでしょう。

このようにしてできあがった時間割はまだ仮のものです。次節で述べる履修登録の手続きを済ませてはじめて時間割は確定します。

3-2 「プラクティカル・イングリッシュ」のクラス分け

「プラクティカル・イングリッシュ」は学生の習熟度によりクラス分けを行い、授業を実施します。1年次の学生は「プラクティカル・イングリッシュ」のうち「Integrated English」を履修しますが、そのクラス分けは、入学時に受験するTOEIC（オンライン）の点数により行います。**クラス分けの結果は、4月12日（金）午後1時頃に、各自の教務情報ポータルシステムに反映します。**教務情報ポータルシステムにログインし、クラス分けを確認し指定された授業を履修してください。クラス分け結果が教務情報ポータルシステムに反映されていない学生は、スタディサポート室に問い合わせてください。

クラス分けされた授業の教室については、「令和6年度大学共通教育開講授業科目一覧」を参照してください。

※後学期は、前学期のクラスを引き継いで履修しますので、改めてクラス分けは行いませんが、後学期開始後に教務情報ポータルシステムで履修するクラスを確認してください。

3-3 「心と体の健康」のクラス分け

(1) クラス分けの手順

「心と体の健康」は、学部等ごとに全体ガイダンスを行います。**このガイダンスが前学期及び後学期の1回目の授業となりますので、指定された日時・場所を確認し、必ず出席してください。**後学期の授業の履修を希望する学生も必ずこのガイダンスに出席してください。なお、「心と体の健康（身体活動）」で履修する授業科目は、ガイダンス後にWebで行われるクラス分け履修希望調査に基づき、コンピュータによる抽選の上、決定され、各自の教務情報ポータルシステムに反映されます。後学期の授業は後学期に教務情報ポータルシステムに反映されます。決定した授業が教務情報ポータルシステムに反映されていない学生は、スタディサポート室に問い合わせてください。

※ 障害を有する等で「身体活動」の種目選択に特別な配慮が必要な学生は、ガイダンス後に行う履修希望調査においてその旨回答してください。原則として、クラス分け後のクラスの変更は認められません。

■ ガイダンス日時 ■ Teamsを使用しオンラインで実施します。

4月11日（木）	10：35～	人文社会科学部、地域未来共創学環
4月15日（月）	10：35～	教育学部、工学部（機械）
4月16日（火）	10：35～	工学部（電気、物質、情報、都市）
4月17日（水）	10：35～	理学部、農学部

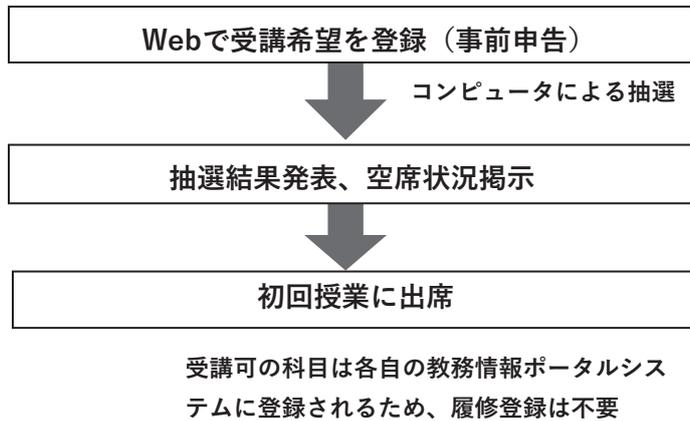
(2) 「心と体の健康」ガイダンス注意事項

- ・ガイダンスは、開講学期（前学期・後学期）を問わず初回授業となります。必ず全員出席してください。
- ・オンライン実施となるため、必ずPC等を準備してください。所属学部等・学科ごとに指定されたチームコードでチームに参加し、指定の日時にTeamsで「心と体の健康ガイダンス」を受講してください。
- ・**後学期開講の授業を希望する場合もガイダンスに出席しなければなりません。**後学期開始後に教務情報ポータルシステムで確認可能ですが、選択した科目を忘れないよう注意してください。
- ・受講生の調整により、希望する種目を選択できないことがあります。

3-4 主体学修（リベラルアーツ）のクラス分け

リベラルアーツ科目については、初回授業時における混乱、またそれに伴う授業開始の遅延を避けるため、受講希望の授業をWebから事前に申告してもらい、授業開始前に抽選を行い、履修者を予め決定します。実施期間や実施方法の詳細については、教務情報ポータルシステムのお知らせ等で案内しますので、お知らせ等に注意してください。事前申告の流れは、以下のとおりです。

事前申告の流れ



○前学期事前申告

対象科目：ヒューマニティーズ

自然・環境と人間

プラスI関連科目（基盤教育）

実施期間：4月初旬

（入学直後から学部等別ガイダンスまでの期間）

○後学期事前申告

対象科目：多文化コミュニケーション（初修外国語含む）

グローバル化と人間社会

プラスI関連科目（基盤教育）

第1次申告：8月上旬（期間は1週間）実施予定

第2次申告：9月上旬（期間は1週間）実施予定

※実施時期は変更になる可能性があります。教務情報ポータルシステムのお知らせ等に注意してください。

事前申告の注意事項

- 1) “受講可”となった授業については、初回授業に必ず出席してください。“受講可”の権利を他の学生に譲渡することはできません。
- 2) 事前申告でいずれも“受講不可”となった分野、追加で自由履修として受講したい科目がある場合は、「空席状況」を確認し、スタディサポート室に申し出てください。
- 3) 抽選の結果、満席となった授業については、たとえ授業開始時に辞退者が出たとしても、追加して受講許可はしません。そのため、“受講可”になった科目については必ず履修してください。
- 4) 間違って事前申告した授業であっても抽選結果に従ってください。
- 5) 教育学部学生は「自然と社会の広がり」のうち、「グローバル化と人間社会」の「日本国憲法」2単位が必修となります。そのため、1年次後学期に「グローバル化と人間社会」科目の事前申告は不要です。
- 6) 地域未来共創学環の学生は、「自然と社会の広がり」のうち、「グローバル化と人間社会」の「アントレプレナーシップ入門I」及び「アントレプレナーシップ入門II」各1単位が1年次後学期に必修となります。そのため、1年次後学期に「グローバル化と人間社会」科目の事前申告は不要です。なお、2年次後学期には「グローバル化と人間社会」科目の事前申告が必要となります。

3-5 履修科目の登録

(1) 履修科目の登録

- 1) 各学期セメスター・各クォーター開講の授業について

教務情報ポータルシステムへの履修登録により履修する授業が決まります。詳しくは、教務情報ポータルシステム「学生用マニュアル」（茨城大学ホームページ⇒教務情報ポータル）を参照してください。

教務情報ポータルシステムへの履修登録がないと、履修をしていても単位が認められません。

なお、基盤教育科目でクラス分けされている授業（大学入門ゼミ、茨城学、PE、情報リテラシー、データサイエンス・AI入門、身体活動、科学と倫理、ライフデザイン、事前申告対象科目）については、自身で履修登録する必要はありません。

教育学部では、「自然と社会の広がり」のうち、「グローバル化と人間社会」の「日本国憲法」2単位が必修となります、教務情報ポータルシステムに自動で履修登録するため自身で履修登録する必要はありません。

地域未来共創学環では、「自然と社会の広がり」のうち、「グローバル化と人間社会」の「アントレプレナーシップ入門Ⅰ」及び「アントレプレナーシップ入門Ⅱ」各1単位が必修となりますので、教務情報ポータルシステムに自動で履修登録するため自身で履修登録する必要はありません。

2) 集中講義について

集中講義については、授業ごとに開講予告・受講生募集の掲示をします。その都度履修登録を行います。開講予告・受講生募集の掲示に注意してください。

専門科目（教職関連科目を含む）の集中講義については、各学部等の掲示に注意してください。

(2) 履修登録の確認

履修登録を終えたら、正しく登録されたかどうかを確認します。履修登録の確認は、受講生名簿や成績認定の基礎となり、きわめて重要ですので、必ず確認しなければなりません。各自、自己責任において登録科目の曜日・講時、授業科目名及び担当教員名をよく確認してください。登録が不完全だったり、誤っていたりしたまま履修を続けていると、成績評価の際にトラブルが生じ、単位が認められない恐れがあります。

(3) 履修登録単位数の上限（CAP制）

単位制度（p.2）の説明にあるように、1単位は教室等での授業時間と準備学習や復習の時間を合わせて45時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。そこで、単位の過剰登録を防ぎ十分な予習復習時間を確保し単位の実質化を図るため、1年間に履修登録できる単位数の上限を設定しています。これを**CAP（キャップ）制**といいます。

集中講義の単位（地域未来共創学環では授業期間外に開講される集中講義に限ります。）や、教育学部学生以外を対象とする「教科及び教職に関する科目」等の卒業要件外科目、単位認定された科目を除き、履修登録できる単位数の上限は **年間46単位** です。ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生や、複数教科の教員免許の取得を希望する学生については、所定の手続きにより申請することで、46単位を超えて履修登録を認める場合があります（CAP緩和）。申請基準や申請手続きについては、所属学部等の履修要項をご覧ください。

3-6 履修科目の登録完了まで

これまで、クラス分け、履修登録について説明をしてきました。ここでは、学期初めのあわただしい中で手続きに漏れが生じないよう、次ページの図のとおり履修登録の流れを整理しておきます。この手続きは、基盤教育科目、専門科目のすべてに共通します。ここでは履修手続きについて説明していますが、これに限らず、大学におけるあらゆる手続きは、本人の自発的な行動のみによって成立します。それが行われな場合には、本人に不利益が生じることになりますので、注意してください。

履修科目決定の流れ

4/8～9

新入生履修ガイダンス

- ・学部等別ガイダンス、事前申告（開始はガイダンスより前）による主体学修科目クラス分け実施
- ・「心と体の健康」は前学期に学部等ごとに全体ガイダンスを実施し履修学期・授業題目等を決定

※4年間の大学生活スタートにあたって大切な期間です。欠席・遅刻等ないように注意してください。

授業開始

4/4～17 システムで履修登録

前学期の基盤教育はほぼすべての授業が、自動で履修登録される。それ以外の科目は自身で登録が必要

教務情報ポータルシステムに履修登録
通年・前学期・1Q・2Q：4/4～17 2Q：6/11～17
後学期・3Q・4Q：9/24～10/3 4Q：11/29～12/5

登録

履修科目決定

登録完了

4/18～24

システムでの履修登録確認期間

履修登録の確認（教務情報ポータルシステムの修正期間）
教務情報ポータルシステムに科目が正しく登録されているか各自確認し、誤り・漏れ等ある場合は、教務情報ポータルシステムから修正を行います。誤った登録がないか十分に確認してください。
通年・前学期・1Q・2Q：4/18～24 ※2Qは6/11～17も修正・確認が可能
後学期・3Q・4Q：10/4～10/10 ※4Qは11/29～12/5も修正・確認が可能

システムでの登録期間終了

申請書による修正期間

4/25～5/7「追加（削除）履修登録申請書」による追加登録と削除（履修取消）が可能
大学共通教育科目については、上記期間にスタディサポート室がWebを使用し申請受付
※専門科目については所属の学務グループが対応

申請書による修正期間（追加と削除）
通年・前学期・1Q・2Q：4/25～5/7
※1Qは削除のみ可能
後学期・3Q・4Q：10/11～10/24
※3Qは削除のみ可能

履修取消期限
前学期・1Q：5/7
通年・2Q：7/1
後学期・3Q：10/24
4Q：12/26
集中講義：講義最終日

- ・申請書は、授業担当教員の署名又は押印を得てから提出してください。
- ・それぞれの学期・クォーターにおいて、所定の期間以外は追加・削除できませんので、注意してください。
- ・所定の期限を過ぎると、取り消しできなくなるので、注意してください。
- ・履修を取り消した科目はGPA（p.38）に算入されません。

4 試験及び成績評価

4-1 試験

1. 試験は主として筆記試験で行われますが、授業によってはレポート等の提出をもって成績評価を行うことがあります。（遠隔授業（オンライン授業）等により、manaba（LMS）などを活用してオンラインにて試験を実施することもあります。）
2. 期末試験の期日は、「令和6年度大学共通教育開講授業科目一覧」巻頭の令和6年度履修カレンダーに記載されています。クォーターで実施される授業では7回目の授業中の53分を使って、セメスターで実施される授業では14回目に実施されます。授業によっては、随時中間試験を行うことがあります。
3. 期末試験の予定は、試験日の1週間前までに掲示によって周知しますが、授業時における担当教員の指示に従ってください。なお、中間試験等は担当教員の判断で行われますので掲示されないことがあります。
4. 期末試験を受験するには、原則として、当該授業科目の総授業時間数の3分の2以上（「心と体の健康」のうち「身体活動」については4分の3以上）出席していなければなりません。

レポートの作成と提出

- レポートは各教員によりさまざまな形式で指示されますので、必ずそれに従って提出してください。
レポートは用紙のサイズに関わりなく必ず表紙を付け、科目名、レポート名・論題、曜日・講時、担当教員名、学部等、学科(課程・コース)、学生番号、氏名を明記し、横書きの場合は左上端、縦書きの場合は右上端をホチキスで綴じて提出してください。クリップなどでとめた場合、レポートボックスの中で散乱することがありますので注意してください。
- レポートの提出に際しては、コピーをとるか、パソコンで作成した場合はファイルを保管してください。
- レポートボックスは、共通教育棟1号館1階のスタディサポート室内に設置されています。ただし、各学部等の学務グループに設置されることもありますので、提出先については教員の指示に従ってください。また、レポートの提出期限（日時）は各教員により設定されるので注意してください。

4-2 茨城大学における試験及びレポート作成等に関する留意事項

成績評価の対象となる試験（試験・中間試験・小テスト等）の受験やレポートの作成等に当たっては、試験監督者又は授業担当教員の指示に従ってください。**不正行為を行った場合には退学等の懲戒の対象となるので、以下の内容をよく読んで試験等に臨んでください。**オンラインによる提出物等についてもこれに準じます。

1. 試験等受験者心得

試験等の受験に当たっては、以下の点に留意してください。

- ① 試験開始後 30 分以上の遅刻は受験を認めない。
- ② 試験開始後 30 分までは退室を認めない。
- ③ 受験に当たっては学生証を机の右上に置くこと。学生証を所持しない学生は、受験を認めない。
- ④ 机の上に置けるものは、学生証の他、筆記具（筆箱は含まない）、消しゴム、時計（時計機能のみ）とし、その他は、試験監督者の指示に従いかばん等に見えないように収納すること。ただし、試験監督者が認めたものは置いてよい。
- ⑤ ハンカチ、ティッシュペーパー、目薬等の使用を希望する学生は、試験監督者に申し出て許可を受けてから使用すること。

- ⑥ 試験室内では、携帯電話等の電子機器類の電源は切り、かばん等に見えないように収納すること。
- ⑦ 次の行為は、不正行為に該当するので、疑わしい行為はしないこと。
 - ア. 身代わり受験をさせること。
 - イ. カンニングペーパーを使用すること又は試験監督者からの指示のない書籍、機器等による情報等を参照し解答すること。
 - ウ. 他者の答案を見ること又は解答を尋ねること。
 - エ. 試験監督者の注意又は指示に従わないこと。
 - オ. 上記アからエに掲げる行為を幫助すること。
 - カ. その他公正な試験を妨げると認められる行為をとること。
- ⑧ 授業中における小テスト等についても、試験監督者からの指示以外は上記を準用する。
- ⑨ 上記によりがたい場合は、試験監督者の指示を仰ぐこと。

2. レポート等の作成における留意事項

成績評価の対象となるレポート等の作成において、以下の行為を行った場合は不正行為に該当するので留意してください。

- ア. 作成において、捏造（存在しないデータを使って、調査・研究結果等を作成すること。）、改ざん（データ、調査・研究によって得られた結果等を事実でないものに変更すること。）、盗用（インターネット上に掲載されている情報のコピー&ペーストなど、他人のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文、著書等の内容を流用し、適切な表示をしないこと。）を行うこと。
- イ. 他者のレポートを自分のものとして提出すること。
- ウ. 上記ア及びイに掲げる行為を幫助すること。
- エ. その他公正な成績評価を妨げると認められる行為。

3. 不正行為による処罰

試験等において不正行為をした学生及びこれを幫助した学生は、学則に基づき**懲戒処分**となり、**不正行為を行った授業が開講されている学期に履修するすべての授業科目の単位は認定されません**。また、**単位が認定されなかった授業科目のGPは「0」として学期GPA及び年間GPA並びに通算GPAに算入されます**。

4-3 追試験

受験資格を有する学生が期末試験を受験できない事情がある場合は、本人の願い出により、その事情が**真にやむを得ない事情**と認められた場合に限り、追試験を行います。

1. 真にやむを得ない事情とは、次のような場合です。

真にやむを得ない事情	必要書類
学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）18条に規定する感染症に罹患した場合（p.104）	診断書等の罹患したことを証明する書類 ※インフルエンザ等の感染症の罹患を理由とする場合、本学所定の用紙も用意しています。詳細は、下記を参照ください。
忌引き（p.105）	会葬礼状等親族が亡くなったことが確認できる書類
裁判員又は裁判員候補者に選任された場合	裁判所の発行する証明書等
公共交通機関の運行停止	遅延証明書等
その他スチューデントサクセスセンター長が特にやむを得ないと認めた場合	追試験を必要とする理由等を示す書面

2. 追試験願い出の手続き

ア. 事前に追試験願に所定事項を記入署名（サイン）し、受験することのできない事情を証明する書類等（※）を添付し、スタディサポート室（工学部2年次以上の学生は工学部学務グループ、農学部2年次以上の学生は農学部学務グループ）に提出してください。

※ 本学では、インフルエンザ等の感染症（注1）の罹患を理由とする授業や期末試験等の欠席を証明する書類として、「登校許可証明書（治癒証明書）」の用紙を用意しています。この用紙を利用する時は、茨城大学ホームページから印刷して、受診した医療機関に記入をお願いしてください。

茨城大学ホームページ⇒ 在学生向け情報⇒ 各種届出⇒ 登校許可証明書（治癒証明書）について

（注1）感染症に該当する疾患名（登校許可証明書に記載のもの）

疾患名	出席停止期間
インフルエンザ A型 B型 不明	発症後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで
麻疹	解熱後3日を経過するまで
風疹	発疹が消失するまで
水痘	すべての発疹が痂皮化するまで
流行性耳下腺炎 （おたくふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
咽頭結膜熱	主要症状消退後2日を経過するまで
結核	感染の恐れがなくなるまで
その他	【学校における感染症第一種】 治癒するまで 【学校における感染症第三種】 医師において感染のおそれがないと認めるまで

登校許可証明書の提出：

※授業を欠席した場合

上記疾患により授業を欠席した時は、所属学部等の学務グループに連絡するとともに、この証明書を提出して下さい。また、複写したこの証明書を各授業担当教員に提出してください。

※追試験の願い出をする場合

「追試験願」の書類にこの証明書（原本）を添付し、追試験の実施について授業担当教員の承認を得てから、1年次はスタディサポート室に、2年次以上は所属学部等の学務グループへ提出して下さい。

イ. 事前に手続きを行うことが不可能な場合は、スタディサポート室（工学部2年次以上の学生は工学部学務グループ、農学部2年次以上の学生は農学部学務グループ）に連絡し、所定の手続きをしてください。この場合の追試験願の提出は、原則として、当該試験の終了後1週間以内に行われなければなりません。

3. 追試験の実施

追試験は、原則として、試験終了後2週間以内（特別な事情がある場合は、当該学期以内）に、当初の試験の方法に準じて実施します。

4-4 やむを得ない事情により授業を欠席した場合について

授業に出席できない事情がある場合には、本人の願い出により、その事情が真にやむを得ない事情（p.36）と認められた場合に限り、補講の受講又は学修課題の機会が与えられることにより、当該授業を出席したと取り扱われます。

欠席の翌日から原則1週間以内に各授業担当教員へその旨を連絡するとともに、所属学部等の学務グループに連絡し出席することのできない事情を証明する書類等（原本）を提出してください。また、複写した同書類等を各授業担当教員に提出してください。

4-5 成績評価

成績の評価は、期末試験のほか、随時行う試験、レポート、論文、課題発表及びその他の学修状況等により判定されます。その基準は次のとおりです。成績について疑義があり、成績について問い合わせたい学生は、必ず成績通知表を持参の上、窓口に出してください。

区分	評点基準	評価の内容
A ⁺	90点以上～100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A	80点以上～90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B	70点以上～80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C	60点以上～70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D	60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

評価は、C以上が合格で所定の単位が与えられ、Dは不合格で単位は認められません。

授業の出席時数が、その授業科目の総授業時間数の3分の2（「心と体の健康」のうち「身体活動」については4分の3）に達しない場合は、単位を与えない（D：不合格となる）ので注意してください。

なお、一度修得した単位（成績評価）は、取り消すことはできません。

4-6 GPA (Grade Point Average)

1. GPAの目的・定義

学生自身に学内での自分の成績の相対的な位置づけを認識させることにより、学生の学修意欲を高めるとともに、学生の学修支援に資することを目的としてGPA制度を導入しています。

GPAとは、個々の学生の学修時間当たりの学修到達度を表す指標となる数値で、履修した授業科目のGP（Grade Point）に当該科目の単位数を乗じた値を履修した全科目について総計し、その値を履修した総単位数で除して算出する平均値（Average）をいいます。

2. GP (Grade Point) の計算式

成績評価の満点を100点、最低点を0点として、次の式により求められます。

$$GP = \frac{(100 \text{ 点満点の得点} - 55)}{10}$$

（ただし、GP=0.5未満は0.0となります。）

※試験等における不正行為によって懲戒が決定した場合には、当該学期に履修したすべての授業科目の単位は認定されません。また、認定されなかった授業科目のGPは「0」として

学期 GPA 及び年間 GPA 並びに通算 GPA に算入されます。

3. GPA (Grade Point Average) の種類・計算式

GPA には次の三種類があります。両者の違いに注意してください。成績証明書には、**通算 GPA のみ**が記載されます。

① 学期 GPA

各学期における学修の状況及び成果を示す暫定的な指標であり、次の式で算定されます。原則として、前学期については8月末日、後学期については2月末日までの成績をもとに算定されます。その後成績評価の追加や変更がなされても再計算は行われません。

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{当該学期の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{当該学期の履修登録科目の総単位数}}$$

(計算値は、小数第3位を四捨五入し、第2位までを表示します)

② 年間 GPA

各年度における学修の状況及び成果を示す暫定的な指標であり、次の式で算定されます。原則として、2月末日までの成績をもとに算定されます。その後成績評価の追加や変更がなされても再計算は行われません。

$$\text{年間 GPA} = \frac{\text{当該年度の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{当該年度の履修登録科目の総単位数}}$$

(計算値は、小数第3位を四捨五入し、第2位までを表示します)

③ 通算 GPA

在学中の全期間における学修の状況及び成果を示す指標であり、次の式で算定されます。成績評価の追加や変更がなされた場合には再計算が行われます。

$$\text{通算 GPA} = \frac{\text{在学全期間の履修登録科目の GP} \times \text{当該科目の単位数}}{\text{在学全期間の履修登録科目の総単位数}}$$

(計算値は、小数第3位を四捨五入し、第2位までを表示します)

4. 通算 GPA の上書き

不合格と評価された後に再履修によって合格となり、単位を修得した授業科目については、再履修によって得た成績評価及び単位数は、通算 GPA に算入するものとし、当該授業科目について**過去に得た不合格の成績評価及び単位数は、通算 GPA から除外**されます(通算 GPA の上書き)。

ただし、「心と体の健康」、主体学修科目(「初修外国語」を除く)について再履修により通算 GPA が上書きされるためには、授業題目が同一でなければなりません。

5. GPA 算定対象授業科目

原則として成績評価されたすべての授業科目が GPA の算定対象となります。ただし、**履修取消期限までに履修の登録を取り消した科目や、単位認定された科目は GPA に算入されません**。履修取消期限経過後にやむを得ない事情により履修の登録を取り消したい場合は、所属学部等の学務グループへ問い合わせてください。

また、各学部等により GPA に算入されない科目を定めている場合があるので、**各学部等の履修要項**などで確認してください。

4-7 再履修

1年次に履修しなかったり、不合格（評価D）になった授業科目（授業題目）を2年次以降に履修又は再履修する場合は、次の点に注意してください。

1. 所属学部等の1年次用授業時間割の授業を履修してください。そのとき、2年次以上の学生の履修を許可しない授業もありますので注意してください。
2. 再履修する場合も、原則として、各授業の学部等・学科等の指定に従って履修しますが、クラスの定員やその他の理由で別に指定される場合もあります。
なお、「心と体の健康」のうち「身体活動」は、原則として1年に1科目（1単位）しか履修できませんので、1年次に不合格となった場合には、2年次以降に履修することになります。
3. 再履修する授業科目もCAP（p.33）の対象となりますので、再履修する授業科目の単位数を含めても履修登録単位の上限を超えないように注意してください。
4. 再履修について不明な点がありましたら、スタディサポート室又は所属学部等の学務グループに申し出てください。

4-8 成績評価に対する異議申立てについて

本学では授業担当教員の成績評価に納得できない学生のために成績評価に対する異議申立の制度があります。成績評価について疑義のある場合は、次の手続きに従って、まず成績評価に関する問合せをした上で、異議申立てを行ってください。

1) 成績評価に関する問合せ

成績評価について疑義のある場合は、基盤教育科目、教育学部以外の学生向けの教職科目については「成績評価に関する確認書」によりスタディサポート室を通じて授業担当教員へ問い合わせます。疑義が生じた際にはスタディサポート室へ申し出てください。

なお、学生からの問合せに対して授業担当教員は、原則として10日以内（土日、祝日を除く。）に「成績評価に関する確認書」によりスタディサポート室を介して回答することとなっています。

上記の問合せの期限は、当該授業科目が開講された学期の次の学期開始後20日以内（土日、祝日を除く。）です。休学又は留学のため問合せを行うことができない場合は、復学又は帰国後20日以内（土日、祝日を除く。）が問合せの期限となります。

ただし、最終年次の問合せの期限については、所属学部等毎に異なりますので、各学部等の指示に従ってください。

当該授業が開講された学期中に成績報告がされていない授業の問合せ期限等については、成績評価が公開された日から20日以内（土日、祝日を除く。）が問い合わせの期限となります。

2) 成績評価に対する異議申立て

上記1)の成績評価に関する問合せをした学生は、次の①～③のいずれかに該当する場合に限り、成績評価に対する異議を申し立てることができます。

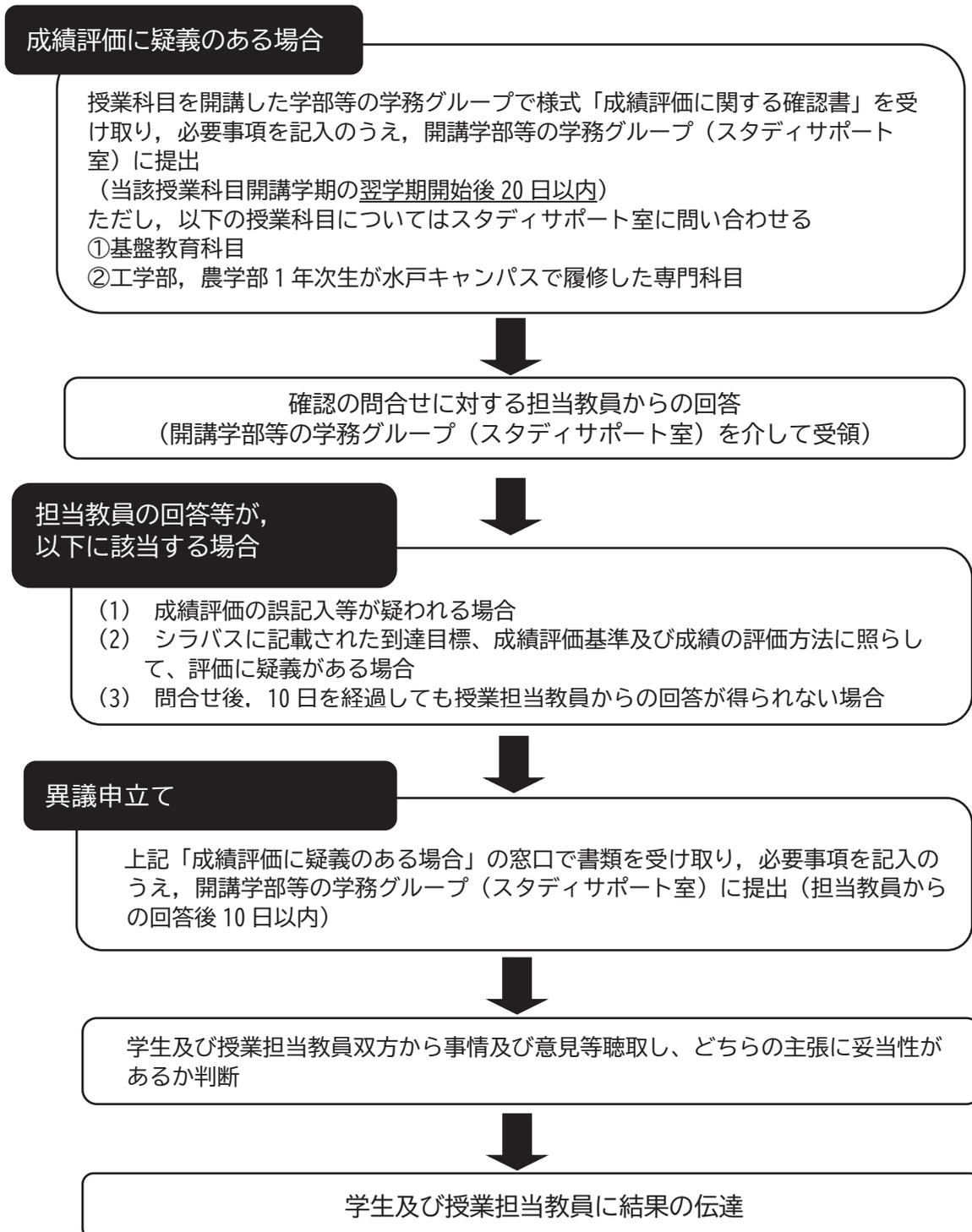
- ①授業担当教員の成績評価の誤記入等が疑われる場合
- ②シラバスに記載された到達目標、成績評価基準、成績の評価方法に照らして、評価に疑義がある場合
- ③授業担当教員の不誠実対応等により上記1)の期限までに回答がない場合

基盤教育科目、教育学部以外の学生向けの教職科目について、成績評価に対する異議申立てをする学生は、スタディサポート室に申し出てください。

成績評価に対する異議申立ての期限は、上記 1) の問合せに対する授業担当教員からの説明又は回答を受けた日から10日以内（土日、祝日を除く。）です。ただし、③の場合には、上記1) の問合せをしてから15日以内（土日、祝日を除く。）が申立ての期限となります。

基盤教育科目、教育学部以外の学生向けの教職科目について成績評価に対する異議申立てがなされた場合、学生サクセスセンターにおいて学生及び授業担当教員の双方から事情及び意見等を聴取するとともに、根拠資料の提出を求めます。その上で、どちらの主張に妥当性があるかを判断します。

成績評価に対する疑義、異議申し立ての流れ



第 II 部

各学部等の履修上の注意

人文社会科学部

教 育 学 部

理 学 部

工 学 部

農 学 部

地域未来共創学環

1 各学部等の履修上の注意

1-1 人文社会科学部学生の履修上の注意（令和6年度入学者）

(1) 基盤教育科目の履修基準

表4-1 人文社会科学部の基盤教育科目履修基準

基盤教育科目													
基盤学修(共通基礎/キャリア形成)							主体学修(リベラルアーツ)				選択履修		
大学入門ゼミ	茨城学	プラクティカル・イングリッシュ	情報リテラシー	データサイエンス・AI入門	心と体の健康	ライフデザイン	多文化理解		自然と社会の広がり		計	基盤学修のうち「心と体の健康」及び主体学修の各科目から任意に選択し履修(3単位を超えて修得した単位は自由履修に算入)	22単位
							多文化コミュニケーション	ヒューマニティーズ	自然・環境と人間	グローバル化と人間社会			
2	1	4	2	2	1	1	6単位		3単位		13単位		

表4-2 人文社会科学部の基盤教育科目履修モデル

科目区分	年次・学期・クォーター														必要単位数	備考
	1年次				2年次				3年次							
	前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期					
1Q		2Q		3Q		4Q		1Q		2Q		3Q		4Q		
基盤学修(共通基礎/キャリア形成)	大学入門ゼミ	2単位													2単位	重複履修不可
	茨城学	1単位													1単位	重複履修不可
	プラクティカル・イングリッシュ	1単位×2		1単位×2											4単位	重複履修不可
	情報リテラシー	2単位													2単位	重複履修不可
	データサイエンス・AI入門			2単位											2単位	重複履修不可
	心と体の健康	1単位													1単位	前学期又は後学期に履修
	ライフデザイン									1単位					1単位	3年次の1Q又は2Qに履修 重複履修不可
	主体学修(リベラルアーツ)	多文化理解	多文化コミ(初修外国語)	2単位												2単位
多文化コミ(共生とコミュニケーション、パフォーマンス&アート)																
ヒューマニティーズ																
自然と社会の広がり		自然・環境と人間	1単位	1単位											4単位	2年次はいずれかの科目から1Q又は2Qに1単位履修
	グローバル化と人間社会			1単位	1単位											
選択履修		3単位												3単位	1~4年次に任意の基盤教育科目を履修	

・Q：クォーター

(2) 履修登録単位数の上限 (CAP 制)

教職科目など卒業要件外の科目や集中講義の単位を除き、履修登録できる単位数の上限は年間46単位です。

(3) 基盤学修科目 (共通基礎／キャリア形成) の履修

大学入門ゼミ (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

茨城学 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

プラクティカル・イングリッシュ (4 単位必修)

- 1) 1 年次に Integrated English (4 単位) を履修します。
- 2) 一度クラス分けされたレベルを変更することはできません。
- 3) 同一授業科目を重複して履修することはできません。
- 4) 4 単位を超えて履修することはできません。

情報リテラシー (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

データサイエンス・AI 入門 (2 単位必修)

- 1) 1 年次の後学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

心と体の健康 (「身体活動」1 単位必修)

- 1) 「身体活動」を 1 年次の前学期または後学期に指定されたクラスで履修します。1 単位を超えて修得した単位は選択履修または自由履修の単位に算入されます。原則として 1 年に 1 科目しか履修できません。
- 2) 教育職員免許状取得希望者は、2 年次に「身体活動」を更に 1 科目履修してください。1 単位を超えて修得した「身体活動」の単位は選択履修または自由履修に算入されます。

ライフデザイン (1 単位必修)

- 1) 3 年次の第 1 クォーターまたは第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

(4) 主体学修科目 (リベラルアーツ) の履修

各授業の履修については以下のとおりです。なお、これらの科目の履修にあたっては、事前に希望調査を行い、抽選により履修者を決定します。

多文化理解 (2 単位必修)

「多文化理解」は、「多文化コミュニケーション」「ヒューマニティーズ」から 2 単位履修します。科目の組み合わせは問いませんが、以下の点に留意してください。

- 1) 「多文化コミュニケーション」は、1 年次後学期に「初修外国語」または「共生とコミュニケーション」あるいは「パフォーマンス&アート」から 1 科目選択して履修します。
- 2) 「多文化コミュニケーション」のうち、「初修外国語」はsemester 開講、「共生とコミュニケ

ーション」及び「パフォーマンス&アート」はクォーター開講です。

- 3) 「多文化コミュニケーション」は同一学期に2単位履修することはできません。
- 4) 現代社会学科、法律経済学科の学生が基盤教育科目の「初修外国語」を履修する場合、専門科目で履修した「第二外国語」とは異なる言語を選択してください。
- 5) 人間文化学科の学生は、1年次に基盤教育科目の「初修外国語」を履修することはできません。2年次以降に基盤教育科目の「初修外国語」を履修することができますが、その場合は、専門科目で履修した「第二外国語」とは異なる言語を選択してください。
- 6) 「ヒューマニティーズ」は、クォーター開講で1年次の前学期に履修します。前学期に1Q、2Qに各1単位、計2単位を連続して履修することも可能です。
- 7) 2単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されます。選択履修3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 8) 外国人留学生の場合は、「初修外国語」として「学術日本語」を履修することができます。

多文化理解科目の履修パターン

パターン1 ヒューマニティーズ (1Q:1単位) + ヒューマニティーズ (2Q:1単位)

パターン2 ヒューマニティーズ (1Q or 2Q:1単位) + 共生とコミュニケーションまたはパフォーマンス&アート (3Q or 4Q:1単位)

パターン3 (現代社会学科・法律経済学科)

ヒューマニティーズ (1Q or 2Q:1単位) + 基盤教育科目の初修外国語 (後学期:1単位)

自然と社会の広がり (4単位必修)

「自然と社会の広がり」は「自然・環境と人間」「グローバル化と人間社会」から4単位履修します。

- 1) 科目の組み合わせは問いません。「自然・環境と人間」は前学期に2単位を、「グローバル化と人間社会」は後学期に2単位履修します。なお、4単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されません。選択履修3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 2) 「グローバル化と人間社会」の「日本国憲法」を履修する場合は、同一学期に連続して同一担当教員の授業を履修してください(「日本国憲法」の注意事項はp.24参照)。

(5) 選択履修

基盤学修のうち「心と体の健康」または主体学修の科目から任意に授業を選択し、3単位履修します。3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。

(6) 基盤教育科目の授業時間割

基盤教育科目の授業時間割は、履修基準に従い、卒業に必要な単位を修得しやすいように編成されています。各科目の時間割(バンド)は次表のようになっています。

前学期		月	火	水	木	金
1 講時	1Q			大学入門ゼミ	プラクティカル・イングリッシュ	ヒューマニティーズ
	2Q					ヒューマニティーズ
2 講時	1Q		プラクティカル・イングリッシュ	情報リテラシー	心と体の健康	自然・環境と人間
	2Q					自然・環境と人間
3 講時	1Q			プラスIプログラム		
	2Q			プラスIプログラム		茨城学
4 講時	1Q					
	2Q					
5 講時	1Q	(教職共通)			学術日本語	(教職共通)
	2Q					

後学期		月	火	水	木	金
1 講時	3Q				プラクティカル・ イングリッシュ	共生とコミュニケーション
	4Q					共生とコミュニケーション
2 講時	3Q		プラクティカル・ イングリッシュ		心と体の健康	グローバル化と人間社会
	4Q					グローバル化と人間社会
3 講時	3Q			プラス I プログラム	初修外国語、共生とコミ ュニケーション、P&A	データサイエンス・ AI 入門
	4Q			プラス I プログラム		
4 講時	3Q					
	4Q					
5 講時	3Q					
	4Q					

・ Q：クォーター ・ P&A：パフォーマンス&アート ・ 学術日本語は外国人留学生対象の科目

1-2 教育学部学生の履修上の注意（令和6年度入学者）

(1) 基盤教育科目の履修基準

表5-1 教育学部の基盤教育科目履修基準

基盤教育科目											計	
基盤学修(共通基礎／キャリア形成)								主体学修(リベラルアーツ)				
大学入門ゼミ	茨城学	プラクティカル・イングリッシュ	情報リテラシー	データサイエンス・AI入門	心と体の健康	科学と倫理	ライフデザイン	多文化理解		自然と社会の広がり		
								多文化コミュニケーション	ヒューマニティーズ	自然・環境と人間		グローバル化と人間社会
2	1	4	2	2	2	1	1	3		4		
15単位								7単位				22単位

表5-2 教育学部の基盤教育科目履修モデル

科目区分	年次・学期・クォーター	1年次				2年次				3年次				必要単位数	備考
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
基盤学修 (共通基礎／キャリア形成)	大学入門ゼミ	2単位												2単位	重複履修不可
	茨城学	1単位												1単位	重複履修不可
	プラクティカル・イングリッシュ	1単位×2		1単位×2										4単位	重複履修不可
	情報リテラシー	2単位												2単位	重複履修不可
	データサイエンス・AI入門			2単位										2単位	重複履修不可
	心と体の健康	1単位				1単位								2単位	各年次、前学期又は後学期に履修
	科学と倫理	1単位												1単位	重複履修不可
	ライフデザイン									1単位				1単位	3年次の前学期に履修 重複履修不可
主体学修 (リベラルアーツ)	多文化理解	多文化コミ(初修外国語)		1単位										3単位	初修外国語と「共生とコミュニケーション」・「パフォーマンス&アート」からいずれか1単位選択
		多文化コミ(共生とコミュニケーション、パフォーマンス&アート)													
	自然と社会の広がり	ヒューマニティーズ	1単位	1単位										4単位	1年次1Q、2Qに2単位履修 1年次3Q、4Qに2単位履修 日本国憲法2単位必修
		自然・環境と人間	1単位	1単位											
		グローバル化と人間社会			1単位	1単位									

・Q：クォーター

(2)履修登録単位数の上限 (CAP 制)

卒業要件外の科目や集中講義の単位を除き、履修登録できる単位数の上限は年間 46 単位です。ただし、卒業要件として定められている免許状以外の免許状等取得のための特例として、指導教員又は教務委員等の履修指導を受けた上で年間 46 単位を超えて履修登録することができる場合があります。

(3)基盤学修科目 (共通基礎／キャリア形成) の履修

大学入門ゼミ (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

茨城学 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

プラクティカル・イングリッシュ (4 単位必修)

- 1) 1 年次に Integrated English (4 単位) を履修します。
- 2) 一度クラス分けされたレベルを変更することはできません。
- 3) 同一授業科目を重複して履修することはできません。
- 4) 4 単位を超えて履修することはできません。

情報リテラシー (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

データサイエンス・AI 入門 (2 単位必修)

- 1) 1 年次の後学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

心と体の健康 (2 単位必修)

- 1) 「身体活動」を 1 年次の前学期または後学期に 1 単位、2 年次の前学期または後学期に 1 単位、指定されたクラスで履修します。原則として 1 年に 1 科目しか履修できません。

科学と倫理 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 1 クォーターに履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

ライフデザイン (1 単位必修)

- 1) 3 年次の前学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

(4)主体学修科目 (リベラルアーツ) の履修

各授業の履修については以下のとおりです。なお、これらの科目の履修にあたっては、事前に希望調査を行い、抽選により履修者を決定します。

多文化理解 (3 単位必修)

「多文化理解」は、「多文化コミュニケーション」「ヒューマニティーズ」から3単位履修します。科目の組み合わせは問いませんが、以下の点に留意してください。

- 1) 「多文化コミュニケーション」は、1年次後学期に「初修外国語」または「共生とコミュニケーション」あるいは「パフォーマンス&アート」から1科目選択して履修します。「初修外国語」は Semester 開講、「共生とコミュニケーション」、「パフォーマンス&アート」はクォーター開講です。
- 2) 「多文化コミュニケーション」は同一学期に2単位履修することはできません。
- 3) 「ヒューマニティーズ」は、1年次の前学期に2単位履修します。
- 4) 3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 5) 外国人留学生の場合は、「初修外国語」として「学術日本語」を履修することができます。

自然と社会の広がり (4 単位必修)

「自然と社会の広がり」は「自然・環境と人間」「グローバル化と人間社会」から4単位履修します。

- 1) 科目の組み合わせは問いません。「自然・環境と人間」は前学期に2単位を、「グローバル化と人間社会」は後学期に2単位履修します。なお、4単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 2) 教育学部では、「自然と社会の広がり」のうち、「グローバル化と人間社会」の「日本国憲法」2単位が必修となります。「日本国憲法」は、原則として同一担当教員の授業を同一学期内に連続して履修することになります（「日本国憲法」の注意事項は p.24 参照）。

(5) 基盤教育科目の授業時間割

基盤教育科目の授業時間割は、履修基準に従い、卒業に必要な単位を修得しやすいように編成されています。各科目の時間割（バンド）は次表のようになっています。

前学期		月	火	水	木	金
1 講時	1Q	プラクティカル・イングリッシュ	大学入門ゼミ (英語、技術)		大学入門ゼミ (社会、特支)	ヒューマニティーズ
	2Q					ヒューマニティーズ
2 講時	1Q	身体活動		プラクティカル・イングリッシュ	大学入門ゼミ (保体)	自然・環境と人間
	2Q					自然・環境と人間
3 講時	1Q	大学入門ゼミ (国語、理科)	科学と倫理	プラス I プログラム	大学入門ゼミ (養教)	情報リテラシー
	2Q		茨城学	プラス I プログラム		
4 講時	1Q	大学入門ゼミ (家庭)	大学入門ゼミ (社会、数学、音楽、美術)		大学入門ゼミ (教実)	
	2Q					
5 講時	1Q				学術日本語	
	2Q					

後学期		月	火	水	木	金
1 講時	3Q	プラクティカル・イングリッシュ				共生とコミュニケーション
	4Q					共生とコミュニケーション
2 講時	3Q	身体活動		プラクティカル・イングリッシュ		グローバル化と人間社会
	4Q					グローバル化と人間社会
3 講時	3Q			プラス I プログラム	初修外国語、共生とコミュニケーション、P&A	データサイエンス・AI 入門
	4Q			プラス I プログラム		
4 講時	3Q					
	4Q					
5 講時	3Q					
	4Q					

・ Q : クォーター ・ P&A : パフォーマンス&アート ・ 学術日本語は外国人留学生対象の科目

1-3 理学部学生の履修上の注意 (令和6年度入学者)

(1) 基盤教育科目の履修基準

表6-1 理学部の基盤教育科目履修基準

基盤教育科目													
基盤学修(共通基礎/キャリア形成)								主体学修(リベラルアーツ)				選択履修	
大学入門ゼミ	茨城学	プラクティカル・イングリッシュ	情報リテラシー	データサイエンス・AI入門	心と体の健康	科学と倫理	ライフデザイン	多文化理解		自然と社会の広がり		計	基盤学修のうち「心と体の健康」及び主体学修の各科目から任意に選択し履修(3単位を超えて修得した単位は自由履修に算入)
								多文化コミュニケーション	ヒューマニティーズ	自然・環境と人間	グローバル化と人間社会		
2	1	4	2	2	1	1	1	3		4			
14 単位								7 単位				3 単位	24 単位

表6-2 理学部の基盤教育科目履修モデル

科目区分	年次・学期・クォーター	1年次				2年次				3年次				必要単位数	備考
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
基盤学修(共通基礎/キャリア形成)	大学入門ゼミ	2単位												2単位	重複履修不可
	茨城学		1単位											1単位	重複履修不可
	プラクティカル・イングリッシュ	1単位×2		1単位×2										4単位	重複履修不可
	情報リテラシー	2単位												2単位	重複履修不可
	データサイエンス・AI入門			2単位										2単位	重複履修不可
	心と体の健康	1単位												1単位	前学期又は後学期に履修
	科学と倫理	1単位												1単位	重複履修不可
	ライフデザイン									1単位				1単位	3年次の1Q又は2Qに履修 重複履修不可
主体学修(リベラルアーツ)	多文化理解	多文化コミ(初修外国語)		1単位										3単位	初修外国語と「共生とコミュニケーション」・「パフォーマンス&アート」からいずれか1単位選択
		多文化コミ(共生とコミュニケーション・パフォーマンス&アート)		1単位											
	自然と社会の広がり	ヒューマニティーズ	1単位	1単位										4単位	1年次1Q、2Qに2単位履修
		自然・環境と人間	1単位	1単位										4単位	1年次1Q、2Qに2単位履修
		グローバル化と人間社会			1単位	1単位								4単位	1年次3Q、4Qに2単位履修
選択履修	3単位												3単位	1~4年次に任意の基盤教育科目を履修	

・Q: クォーター

(2)履修登録単位数の上限 (CAP 制)

教職科目など卒業要件外の科目や集中講義の単位を除き、履修登録できる単位数の上限は年間 46 単位です。なお、教職免許の複数教科取得を希望する場合、年間 46 単位の上限を超えて追加登録を認める場合があります。また、GPA が理学部で規定する以上の数値だった場合、申請により年間 46 単位の上限を超えて追加登録を認める場合があります。詳細は理学部履修要項を確認してください。

(3)基盤学修科目 (共通基礎／キャリア形成) の履修

大学入門ゼミ (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

茨城学 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

プラクティカル・イングリッシュ (4 単位必修)

- 1) 1 年次に Integrated English (4 単位) を履修します。
- 2) 一度クラス分けされたレベルを変更することはできません。
- 3) 同一授業科目を重複して履修することはできません。
- 4) 4 単位を超えて履修することはできません。

情報リテラシー (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

データサイエンス・AI 入門 (2 単位必修)

- 1) 1 年次の後学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

心と体の健康 (「身体活動」1 単位必修)

- 1) 「身体活動」を 1 年次の前学期または後学期に指定されたクラスで履修します。1 単位を超えて修得した単位は自由履修の単位に算入されます。原則として 1 年に 1 科目しか履修できません。
- 2) 教育職員免許状取得希望者は、2 年次に「身体活動」を更に 1 単位履修してください。1 単位を超えて修得した「身体活動」の単位は選択履修または自由履修に算入されます。

科学と倫理 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 1 クォーターに履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

ライフデザイン (1 単位必修)

- 1) 3 年次の第 1 クォーターまたは第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

(4)主体学修科目 (リベラルアーツ) の履修

各授業の履修については以下のとおりです。なお、これらの科目の履修にあたっては、事前に希望調査を行い、抽選により履修者を決定します。

多文化理解 (3 単位必修)

「多文化理解」は、「多文化コミュニケーション」「ヒューマニティーズ」から 3 単位履修します。科目の組み合わせは問いませんが、以下の点に留意してください。

- 1) 「多文化コミュニケーション」は、1年次後学期に「初修外国語」または「共生とコミュニケーション」あるいは「パフォーマンス&アート」から1科目選択して履修します。「初修外国語」は Semester 開講、「共生とコミュニケーション」、「パフォーマンス&アート」はクォーター開講です。
- 2) 「多文化コミュニケーション」は同一学期に2単位履修することはできません。
- 3) 「ヒューマニティーズ」は、1年次の前学期に2単位履修します。
- 4) 3単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されます。選択履修3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 5) 外国人留学生の場合は、「初修外国語」として「学術日本語」を履修することができます。

自然と社会の広がり (4単位必修)

「自然と社会の広がり」は「自然・環境と人間」「グローバル化と人間社会」から4単位履修します。

- 1) 科目の組み合わせは問いません。「自然・環境と人間」は前学期に2単位を、「グローバル化と人間社会」は後学期に2単位履修します。なお、4単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されません。選択履修3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 2) 「グローバル化と人間社会」の「日本国憲法」を履修する場合は同一学期に連続して同一担当教員の授業を履修してください(「日本国憲法」の注意事項は p.24 参照)。

(5) 選択履修

基盤学修のうち「心と体の健康」または主体学修の科目から任意に授業を選択し、3単位履修します。3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。

(6) 基盤教育科目の授業時間割

基盤教育科目の授業時間割は、履修基準に従い、卒業に必要な単位を修得しやすいように編成されています。各科目の時間割(バンド)は次表のようになっています。

前学期		月	火	水	木	金
1 講時	1Q		情報リテラシー	プラクティカル・イングリッシュ		ヒューマニティーズ
	2Q					ヒューマニティーズ
2 講時	1Q	プラクティカル・イングリッシュ	大学入門ゼミ	心と体の健康		自然・環境と人間
	2Q					
3 講時	1Q			プラスIプログラム		
	2Q			プラスIプログラム		
4 講時	1Q		科学と倫理			
	2Q		茨城学			
5 講時	1Q		(教職共通)		学術日本語	(教職共通)
	2Q					

後学期		月	火	水	木	金
1 講時	3Q			プラクティカル・イングリッシュ		共生とコミュニケーション
	4Q					共生とコミュニケーション
2 講時	3Q	プラクティカル・イングリッシュ		心と体の健康		グローバル化と人間社会
	4Q					
3 講時	3Q			プラスIプログラム		
	4Q			プラスIプログラム		
4 講時	3Q				初修外国語、共生とコミュニケーション、P&A	データサイエンス・AI入門
	4Q					
5 講時	3Q					(教職共通)
	4Q					

・ Q: クォーター ・ P&A: パフォーマンス&アート ・ 学術日本語は外国人留学生対象の科目

1-4 工学部学生の履修上の注意 (令和6年度入学者)

工学部 全学科

(1) 基盤教育科目の履修基準

表7-1 工学部の基盤教育科目履修基準

基盤教育科目													計
基盤学修(共通基礎/キャリア形成)								主体学修(リベラルアーツ)				選択履修	
大学入門ゼミ	茨城学	プラクティカル・イングリッシュ	情報リテラシー	データサイエンス・AI入門	心と体の健康	科学と倫理	ライフデザイン	多文化理解		自然と社会の広がり		基盤学修のうち「心と体の健康」及び主体学修の各科目から任意に選択し履修(3単位を超えて修得した単位は自由履修に算入)	
								多文化コミュニケーション	ヒューマニティーズ	自然・環境と人間	グローバル化と人間社会		
2	1	4	2	2	1	1	1	3		4		3単位	24単位
14単位								7単位				3単位	

表7-2 工学部の基盤教育科目履修モデル

科目区分	年次・学期・クォーター	1年次				2年次				3年次				必要単位数	備考
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
基盤学修(共通基礎/キャリア形成)	大学入門ゼミ	2単位												2単位	重複履修不可
	茨城学		1単位											1単位	重複履修不可
	プラクティカル・イングリッシュ	1単位×2		1単位×2										4単位	重複履修不可
	情報リテラシー	2単位												2単位	重複履修不可
	データサイエンス・AI入門			2単位										2単位	重複履修不可
	心と体の健康	1単位												1単位	前学期又は後学期に履修
	科学と倫理	1単位												1単位	重複履修不可
	ライフデザイン									1単位				1単位	3年次の1Q又は2Qに履修 重複履修不可
主体学修(リベラルアーツ)	多文化理解	多文化コミ(初修外国語)		1単位										3単位	初修外国語と「共生とコミュニケーション」・「パフォーマンス&アート」からいずれか1単位選択
		多文化コミ(共生とコミュニケーション、パフォーマンス&アート)		1単位											
	自然と社会の広がり	ヒューマニティーズ	1単位	1単位										4単位	1年次1Q、2Qに2単位履修
		自然・環境と人間	1単位	1単位										4単位	1年次1Q、2Qに2単位履修
		グローバル化と人間社会			1単位	1単位								4単位	1年次3Q、4Qに2単位履修
選択履修		3単位												3単位	1~4年次に任意の基盤教育科目を履修

・Q:クォーター

(2)履修登録単位数の上限 (CAP 制)

教職科目など卒業要件外の科目や集中講義の単位を除き、履修登録できる単位数の上限は年間 46 単位です。

(3)基盤学修科目 (共通基礎/キャリア形成) の履修

大学入門ゼミ (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

茨城学 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

プラクティカル・イングリッシュ (4 単位必修)

- 1) 1 年次に Integrated English (4 単位) を履修します。
- 2) 一度クラス分けされたレベルを変更することはできません。
- 3) 同一授業科目を重複して履修することはできません。
- 4) 4 単位を超えて履修することはできません。

情報リテラシー (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

データサイエンス・AI 入門 (2 単位必修)

- 1) 1 年次の後学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

心と体の健康 (「身体活動」1 単位必修)

- 1) 「身体活動」を 1 年次の前学期または後学期に指定されたクラスで履修します。1 単位を超えて修得した単位は自由履修の単位に算入されます。原則として 1 年に 1 科目しか履修できません。
- 2) 教育職員免許状取得希望者は、2 年次に「身体活動」を更に 1 単位履修してください。1 単位を超えて修得した「身体活動」の単位は選択履修または自由履修に算入されます。

科学と倫理 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 1 クォーターに履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

ライフデザイン (1 単位必修)

- 1) 3 年次の第 1 クォーターまたは第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

(4)主体学修科目 (リベラルアーツ) の履修

各授業の履修については以下のとおりです。なお、これらの科目の履修にあたっては、事前に希望調査を行い、抽選により履修者を決定します。

多文化理解 (3 単位必修)

「多文化理解」は、「多文化コミュニケーション」「ヒューマニティーズ」から 3 単位履修します。科目の組み合わせは問いませんが、以下の点に留意してください。

- 1) 「多文化コミュニケーション」は、1 年次後学期に「初修外国語」または「共生とコミュニケーション」あるいは「パフォーマンス&アート」から 1 科目選択して履修します。「初修外国語」はセ

メスター開講、「共生とコミュニケーション」、「パフォーマンス&アート」はクォーター開講です。

- 2) 「多文化コミュニケーション」は同一学期に2単位履修することはできません。
- 3) 「ヒューマニティーズ」は、1年次の前学期に2単位履修します。
- 4) 3単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されます。選択履修3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 5) 外国人留学生の場合は、「初修外国語」として「学術日本語」を履修することができます。

自然と社会の広がり (4単位必修)

「自然と社会の広がり」は「自然・環境と人間」「グローバル化と人間社会」から4単位履修します。

- 1) 科目の組み合わせは問いません。「自然・環境と人間」は前学期に2単位を、「グローバル化と人間社会」は後学期に2単位履修します。なお、4単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されません。選択履修3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 2) 「グローバル化と人間社会」の「日本国憲法」を履修する場合は、同一学期に連続して同一担当教員の授業を履修してください(「日本国憲法」の注意事項はp.24参照)。

(5) 選択履修

基盤学修のうち「心と体の健康」または主体学修の科目から任意に授業を選択し、3単位履修します。

3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。

(6) 基盤教育科目の授業時間割

基盤教育科目の授業時間割は、履修基準に従い、卒業に必要な単位を修得しやすいように編成されています。各科目の時間割(バンド)は次表のようになっています。

前学期		月	火	水	木	金
1 講時	1Q	プラクティカル・イングリッシュ (機械)			大学入門ゼミ (機械)	ヒューマニティーズ
	2Q	大学入門ゼミ (電・物) 情報リテラシー (情・都)				ヒューマニティーズ
2 講時	1Q	身体活動 (機械) 情報リテラシー (電・物)	身体活動 (電・物・情・都)	プラクティカル・イングリッシュ (機械)	情報リテラシー (機械) プラクティカル・イングリッシュ (電・物・情・都)	自然・環境と人間
	2Q	大学入門ゼミ (情・都)				自然・環境と人間
3 講時	1Q		プラクティカル・イングリッシュ (電・物・情・都)	プラスIプログラム		
	2Q				プラスIプログラム	
4 講時	1Q					科学と倫理
	2Q					茨城学
5 講時	1Q		(教職共通)		学術日本語	(教職共通)
	2Q					

後学期		月	火	水	木	金
1 講時	3Q	プラクティカル・イングリッシュ (機械)				共生とコミュニケーション
	4Q					共生とコミュニケーション
2 講時	3Q	身体活動 (機械)	身体活動 (電・物・情・都)	プラクティカル・イングリッシュ (機械)	プラクティカル・イングリッシュ (電・物・情・都)	グローバル化と人間社会
	4Q					グローバル化と人間社会
3 講時	3Q		プラクティカル・イングリッシュ (電・物・情・都)	プラスIプログラム		
	4Q				プラスIプログラム	
4 講時	3Q				初修外国語、共生とコミュニケーション、P&A	データサイエンス・AI入門
	4Q					
5 講時	3Q					
	4Q					

・Q:クォーター・P&A:パフォーマンス&アート・学術日本語は外国人留学生対象の科目

1-5 農学部学生の履修上の注意（令和6年度入学者）

(1) 基盤教育科目の履修基準

表8-1 農学部の基盤教育科目履修基準

基盤教育科目												計	
基盤学修(共通基礎/キャリア形成)								主体学修(リベラルアーツ)					選択履修
大学入門ゼミ	茨城学	プラクティカル・イングリッシュ	情報リテラシー	データサイエンス・AI入門	心と体の健康	科学と倫理	ライフデザイン	多文化理解		自然と社会の広がり			基盤学修のうち「心と体の健康」及び主体学修の各科目から任意に選択し履修(3単位を超えて修得した単位は自由履修に算入)
								多文化コミュニケーション	ヒューマニティーズ	自然・環境と人間	グローバル化と人間社会		
2	1	4	2	2	1	1	1	3		4			
14 単位								7 単位				3 単位	24 単位

表8-2 農学部の基盤教育科目履修モデル

科目区分	年次・学期・クォーター	1年次				2年次				3年次				必要単位数	備考
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
基盤学修 (共通基礎/キャリア形成)	大学入門ゼミ	2単位												2単位	重複履修不可
	茨城学		1単位											1単位	重複履修不可
	プラクティカル・イングリッシュ	1単位×2		1単位×2										4単位	重複履修不可
	情報リテラシー	2単位												2単位	重複履修不可
	データサイエンス・AI入門			2単位										2単位	重複履修不可
	心と体の健康	1単位												1単位	前学期又は後学期に履修
	科学と倫理	1単位												1単位	重複履修不可
	ライフデザイン									1単位				1単位	3年次の1Q又は2Qに履修 重複履修不可
主体学修 (リベラルアーツ)	多文化理解	多文化コミ(初修外国語)		1単位										3単位	初修外国語と「共生とコミュニケーション」・「パフォーマンス&アート」からいずれか1単位選択
		多文化コミ(共生とコミュニケーション、パフォーマンス&アート)		1単位											
	自然と社会の広がり	ヒューマニティーズ	1単位	1単位										4単位	1年次1Q、2Qに2単位履修
		自然・環境と人間	1単位	1単位										4単位	1年次1Q、2Qに2単位履修
		グローバル化と人間社会			1単位	1単位								4単位	1年次3Q、4Qに2単位履修
選択履修	3単位												3単位	1~4年次に任意の基盤教育科目を履修	

・Q：クォーター

(2) 履修登録単位数の上限 (CAP 制)

教職科目など卒業要件外の科目や集中講義の単位を除き、履修登録できる単位数の上限は年間 46 単位です。

(3) 基盤学修科目 (共通基礎／キャリア形成) の履修

大学入門ゼミ (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

茨城学 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

プラクティカル・イングリッシュ (4 単位必修)

- 1) 1 年次に Integrated English (4 単位) を履修します。
- 2) 一度クラス分けされたレベルを変更することはできません。
- 3) 同一授業科目を重複して履修することはできません。
- 4) 4 単位を超えて履修することはできません。

情報リテラシー (2 単位必修)

- 1) 1 年次の前学期に学科ごとに指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

データサイエンス・AI 入門 (2 単位必修)

- 1) 1 年次の後学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

心と体の健康 (「身体活動」1 単位必修)

- 1) 「身体活動」を 1 年次の前学期または後学期に指定されたクラスで履修します。1 単位を超えて修得した単位は選択履修または自由履修の単位に算入されます。原則として 1 年に 1 科目しか履修できません。
- 2) 教育職員免許状取得希望者は、2 年次に「身体活動」を更に 1 科目履修してください。1 単位を超えて修得した「身体活動」の単位は選択履修または自由履修に算入されます。

科学と倫理 (1 単位必修)

- 1) 1 年次の第 1 クォーターに履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

ライフデザイン (1 単位必修)

- 1) 3 年次の前学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

(4) 主体学修科目 (リベラルアーツ) の履修

各授業の履修については以下のとおりです。なお、これらの科目の履修にあたっては、事前に希望調査を行い、抽選により履修者を決定します。

多文化理解 (3 単位必修)

「多文化理解」は、「多文化コミュニケーション」「ヒューマニティーズ」から 3 単位履修します。科目の組み合わせは問いませんが、以下の点に留意してください。

- 1) 「多文化コミュニケーション」は、1 年次の後学期に「初修外国語」または「共生とコミュニケー

ション」あるいは「パフォーマンス&アート」から1科目選択して履修します。「初修外国語」はセメスター開講、「共生とコミュニケーション」、「パフォーマンス&アート」はクォーター開講です。

- 2) 「多文化コミュニケーション」は同一学期に2単位履修することはできません。
- 3) 「ヒューマニティーズ」は、1年次の前学期に2単位履修します。
- 4) 3単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されます。選択履修3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 5) 外国人留学生の場合は、「初修外国語」として「学術日本語」を履修することができます。

自然と社会の広がり (4単位必修)

「自然と社会の広がり」は「自然・環境と人間」「グローバル化と人間社会」から4単位履修します。

- 1) 科目の組み合わせは問いません。「自然・環境と人間」は前学期に2単位を、「グローバル化と人間社会」は後学期に2単位履修します。なお、4単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されません。選択履修3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 2) 「日本国憲法」を履修する場合は、同一学期に連続して同一担当教員の授業を履修してください(「日本国憲法」の注意事項は p.24 参照)。

(5) 選択履修

基盤学修のうち「心と体の健康」または主体学修の科目から任意に授業を選択し、3単位履修します。3単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。

(6) 基盤教育科目の授業時間割

基盤教育科目の授業時間割は、履修基準に従い、卒業に必要な単位を修得しやすいように編成されています。各科目の時間割(バンド)は次表のようになっています。

前学期		月	火	水	木	金
1 講時	1Q			プラクティカル・イングリッシュ	大学入門ゼミ	ヒューマニティーズ
	2Q					ヒューマニティーズ
2 講時	1Q	プラクティカル・イングリッシュ		心と体の健康	情報リテラシー	自然・環境と人間
	2Q					自然・環境と人間
3 講時	1Q			プラスIプログラム		
	2Q			プラスIプログラム		
4 講時	1Q		科学と倫理			
	2Q		茨城学			
5 講時	1Q	(教職共通)			学術日本語	(教職共通)
	2Q					

後学期		月	火	水	木	金
1 講時	3Q			プラクティカル・イングリッシュ		共生とコミュニケーション
	4Q					共生とコミュニケーション
2 講時	3Q	プラクティカル・イングリッシュ		心と体の健康		グローバル化と人間社会
	4Q				グローバル化と人間社会	
3 講時	3Q			プラスIプログラム	初修外国語、共生とコミュニケーション、P&A	
	4Q			プラスIプログラム		
4 講時	3Q					データサイエンス・AI 入門
	4Q					
5 講時	3Q					(教職共通)
	4Q					

・Q: クォーター ・P&A: パフォーマンス&アート ・学術日本語は外国人留学生対象の科目

1-6 地域未来共創学環学生の履修上の注意（令和6年度入学者）

(1) 基盤教育科目の履修基準

表9-1 地域未来共創学環の基盤教育科目履修基準

基盤教育科目												計
基盤学修(共通基礎/キャリア形成)							主体学修(リベラルアーツ)				選択履修	
大学入門ゼミ	茨城学	プラクティカル・イングリッシュ	情報リテラシー	データサイエンス・AI入門	心と体の健康	科学と倫理	多文化理解		自然と社会の広がり		基盤学修のうち「心と体の健康」及び主体学修の各科目から任意に選択し履修(4単位を超えて修得した単位は自由履修に算入)	
							多文化コミュニケーション	ヒューマニティーズ	自然・環境と人間	グローバル化と人間社会		
2	1	4	2	2	1	1	1	2	2	4		
13単位							9単位				4単位	26単位

表9-2 地域未来共創学環の基盤教育科目履修モデル

科目区分	年次・学期・クォーター	1年次				2年次				3年次				必要単位数	備考
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
基盤学修 (共通基礎/キャリア形成)	大学入門ゼミ	2単位												2単位	重複履修不可
	茨城学		1単位											1単位	重複履修不可
	プラクティカル・イングリッシュ	1単位×2		1単位×2										4単位	重複履修不可
	情報リテラシー	2単位												2単位	重複履修不可
	データサイエンス・AI入門			2単位										2単位	重複履修不可
	心と体の健康	1単位												1単位	前学期又は後学期に履修
	科学と倫理	1単位												1単位	重複履修不可
主体学修 (リベラルアーツ)	多文化理解			1単位										1単位	初修外国語と「共生とコミュニケーション」・「パフォーマンス&アート」からいずれか1単位選択
	ヒューマニティーズ	1単位	1単位											2単位	1年次1Q、2Qに2単位履修
	自然・環境と人間	1単位	1単位											2単位	1年次1Q、2Qに2単位履修
	グローバル化と人間社会			1単位	1単位			1単位	1単位					4単位	1年次3Q、4Qに2単位履修 2年次3Q、4Qに2単位履修
選択履修		4単位												4単位	1~4年次に任意の基盤教育科目を履修

・Q：クォーター

(2)履修登録単位数の上限（CAP 制）

卒業要件外の科目や授業期間外に開講する集中講義の単位を除き、履修登録できる単位数の上限は年間 46 単位です。

(3)基盤学修科目（共通基礎／キャリア形成）の履修

大学入門ゼミ（2 単位必修）

- 1) 1 年次の前学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

茨城学（1 単位必修）

- 1) 1 年次の第 2 クォーターに指定のクラスで履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

プラクティカル・イングリッシュ（4 単位必修）

- 1) 1 年次に Integrated English（4 単位）を履修します。
- 2) 一度クラス分けされたレベルを変更することはできません。
- 3) 同一授業科目を重複して履修することはできません。
- 4) 4 単位を超えて履修することはできません。

情報リテラシー（2 単位必修）

- 1) 1 年次の前学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

データサイエンス・AI 入門（2 単位必修）

- 1) 1 年次の後学期に指定のクラスで履修します。
- 2) 2 単位を超えて履修することはできません。

心と体の健康（「身体活動」1 単位必修）

- 1) 「身体活動」を 1 年次の前学期または後学期に指定されたクラスで履修します。1 単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されます。選択履修 4 単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。原則として 1 年に 1 科目しか履修できません。

科学と倫理（1 単位必修）

- 1) 1 年次の第 1 クォーターに履修します。
- 2) 1 単位を超えて履修することはできません。

(4)主体学修科目（リベラルアーツ）の履修

各授業の履修については以下のとおりです。なお、これらの科目の履修にあたっては、事前に希望調査を行い、抽選により履修者を決定します。

多文化理解（3 単位必修）

「多文化理解」は、「多文化コミュニケーション」から 1 単位、「ヒューマニティーズ」から 2 単位履修します。以下の点に留意してください。

- 1) 「多文化コミュニケーション」は、1 年次後学期に「初修外国語」または「共生とコミュニケーション」あるいは「パフォーマンス&アート」から 1 科目選択して履修します。「初修外国語」はセメスター開講、「共生とコミュニケーション」、「パフォーマンス&アート」はクォーター開講です。
- 2) 「多文化コミュニケーション」は同一学期に 2 単位履修することはできません。

- 3) 「ヒューマニティーズ」は、1年次の前学期に2単位履修します。
- 4) 3単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されます。選択履修4単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 5) 外国人留学生の場合は、「初修外国語」として「学術日本語」を履修することができます。

自然と社会の広がり（6単位必修）

「自然と社会の広がり」は「自然・環境と人間」から2単位、「グローバル化と人間社会」から4単位履修します。

- 1) 「自然・環境と人間」は前学期に2単位履修します。
- 2) 「グローバル化と人間社会」は1年次後学期に「アントレプレナーシップ入門Ⅰ」及び「アントレプレナーシップ入門Ⅱ」を各1単位、2年次後学期に2単位、合計4単位を履修します。
- 3) 6単位を超えて修得した単位は選択履修に算入されます。選択履修4単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。
- 4) 「グローバル化と人間社会」の「日本国憲法」を履修する場合は、同一学期に連続して同一担当教員の授業を履修してください（「日本国憲法」の注意事項はp.24参照）。

(5) 選択履修

基盤学修のうち「心と体の健康」または主体学修の科目から任意に授業を選択し、4単位履修します。4単位を超えて修得した単位は、自由履修に算入されます。

(6) 基盤教育科目の授業時間割

基盤教育科目の授業時間割は、履修基準に従い、卒業に必要な単位を修得しやすいように編成されています。各科目の時間割（バンド）は次表のようになっています。

前学期		月	火	水	木	金
1 講時	1Q			大学入門ゼミ	プラクティカル・イングリッシュ	ヒューマニティーズ
	2Q					ヒューマニティーズ
2 講時	1Q		プラクティカル・イングリッシュ		心と体の健康	自然・環境と人間
	2Q					自然・環境と人間
3 講時	1Q	情報リテラシー		プラスⅠプログラム		
	2Q			プラスⅠプログラム		茨城学
4 講時	1Q					科学と倫理
	2Q					
5 講時	1Q				学術日本語	
	2Q					

後学期		月	火	水	木	金
1 講時	3Q				プラクティカル・イングリッシュ	共生とコミュニケーション
	4Q					共生とコミュニケーション
2 講時	3Q		プラクティカル・イングリッシュ		心と体の健康	グローバル化と人間社会
	4Q					グローバル化と人間社会
3 講時	3Q			プラスⅠプログラム	初修外国語、共生とコミュニケーション、P&A	データサイエンス・AI 入門
	4Q			プラスⅠプログラム		
4 講時	3Q					
	4Q					
5 講時	3Q					
	4Q					

・Q：クォーター・P&A：パフォーマンス&アート・学術日本語は外国人留学生対象の科目

第 Ⅲ 部

プラスIプログラム

1 プラスIプログラム

1-1 プラスIプログラムとは

茨城大学では、幅広い教養や分野を超えた融合的専門知を身につけることができるよう、全学部等学生を対象にプラスI(アイ)プログラムを設けています。プラスIプログラムは、専門分野を異にする学生がコミュニケーションを図りながら共に学ぶ機会を提供し、プログラムを履修することで、協働しながら、複雑化多様化した社会における諸課題の解決をけん引できる実践力を持った人材の育成を目指します。開設しているプログラムは次のとおりです。

○グローバルコミュニケーションプログラム(GCP)

グローバル化が進む現代社会で必要とされる多様な人々とのコミュニケーション能力の育成を図り、グローバルに活躍できる力を養成するプログラムです。

○地域志向教育プログラム

地域を多角的に捉えながら地域課題と向き合う素養を醸成する「地域志向教育」を行います。地域の現状と向き合いつつ、課題改善に向けた既存の取り組みに参画したり、新たな企画を先導したりできる学生を育成することを目的としたプログラムです。

○サステナビリティ学教育プログラム

地球社会の持続可能な発展を導くための新しい学問分野であるサステナビリティ学を通して、気候変動など地球環境問題の原因と解決等、将来の地球と人間社会に関わる複雑で多面的な問題への学際的な理解を促すプログラムを提供します。

○数理・データサイエンス・AI教育プログラム

人工知能(AI)及び数理・データサイエンスの基礎的素養を醸成するとともに、Society5.0等のデータ・デジタル化社会や持続可能性社会(SDGs等)に向け、データサイエンスを活用した課題解決能力やイノベーションを創出する能力を養成することを目的としたプログラムです。

○アントレプレナーシップ教育プログラム

起業家精神(アントレプレナーシップ)・社内起業家精神(イントレプレナーシップ)を醸成し、それらを実践するため、文理横断的な普遍的な知識・汎用的技能を有し、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材を養成することを目的としたプログラムです。

○日本語教員養成プログラム

外国語としての日本語を指導するために必要な専門的基礎知識と基礎能力を修得するためのプログラムです。人文社会科学部、及び教育学部の学生を対象とします。

これら6つのプログラムの修了は卒業要件ではありませんが、効果的な学修のため、積極的にプログラムを履修することを推奨します。

1-2 プラスIプログラムの履修方法

プラスIプログラムを構成する個々の授業(基盤教育科目、専門科目)の履修登録の手続きは、前掲の基盤教育科目と同じです(p.30~参照)。

各プログラムの詳細は次ページ以降を確認してください。

各プログラムの構成科目一覧は令和6年度に開講される科目の一覧です。令和7年度以降に開講される科目については、前年度の3月に全学教育機構ホームページに掲載します。

学部等の専門科目については、他学部等学生の履修を制限しているものもあります。履修を希望する場合は、履修制限がないかシラバスで確認してください

2 各教育プログラムの説明

2-1 グローバルコミュニケーション プログラム（GCP）

DP との関係



(1) 「グローバルコミュニケーションプログラム」について

グローバル化が進む現代社会で必要とされる多様な人々とのコミュニケーション能力の育成を図り、グローバルに活躍できる力を養成します。そのために、以下3点により、学生が主体的に英語で学修を行うことを促進するプログラムを提供します。

- (1) 海外学生等との協働を通じて、問題解決力及びコミュニケーション能力を育成します。
- (2) 英語4技能の向上、専門分野における英語力など、総合的な英語力向上を目指します。
- (3) 留学への動機づけと準備、グローバル社会に対応するキャリア形成の意識向上を目指します。

(2) 「グローバルコミュニケーションプログラム」で育成する力

このプログラムでは、ディプロマ・ポリシーのうち、特に①（世界の俯瞰的理解）、③（課題解決能力・コミュニケーション力）の2つの育成に重点を置き、以下の知識と能力を持つ人材の育成を目指します。

- ・主体的な英語学修を促進し、国内外において実践的英語力を活かしてグローバルな視点を持って活躍できる能力を養成します。
- ・多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力を養成します。

(3) 「グローバルコミュニケーションプログラム」の履修基準とプログラムの構成

1) 履修基準

このプログラムは、すべての学部等学生を対象とします。プログラム履修を希望する学生は、プログラムが指定する科目を履修してください。

2) プログラムの構成

このプログラムは、国際共修コース（ICC：International Communication Course）、グローバルイングリッシュ・中級コース（GEC-M）、グローバルイングリッシュ・上級コース（GEC-Adv）の3つで構成されます。それぞれのコースの特徴は以下のとおりです。

○国際共修コース（ICC）

多様な文化に対する知識と理解、および多様な人々と協働して課題解決していくための国際コミュ

コミュニケーション能力を育成することに主眼を置きます。そのため、使用言語は英語に限定されません。

○グローバルイングリッシュ・中級コース（GEC-M）、上級コース（GEC-Adv）

主体的な英語学修を促進し、国内外において実践的英語力を活かしてグローバルな視点を持って活躍できる能力を養成することに主眼を置きます。

3) 開設科目区分

英語レベルに応じて以下の基準を設定した科目群を提供します。ただし、基準は推奨であり、基準に達していなくとも履修は可能です。コースプログラム履修を希望する場合は、各コースプログラムで指定された科目を履修してください。

[ICC 科目] (非英語またはバイリンガル) : 英語レベルを問わない

[ICC/GEC 科目(中級)] (英語開講) : TOEIC 450点相当以上を推奨

[ICC/GEC 科目(上級)] (英語開講) : TOEIC 700点相当以上を推奨

(4) 「グローバルコミュニケーションプログラム」の修了要件

全学部等生必修の基盤教育科目「プラクティカル・イングリッシュ」を基礎に、各コースが指定するコア科目及び各学部等が指定する専門科目を履修し、コース別に、以下の要件を満たした学生に対し、卒業時に成績証明書に「グローバルコミュニケーションプログラム修了」と記載されます。

○各コースの修了要件

【ICC】修了に必要な単位数：12単位

○コア科目

- ・基盤教育科目；プラクティカル・イングリッシュ（1年次）4単位
- ・基盤教育科目；[ICC 科目] から1単位

○関連科目

[ICC 科目] [ICC/GEC 科目(中級)]、[ICC/GEC 科目(上級)]、その他指定する基盤教育科目及び専門科目から7単位以上

【GEC-M】修了に必要な単位数：12単位

○コア科目

- ・基盤教育科目；プラクティカル・イングリッシュ（1年次）4単位

○関連科目

[ICC/GEC 科目(中級)] [ICC/GEC 科目(上級)]、その他指定する基盤教育科目及び専門科目から8単位以上。ただし、[ICC/GEC 科目(中級)] [ICC/GEC 科目(上級)]から1単位以上とする。

【GEC-Adv】修了に必要な単位数：16単位

○コア科目

- ・基盤教育科目；プラクティカル・イングリッシュ（1年次）4単位

○関連科目

[ICC/GEC 科目(中級)] [ICC/GEC 科目(上級)]、その他指定する基盤教育科目及び専門科目から12単位以上。ただし、[ICC/GEC 科目(上級)]から1単位以上とする。

(5)「グローバルコミュニケーションプログラム」の構成科目

原則として、プログラムで指定する専門科目については、所属学部等の開講科目を履修してください。所属学部等以外の学部等が開講する専門科目を履修する場合には、開講学部等以外の学生の履修を制限している科目もありますので、必ずシラバスを確認してください。

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
コア科目			
基盤教育科目/コア科目 (必修)	スチューデントサ クセスセンター	PE/Integrated English_A, B, C, D	各1
ICC 科目 (コア科目)			
基盤教育科目/ICC 科目 (コア科目)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/国際共修入門	1
基盤教育科目/ICC 科目 (コア科目)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/国際共修で学ぶ日本事情	1
基盤教育科目/ICC 科目 (コア科目)	スチューデントサ クセスセンター	人間科学/国際コミュニケーション入門	1
ICC 科目			
基盤教育科目/ICC 科目	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/短期海外研修(韓国)	2
基盤教育科目/ICC 科目	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/短期海外研修(スペイン)	2
基盤教育科目/ICC 科目	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/短期海外研修 I(ベトナム)	2
基盤教育科目/ICC 科目	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/短期海外研修 II(ベトナム)	2
基盤教育科目/ICC 科目	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/国際共修(ベトナム)	2
専門科目 (ICC のみ対象)			
専門科目	地域未来共創学環	多文化共生論	2
ICC/GEC 科目(中級)			
基盤教育科目/ICC/GEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Studyung Abroad	1
基盤教育科目/ICC/GEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	人間科学/International Exchange	1
基盤教育科目/ICC/GEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	グローバル・スタディーズ/Communication in Global Context A	1
基盤教育科目/ICC/GEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	グローバル・スタディーズ/Communication in Global Context B	1
基盤教育科目/ICC/GEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Academic Reading	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Cross-cultural Communication A	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Studies in Global Issues	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Introduction to Agriculture System	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Academic Writing	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Introduction to Intercultural Communication	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Cross-cultural Communication B	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Studies in Global Issues	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目(中級)	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Studies in Social Issues	1

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Introduction to Agriculture System	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Academic Writing	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/TOEFL	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Sustainability and International Cooperation	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Academic Discussion	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Intercultural Training Methods A	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Academic Reading	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/TOEFL	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Intercultural Training Methods B	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/短期海外研修(ブルネイ)	2
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/短期海外研修(オーストラリア)	2
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/短期海外研修(マレーシア)	2
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	思想・文学/Rethinking Japanese Culture and Society	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	グローバル・スタディーズ/Communication in Global Context A	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	グローバル・スタディーズ/Communication in Global Context B	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（中級）	スチューデントサ クセスセンター	グローバル・スタディーズ/Diversity and Social Issues in Japan	2
ICC/GEC 科目(上級)			
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（上級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Japanese Pop Culture A	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（上級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Japanese Pop Culture B	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（上級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Academic Reading	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（上級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Bilingual Education	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（上級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Introduction to Technology	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（上級）	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/Studies in Global Society	1
基盤教育科目/ICC/CEC 科目（上級）	スチューデントサ クセスセンター	思想・文学/Society and Language in Japanese Literature	1
専門科目（ICC/GEC 対象）			
専門科目	人文社会科学部	Advanced Reading	2
専門科目	人文社会科学部	Advanced Writing	2
専門科目	人文社会科学部	Advanced Speaking	2
専門科目	人文社会科学部	Language and Culture in Japan A	2
専門科目	人文社会科学部	Language and Culture in Japan B	2
専門科目	人文社会科学部	Language and Culture in Japan C	2
専門科目	人文社会科学部	Language and Culture in Japan D	2
専門科目	人文社会科学部	Language and Culture in Japan E	2
専門科目	人文社会科学部	Language and Culture in Japan F	2
専門科目	人文社会科学部	Language and Culture in Japan G	2

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
専門科目	人文社会科学部	Language and Culture in Japan H	2
専門科目	工学部	工学実用英語【機械システム】	1
専門科目	工学部	工学実用英語【電気電子システム】	1
専門科目	工学部	工学実用英語【物質科学】	1
専門科目	工学部	工学実用英語【情報】	1
専門科目	工学部	工学実用英語【都市システム】	1
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅰ	2
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅱ	2
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅲ	2
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅳ	2
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅴ	2
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅵ	3
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅶ	3
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅷ	3
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅸ	3
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅹ	1
専門科目	農学部	食生命科学海外講義Ⅺ	1
専門科目	地域未来共創学環	英語コミュニケーション	1
専門科目	地域未来共創学環	英語プレゼンテーション	1

2-2 地域志向教育プログラム

DP との関係



(1) 「地域志向教育プログラム」について

茨城大学では、地域を多角的に捉えながら地域課題と向き合う素養を醸成する「地域志向教育」を行います。地域の現状と向き合いつつ、課題改善に向けた既存の取り組みに参画したり、新たな企画を先導したりできる学生を育成することを目的としています。

(2) 「地域志向教育プログラム」で育成する力

「地域を多角的に理解する学生」「地域と共創する学生」「地域志向の企画構想をする学生」の育成を目指します。

<DP との関係>

関連するディプロマ・ポリシーは、③「課題解決能力・コミュニケーション」、④「社会人としての姿勢」、⑤「地域活性化志向」です。

(3) 「地域志向教育プログラム」の履修基準とプログラムの構成

<履修基準>

すべての学部等学生を対象とします。プログラム履修を希望する学生は、プログラムで指定された科目を履修してください。

<プログラムの構成>

1年次に、必修科目「茨城学」を履修します。また、1年次以降に「茨城学」以外の「地域志向科目」を履修します。併せて、基盤教育科目の「PBL 科目」あるいは学部等専門科目の「PBL 科目」を履修することで、地域課題へ実践的に向き合う力を育成します。PBLには、問題解決を主目的として、学生の皆さんが主体となり実践するグループ学習（Problem-Based Learning）と、各チームが具体的な学修課題をたてて、プロジェクトを遂行しながら行う学習（Project-Based Learning）があり、本プログラムではいずれも地域課題等をテーマに行います。そして、これらに学部等横断で取り組むのが「5学部混合地域 PBL 科目」です。また、学部等の専門性をより用いて取り組むのが学部等の「地域 PBL 科目」です。シラバスをよく読んで履修してください。

○コア科目

- ・基盤教育科目；茨城学（1年次2Q）1単位
- ・基盤教育科目・学部等専門科目；PBL 科目（1～4年次）

○関連科目

指定する基盤教育科目および専門科目（1～4年次）

(4)「地域志向教育プログラム」の修了要件

プログラムが指定するコア科目及び関連する基盤教育科目、各学部等が指定する専門科目を履修し、以下の要件を満たした学生に対し、卒業時に成績証明書に「地域志向教育プログラム修了」と記載されます。

<修了要件>

コア科目、関連科目合わせて12単位以上を修得すること。

○コア科目

- ・茨城学（1単位）必修
- ・PBL科目（2単位）選択必修 ※PBL科目は2単位以上履修可

○関連科目

指定する基盤教育および専門科目（1単位以上）選択

(5)「地域志向科目教育プログラム」の構成科目一覧

原則として、プログラムで指定する専門科目については、所属学部等の開講科目を履修してください。所属学部等以外の学部等が開講する専門科目を履修する場合には、開講学部等以外の学生の履修を制限している科目もありますので、必ずシラバスを確認してください。

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
基盤教育科目/ コア科目（必修）	スチューデントサ クセスセンター	茨城学	1
基盤教育科目/ コア科目（選択必修）	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/5学部混合地域PBL I	2
基盤教育科目/ コア科目（選択必修）	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/5学部混合地域PBL III	2
基盤教育科目/ コア科目（選択必修）	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/5学部混合地域PBL IV	2
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	共生とコミュニケーション/多文化共生	2
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	パフォーマンス&アート/水戸芸術館で学ぶ美術、演劇、音楽	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	思想・文学/子供と若者をめぐる文化	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	歴史・考古学/身近な考古学	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	物質と生命/J-PARCにおける中性子科学	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	環境と人間/霞ヶ浦の自然	1
基盤教育科目	スチューデントサ クセスセンター	環境と人間/身近な事例から考える地域社会 I(エネルギーと環境)	1
基盤教育科目	スチューデントサ クセスセンター	環境と人間/身近な事例から考える地域社会 II(気象災害と地域防災)	1
基盤教育科目	スチューデントサ クセスセンター	経済・経営/キャリア論入門;女性のキャリアとワークライフバランス	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	公共社会/キャリアデザイン論	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	公共社会/大学生と消費生活	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	公共社会/アントレプレナーシップ入門 I	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	公共社会/大学生と消費生活	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	公共社会/アグロエコロジー	1
基盤教育科目	スチューデントサクセ スセンター	公共社会/仕事を考える	1

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
基盤教育科目	スチューデントサクセスセンター	公共社会／アントレプレナーシップ入門Ⅱ	1
基盤教育科目	スチューデントサクセスセンター	公共社会／アントレプレナーシップ入門Ⅲ	1
基盤教育科目	スチューデントサクセスセンター	公共社会／アスリートの世界～鹿島アントラーズとの提携を通して～	1
基盤教育科目	スチューデントサクセスセンター	公共社会／ボランティア活動	1
基盤教育科目	スチューデントサクセス	公共社会／地域協創 PBL	2
基盤教育科目	スチューデントサクセスセンター	公共社会／インターンシップ実習Ⅰ	1
基盤教育科目	スチューデントサクセスセンター	公共社会／インターンシップ実習Ⅱ	1
専門科目	人文社会科学部	コミュニケーションの社会学	2
専門科目	人文社会科学部	地域メディア論	2
専門科目	人文社会科学部	若者文化論	2
専門科目	人文社会科学部	地誌学概論	2
専門科目	人文社会科学部	地域社会概論	2
専門科目	人文社会科学部	行政学Ⅰ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	平和学【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会行動論Ⅰ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	チームワーク・コーチング論	2
専門科目	人文社会科学部	地方行政論Ⅰ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	公共政策論Ⅰ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	協同組合論【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	日本近現代史Ⅰ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地域行政課題特講Ⅰ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地域行政課題特講Ⅱ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地域連携論Ⅱ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	環境・経済・社会	2
専門科目	人文社会科学部	人文地理学Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	地誌学特論【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会行動論Ⅱ	2
専門科目	人文社会科学部	スポーツ社会学	2
専門科目	人文社会科学部	地方創生とリーダーシップ	2
専門科目	人文社会科学部	公共政策論Ⅱ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	行政学Ⅱ【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	行政法Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	行政学Ⅰ【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	公共政策論Ⅰ【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	協同組合論【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地方行政論Ⅰ【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	平和学【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地域行政課題特講Ⅰ【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地域行政課題特講Ⅱ【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	公共政策論Ⅱ【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	行政学Ⅱ【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	日本経済史Ⅰ【経済学・経営学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	仕事の経済学	2

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
専門科目	人文社会科学部	日本財政論	2
専門科目	人文社会科学部	日本経済史Ⅱ【経済学・経営学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地域連携論Ⅱ【経済学・経営学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地方行政論Ⅰ【経済学・経営学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	平和学【経済学・経営学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	協同組合論【経済学・経営学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	日本経済論Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	社会政策論	2
専門科目	人文社会科学部	日本経済論Ⅱ	2
専門科目	人文社会科学部	地域の文化と市民	2
専門科目	人文社会科学部	プレゼン・スタディ	2
専門科目	人文社会科学部	日本近現代史Ⅰ【歴史・考古学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	日本経済史Ⅰ【歴史・考古学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	日本考古学Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	日本古代中世史Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	日本近世史Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	民俗学【歴史・考古学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	日本経済史Ⅱ【歴史・考古学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	地誌学特論【歴史・考古学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	感情心理論Ⅰ（感情・人格心理学）	2
専門科目	人文社会科学部	行動文化論Ⅱ（社会・集団・家族心理学）	2
専門科目	人文社会科学部	比較文化論	2
専門科目	人文社会科学部	民俗学【心理・人間科学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会行動論Ⅰ【心理・人間科学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会人入門	2
専門科目	人文社会科学部	地域 PBL 演習Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	地域 PBL 演習Ⅱ	2
専門科目	人文社会科学部	国際学概論	2
専門科目	人文社会科学部	人文地理学概論	2
専門科目	人文社会科学部	ユーラシア世界と日本の歴史【国際・地域共創メジャー】	1
専門科目	人文社会科学部	近現代の日本と世界【国際・地域共創メジャー】	1
専門科目	人文社会科学部	日本史概論	1
専門科目	人文社会科学部	世界史概論	1
専門科目	人文社会科学部	考古学入門	1
専門科目	人文社会科学部	ユーラシア世界と日本の歴史【歴史・考古学メジャー】	1
専門科目	人文社会科学部	近現代の日本と世界【歴史・考古学メジャー】	1
専門科目	人文社会科学部	文化人類学基礎論	1
専門科目	教育学部	美術館ワークショップ実習	1
専門科目	教育学部	茨城の歴史と文化	2
専門科目	教育学部	学校・地域社会・保護者の連携	2
専門科目	教育学部	異文化理解概論	2
専門科目	理学部	陸水生物学	2
専門科目	理学部	地球環境科学研究ⅠA	2
専門科目	理学部	臨湖実習	1

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
専門科目	理学部	陸水生物多様性生態学実習	1
専門科目	理学部	湖沼環境計測実習	1
専門科目	理学部	生態学Ⅰ	2
専門科目	理学部	地質学Ⅰ	2
専門科目	理学部	地球環境科学入門Ⅱ(社会へのかかわり)	1
専門科目	理学部	地質環境科学実習	2
専門科目	理学部	防災地質学	2
専門科目	理学部	地質調査基礎演習	2
専門科目	工学部	都市システム工学序論【都市システム】	2
専門科目	工学部	社会基盤工学概論【都市システム】	1
専門科目	工学部	交通システム	2
専門科目	工学部	景観工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	都市・地域計画【都市システム】	2
専門科目	工学部	都市防災システム工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	公共事業評価とリスク分析【都市システム】	2
専門科目	工学部	都市システム工学特別講義【都市システム】	2
専門科目	工学部	河川・水文学【都市システム】	2
専門科目	工学部	土木計画学【都市システム】	2
専門科目	工学部	都市システムフィールドワーク【都市システム】	1
専門科目	工学部	建築学概論【都市システム】	2
専門科目	工学部	建築史【都市システム】	2
専門科目	工学部	鉄筋コンクリート工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	地球環境工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	空間情報工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	上下水道工学	2
専門科目	工学部	水環境学	2
専門科目	工学部	橋梁及び鋼構造	2
専門科目	工学部	振動及び耐震工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	海岸工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	地盤工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	輸送施設工学	2
専門科目	工学部	建設施工	2
専門科目	農学部	地域環境ガバナンス論	2
専門科目	農学部	農業水利学	2
専門科目	農学部	農地環境工学	2
専門科目	農学部	農村計画学	2
専門科目	農学部	国際農業論	2
専門科目	農学部	フードシステム学	2
専門科目	農学部	農業史・環境史	2
専門科目	地域未来共創学環	人文地理学概論	2
専門科目	地域未来共創学環	地域社会学概論	2
専門科目	地域未来共創学環	地域社会調査法	2
専門科目	地域未来共創学環	ソーシャル・アントレプレナーシップⅠ	2
専門科目	地域未来共創学環	ソーシャル・アントレプレナーシップⅡ	2

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
専門科目	地域未来共創学環	経営学概論	2
専門科目	地域未来共創学環	データ活用実践	2
専門科目	地域未来共創学環	コミュニティビジネス	2
専門科目	地域未来共創学環	地域メディアビジネス論	2
専門科目	地域未来共創学環	フードシステム学	2
専門科目	地域未来共創学環	地方創生とリーダーシップ	2
専門科目	地域未来共創学環	都市防災システム工学	2
専門科目	地域未来共創学環	ランドスケープ整備論	2
専門科目	地域未来共創学環	コミュニティデザイン	2
専門科目	地域未来共創学環	地域メディア論	2
専門科目	地域未来共創学環	多文化共生論	2
専門科目	地域未来共創学環	ランドスケープデザイン	2
専門科目	地域未来共創学環	人文地理学	2
専門科目	地域未来共創学環	行政学	2
専門科目	地域未来共創学環	公共政策論	2
専門科目	地域未来共創学環	環境・経済・社会	2
専門科目	地域未来共創学環	環境経済評価法	2
専門科目	地域未来共創学環	地域環境ガバナンス論	2
専門科目	地域未来共創学環	スマート農業生産	2
専門科目	地域未来共創学環	IoT 活用実践	2
専門科目	地域未来共創学環	IoT・AI 活用演習	1
専門科目	地域未来共創学環	プレコープ演習	2
専門科目	地域未来共創学環	プレコープ実習	2
専門科目	地域未来共創学環	コープ実習Ⅰ	6
専門科目	地域未来共創学環	コープ実習Ⅱ	4

2-3 サステナビリティ学教育プログラム

DP との関係



(1) 「サステナビリティ学教育プログラム」について

サステナビリティ学は、地球社会の持続可能な発展を導くための新しい学問分野です。本プログラムでは、気候変動など地球環境問題の原因と解決、環境保全と開発のあり方、防災や減災、地域の歴史の再評価など、将来の地球と人間社会に関わる複雑で多面的な問題への学際的な理解を促すプログラムを提供します。

(2) 「サステナビリティ学教育プログラム」で育成する力

本プログラムでは、以下の能力を育成します。

- ・サステナビリティの広範な分野における重要性を理解することができる。
- ・学際的な視点からサステナビリティを考えることができる。
- ・自らの研究課題とサステナビリティとの科学的な結びつきを見いだすことができる。

<DP との関係>

関連するディプロマ・ポリシーは、DP①(世界の俯瞰的理解)、③「課題解決能力・コミュニケーション力」、④「社会人としての姿勢」、⑤「地域活性化志向」です。

(3) 「サステナビリティ学教育プログラム」の履修基準とプログラムの構成

<履修基準>

すべての学部等学生を対象とします。プログラム履修を希望する学生は、プログラムで指定された科目を履修してください。

<プログラムの構成>

コア科目の「サステナビリティ学入門」により全体像と履修のイメージを構築する手助けとし、関連科目の基盤教育科目 4 単位でそれぞれの分野や関連分野の基礎知識を身に付けます。さらに、関連する専門科目の履修により、また自らの主専攻と組み合わせることで自身の専門性にもつながるサステナビリティに対するより広い理解を目指します。

○コア科目

- ・基盤教育科目（リベラルアーツ：環境と人間）；サステナビリティ学入門（1年次）

○関連科目

- ・サステナビリティ学指定基盤教育科目および指定専門科目（1～4年次）

(4)「サステナビリティ学教育プログラム」の修了要件

プログラムが指定するコア科目及び関連する基盤教育科目、各学部等が指定する専門科目を履修し、以下の要件を満たした学生に対し、卒業時に成績証明書に「サステナビリティ学教育プログラム修了」と記載されます。

<修了要件>

以下の科目を含んだ計12単位以上修得を修了要件とします。

○コア科目

- ・環境と人間「サステナビリティ学入門」(2単位)必修

○関連科目

基盤科目に指定された科目から4単位選択

専門科目に指定された科目から6単位選択

(5)「サステナビリティ学教育プログラム」の構成科目

原則として、プログラムで指定する専門科目については、所属学部等の開講科目を履修してください。所属学部等以外の学部等が開講する専門科目を履修する場合には、開講学部等以外の学生の履修を制限している科目もありますので、必ずシラバスを確認してください。

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
基盤教育科目/ コア科目(必修)	スチューデントサク セスセンター	環境と人間/サステナビリティ学入門	2
基盤教育科目	スチューデントサク セスセンター	グローバル・スタディーズ/環境と経済のサステナビリティ:気候変動編	1
基盤教育科目	スチューデントサク セスセンター	環境と人間/地球環境と人間活動	1
基盤教育科目	スチューデントサク セスセンター	公共社会/アグロエコロジー	1
基盤教育科目	スチューデントサク セスセンター	グローバル・スタディーズ/環境と経済のサステナビリティ:エネルギー編	1
基盤教育科目	スチューデントサク セスセンター	技術と社会/微生物と人間社会	1
基盤教育科目	スチューデントサク セスセンター	環境と人間/エネルギーと材料	1
基盤教育科目	スチューデントサク セスセンター	技術と社会/計算機実験とエネルギー技術	1
基盤教育科目	スチューデントサク セスセンター	経済・経営/エネルギー経済論	1
専門科目	人文社会科学部	国際学概論	2
専門科目	人文社会科学部	国際協力論	2
専門科目	人文社会科学部	地誌学概論	2
専門科目	人文社会科学部	自然地理学I	2
専門科目	人文社会科学部	国際開発学	2
専門科目	人文社会科学部	平和学【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会行動論I【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	環境社会学	2
専門科目	人文社会科学部	環境・経済・社会	2
専門科目	人文社会科学部	人間の安全保障	2

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
専門科目	人文社会科学部	地誌学特論【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会行動論Ⅱ	2
専門科目	人文社会科学部	国際社会学	2
専門科目	人文社会科学部	国際政治学	2
専門科目	人文社会科学部	平和学【法学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	平和学【経済学・経営学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会政策論	2
専門科目	人文社会科学部	地誌学特論【歴史・考古学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会行動論Ⅰ【心理・人間科学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	人文地理学概論	2
専門科目	人文社会科学部	自然地理学Ⅱ	2
専門科目	人文社会科学部	環境政策論	2
専門科目	教育学部	自然地理学概論	2
専門科目	教育学部	自然地理学特講	2
専門科目	教育学部	英語文学概論B	2
専門科目	教育学部	英語文学特講Ⅰ	2
専門科目	教育学部	英語文学・文化演習B	2
専門科目	教育学部	化学概論	2
専門科目	教育学部	地学概論	2
専門科目	教育学部	地質学	2
専門科目	教育学部	衛生学	2
専門科目	理学部	地球環境科学入門Ⅰ	2
専門科目	理学部	生物学通論Ⅱ	2
専門科目	理学部	基礎地球惑星科学Ⅰ	2
専門科目	理学部	基礎地球惑星科学Ⅱ	2
専門科目	理学部	古海洋学	2
専門科目	理学部	環境リスクマネジメント論	2
専門科目	理学部	生態学Ⅱ	2
専門科目	理学部	陸水環境科学実習	2
専門科目	理学部	大気科学Ⅰ	2
専門科目	理学部	地質環境学概論	2
専門科目	理学部	大気科学Ⅱ	2
専門科目	工学部	環境工学【機械システム】	2
専門科目	工学部	建築設備【都市システム】	2
専門科目	工学部	地球環境工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	都市・地域計画【都市システム】	2
専門科目	工学部	上下水道工学	2
専門科目	工学部	河川・水文学【都市システム】	2
専門科目	工学部	水環境学	2
専門科目	工学部	機械材料工学Ⅰ【機械システム】	2
専門科目	工学部	都市システム工学序論【都市システム】	1
専門科目	工学部	社会基盤工学概論【都市システム】	1
専門科目	工学部	測量学【都市システム】	2
専門科目	工学部	土木計画学【都市システム】	2

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
専門科目	工学部	鉄筋コンクリート工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	景観工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	空間情報工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	交通システム	2
専門科目	工学部	橋梁及び鋼構造	2
専門科目	工学部	振動及び耐震工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	海岸工学【都市システム】	2
専門科目	工学部	地盤工学【都市システム】	2
専門科目	農学部	地域総合農学入門	2
専門科目	農学部	微生物生態学	2
専門科目	農学部	国際農業論	2
専門科目	農学部	地圏生態化学	2
専門科目	農学部	農作業学	2
専門科目	農学部	環境経済学	2
専門科目	農学部	地域環境ガバナンス論	2
専門科目	農学部	農業史・環境史	2
専門科目	農学部	フードシステム学	2
専門科目	地域未来共創学環	人文地理学概論	2
専門科目	地域未来共創学環	フードシステム学	2
専門科目	地域未来共創学環	ランドスケープデザイン	2
専門科目	地域未来共創学環	環境政策論	2
専門科目	地域未来共創学環	環境・経済・社会	2
専門科目	地域未来共創学環	環境経済学	2
専門科目	地域未来共創学環	環境・経済・社会	2
専門科目	地域未来共創学環	環境経済評価法	2

2-4 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

DP との関係



(1) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」について

学生の数理・データサイエンス・AI への関心を高め、かつ、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成するため、本プログラムでは、人工知能(AI)及び数理・データサイエンスの基礎的素養を醸成するとともに、Society5.0 等のデータ・デジタル化社会や持続可能性社会 (SDGs 等) に向け、データサイエンスを活用した課題解決能力やイノベーションを創出する能力を養成することを目的とします。

(2) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」で育成する力

国内外問わず様々な領域で課題解決を目的として利用される数理・データサイエンス・AI に対する基礎能力を身に付けます。また、課題解決に向けたプロセスにおいて必要となる専門知識や技能を習得します。

<DP との関係>

数理・データサイエンス・AI に対する基礎的素養は、DP①(世界の俯瞰的理解)、DP③(課題解決能力)、④(社会人としての姿勢)に関わる能力を育成します。専門知識や技能の習得は、DP②(専門分野の学力)に関わる能力を育成します。

(3) 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の履修基準とプログラムの構成

<履修基準>

すべての学部等学生を対象とします。プログラム履修を希望する学生は、プログラムで指定された科目を履修してください。

<プログラムの構成>

本プログラムはコア科目4単位とその他関連科目8単位によって構成されています。基盤教育科目「情報リテラシー」及び「データサイエンス・AI 入門」を文理融合型の数理・データサイエンス・AI に対する基礎能力を身に付けるためのコア科目とし、この2科目を本プログラムの基礎コースとして位置付けます。「データサイエンス・AI 入門」は統一シラバスで行い、文理を問わず本学の学生が身に付ける基礎能力を基準として位置付けます。「情報リテラシー」は準統一シラバスとし、各学部等の学生の習熟度に応じて柔軟に設計するとともに必要であれば関連科目を加えることで「データサイエンス・AI 入門」よりも基本的な内容を補完します。また、その他の関連科目によりデータサイエンスを活用した課題解決能力とともにイノベーションを創出する応用基礎能力を育成します。

コア科目4単位修得した学生は基礎コース修了者として認定されます。コア科目、関連科目を合計12単位以上修得した学生はプログラム修了者として認定されます。

○コア科目

- ・基盤教育科目；情報リテラシー（1年次前学期）
- ・基盤教育科目；データサイエンス・AI 入門（1年次後学期）

○関連科目

指定する基盤教育科目および学部等専門科目（1年～4年次）

- ・数学基礎科目（1年～4年次）
- ・プログラミング科目（1年～4年次）
- ・実践科目（1年～4年次）

(4)「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の修了要件

プログラムが指定するコア科目及び関連する基盤教育科目、各学部等が指定する専門科目を履修し、以下の要件を満たした学生に対し、卒業時に成績証明書に「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム修了」と記載されます。また、基礎コース修了者には、要件を満たした段階で、成績証明書に「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム基礎コース修了」と記載されます。

<修了要件(基礎コース)>

コア科目4単位修得を修了要件とする。

<修了要件(プログラム)>

コア科目4単位、関連科目8単位以上の計12単位以上修得を修了要件とする。

○コア科目

- ・情報リテラシー(2単位)必修
- ・データサイエンス・AI入門(2単位)必修

○関連科目

指定する基盤教育科目および学部等専門科目から以下を含んだ8単位選択

- ・数学基礎科目1単位以上
- ・プログラミング科目1単位以上
- ・実践科目 3 単位以上

(5)「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の構成科目

原則として、プログラムで指定する専門科目については、所属学部等の開講科目を履修してください。所属学部等以外の学部等が開講する専門科目を履修する場合には、開講学部等以外の学生の履修を制限している科目もありますので、必ずシラバスを確認してください。

表1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム構成科目

	科目名	単位数	開講時期	区分	内容(注)	備考
コア科目	情報リテラシー	2 単位	1 年次前学期	必修	④⑤	基礎 コース
	データサイエンス・AI 入門	2 単位	1 年次後学期	必修	① ②③④⑤ ①②	
関連科目	数学基礎科目（詳細な科目は表2参照）	1 単位以上	1～4 年次	選択必修	①	8 単位 履修
	プログラミング科目（詳細な科目は表3参照）	1 単位以上	1～4 年次	選択必修	①	
	実践科目（詳細な科目は表4参照）	3 単位以上	1～4 年次	選択必修	③	

(注) 表中、「内容」に記載の番号は、それぞれの授業科目が含んでいる数理・データサイエンス・AI 教育に関する内容を意味します。番号が示す内容は以下のとおりです。

- ①：数理・データサイエンス・AI は、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。

- ②：数理・データサイエンス・A I が対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。
- ③：様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・A I は様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。
- ④：数理・データサイエンス・A I は万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、A I 社会原則等）を考慮することが重要であること。
- ⑤：実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・A I の基本的な活用法に関すること。
- ④ データ表現とアルゴリズム：データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分 積分）」に加え、A I を実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。
- ⑤ A I ・データサイエンス基礎：A I の歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にA I を活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するA I 基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。
- ⑥ A I ・データサイエンス実践：本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・A I 活用 企画・実施・評価」から構成される。

表2 数学基礎科目

科目区分	開講部局	授業科目	区分	単位
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「統計学の基礎」	選択必修	1
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「データ分析の基礎」	選択必修	1
専門科目	人文社会科学部	心理統計Ⅰ（心理学統計法）	選択必修	2
専門科目	理学部	統計入門	選択必修	2
専門科目	理学部	微積分Ⅰ	選択	2
専門科目	理学部	基礎微積分Ⅰ	選択	2
専門科目	理学部	線形代数Ⅰ	選択	2
専門科目	理学部	基礎線形代数	選択	2
専門科目	工学部	確率統計【電気電子システム】	選択必修	1
専門科目	工学部	数理統計【物質科学】	選択必修	2
専門科目	工学部	数理統計【都市システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	数理統計学【機械システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	微積分学【各学科】	選択	2
専門科目	工学部	線形代数Ⅰ【各学科】	選択	2
専門科目	農学部	統計学	選択必修	2
専門科目	農学部	統計学入門	選択必修	2
専門科目	農学部	線形代数学	選択	2
専門科目	農学部	線形代数学入門	選択	2
専門科目	農学部	微積分学	選択	2
専門科目	農学部	微積分学入門	選択	1
専門科目	地域未来共創学環	確率・統計	選択必修	2

専門科目	地域未来共創学環	微積分学	選択	2
専門科目	地域未来共創学環	線形代数学	選択	2

表3 プログラミング科目

科目区分	開講部局	授業科目	区分	単位
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「プログラミング入門」	選択必修	1
専門科目	理学部	情報基礎	選択必修	2
専門科目	理学部	プログラミング A	選択必修	2
専門科目	理学部	プログラミング B	選択必修	2
専門科目	工学部	プログラミング演習 I 【機械システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	プログラミング演習 I 【電気電子システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	プログラミング演習 I 【物質科学】	選択必修	2
専門科目	工学部	プログラミング演習 I 【都市システム】	選択必修	2
専門科目	農学部	プログラミング基礎	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	プログラミング I	選択必修	2
専門科目	工学部	プログラミング演習 II 【機械システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	プログラミング演習 II 【電気電子システム】	選択必修	2
専門科目	農学部	プログラミング演習	選択必修	1
専門科目	地域未来共創学環	プログラミング II	選択必修	2

表4 実践科目

科目区分	開講部局	授業科目	区分	単位
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「情報通信業の産業構造」	選択必修	1
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「計算機実験とエネルギー技術」	選択必修	1
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「電気電子工学と社会の発展」	選択必修	1
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「情報通信技術のしくみ」	選択必修	1
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	環境と人間「サステナビリティ学入門」	選択必修	2
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「アルゴリズムとデータ構造の初歩的内容」	選択必修	1
基盤科目	スチューデントサクセスセンター	技術と社会「AI 基礎演習」	選択必修	1
専門科目	人文社会科学部	メディア・リテラシー	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	情報活用論	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	情報メディア論	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	社会調査法	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	データ分析法	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	地理空間情報論	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	情報応用リテラシー	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	政治分析法	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	情報学	選択必修	2
専門科目	人文社会科学部	社会調査演習 II	選択必修	4
専門科目	人文社会科学部	社会調査演習 III	選択必修	4
専門科目	人文社会科学部	社会調査演習 IV	選択必修	4
専門科目	人文社会科学部	心理統計 II (心理学統計法)	選択必修	2
専門科目	教育学部	情報技術概論	選択必修	2
専門科目	教育学部	情報システム概論	選択必修	2
専門科目	教育学部	情報通信ネットワーク概論	選択必修	2

科目区分	開講部局	授業科目	区分	単位
専門科目	教育学部	シミュレーション技法	選択必修	2
専門科目	理学部	地球科学データ処理	選択必修	2
専門科目	理学部	地球科学データ処理実習	選択必修	1
専門科目	理学部	アルゴリズム論	選択必修	2
専門科目	理学部	アルゴリズム演習	選択必修	2
専門科目	理学部	ネットワーク概論	選択必修	2
専門科目	理学部	ネットワーク演習	選択必修	2
専門科目	理学部	データ解析概論	選択必修	2
専門科目	理学部	データ解析演習	選択必修	2
専門科目	工学部	機械学習【機械システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	機械学習Ⅱ	選択必修	2
専門科目	工学部	アルゴリズムとデータ構造演習【電気電子システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	アルゴリズムとデータ構造演習【機械システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	画像処理【電気電子システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	インターネット社会学	選択必修	2
専門科目	工学部	自然言語処理	選択必修	2
専門科目	工学部	画像処理	選択必修	2
専門科目	工学部	確率過程論	選択必修	2
専門科目	工学部	情報工学トピックス	選択必修	2
専門科目	工学部	空間情報工学【都市システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	多変量解析【都市システム】	選択必修	2
専門科目	工学部	都市システム情報処理【都市システム】	選択必修	1
専門科目	農学部	測量学	選択必修	2
専門科目	農学部	地理情報学	選択必修	2
専門科目	農学部	農学実習	選択必修	2
専門科目	農学部	農作業学	選択必修	2
専門科目	農学部	生物生産機械学実験	選択必修	1
専門科目	農学部	統計情報処理	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	計量経済学	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	データ活用法	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	多変量解析	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	データ活用実践	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	IoT 活用法	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	モデル化とシミュレーション	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	数理計画と OR	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	機械学習	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	地理情報学	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	画像処理	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	自然言語処理	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	スマート農業生産	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	IoT 活用実践	選択必修	2
専門科目	地域未来共創学環	機械学習演習	選択必修	1
専門科目	地域未来共創学環	IoT・AI 活用演習	選択必修	1
専門科目	地域未来共創学環	ソリューション・プランニング	選択必修	2

2-5 アントレプレナーシップ教育プログラム

DP との関係



(1) 「アントレプレナーシップ教育プログラム」について

起業家精神（アントレプレナーシップ）・組織内起業家精神（イントレプレナーシップ）を醸成し、それらを実践するため、文理横断的な普遍的な知識・汎用的技能を有し、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材を養成することを目的とします。

(2) 「アントレプレナーシップ教育プログラム」で育成する力

アントレプレナーシップ・イントレプレナーシップの基礎的マインドを醸成しつつ、経営や数理・データサイエンスの基礎的知識・技能を身につけます。

育成を目指す能力は以下のとおりです。

- ・キーコンピテンシー+変革を起こすコンピテンシー（新たな価値を創造する力、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力）
- ・多様な科学的知見を活かし、かつ文理横断や異分野融合的な視点を持って、多様化・複雑化する課題に他者と協働して課題解決にチャレンジする資質・能力
- ・地域に新たな価値を生み出すマインド・姿勢、知識・技能

<DP との関係>

ディプロマ・ポリシーDP③(課題解決能力)、DP④(社会人としての姿勢)、DP⑤地域活性化志向、に強く関連します。

(3) 「アントレプレナーシップ教育プログラム」のプログラムの構成と履修基準

<プログラムの構成>

1~2年次まで必修である入門科目を履修し、1~3年次にかけて、選択必修の実践科目を各自履修します。また、1~3年次にかけて基礎科目として指定された基盤教育科目および専門科目を履修します。

「ビジネスプランデザイン」では、本学ビジネスプランコンテスト等を契機として活用し、ビジネスを構想する力と戦略策定力を身に着けることを目指します。スタートアップや新興企業の経営層を外部講師として招聘します。

発展科目の「ビジネスプランデザイン実践演習」では、大企業等を取り巻く事業環境やビジネスモデルの分析を行ない、成長への戦略を考えます。複数の大企業人材等を外部講師として招聘します。

<履修基準>

すべての学部等学生を対象とします。プログラム履修を希望する学生は、プログラムで指定された科目を履修してください。

○コア科目

[入門科目] (必修)

アントレプレナーシップの基礎的マインドの醸成

起業家・組織内起業家として必要な資質・知識・技能の理解

- ・ 基盤教育科目（グローバル化と人間社会）；アントレプレナーシップ入門Ⅰ、Ⅱ（1年次）
- ・ 基盤教育科目（グローバル化と人間社会）；アントレプレナーシップ入門Ⅲ（2年次）

[実践科目]（選択必修）

起業家・組織内起業家として必要な基礎的知識・技能の活用・展開

- ・ 基盤教育科目（グローバル化と人間社会）；ビジネスプランデザイン（2年次）
- ・ 基盤教育科目（グローバル化と人間社会）；ビジネスプランデザイン実践演習（2～3年次）
- ・ 基盤教育科目（グローバル化と人間社会）または専門科目；インターンシップ（1～3年次）
- ・ 基盤教育科目（グローバル化と人間社会）；アントレプレナーシップ型インターンシップ（2～3年次）

○関連科目

[基礎科目]（選択必修）

起業家・組織内起業家として必要な基礎的知識・技能の修得

- ・ 指定する基盤教育科目・専門科目

(4)「アントレプレナーシップ教育プログラム」の修了要件

プログラムが指定するコア科目及び関連する基盤教育科目、各学部等が指定する専門科目を履修し、以下の要件を満たした学生に対し、卒業時に成績証明書に「アントレプレナーシップ教育プログラム修了」と記載されます。

<修了要件>

以下の科目を含んだ計12単位以上修得を修了要件とする。

[入門科目]:3 単位必修

[実践科目]:4 単位選択必修

[基礎科目]:経営系科目から2単位選択必修、数理データサイエンス系科目から2単位選択必修、合計 5 単位選択必修

・地域未来共創学環の学生については、専門科目「コーオペ実習Ⅰ」(6 単位)を履修することで、実践科目を修得したものとみなします。

・基盤教育科目(グローバル化と人間社会)または専門科目で開講されるインターンシップ科目は、2 単位以上修得することで実践科目として認定します。

・アントレプレナーシップ型インターンシップは、ⅠとⅡの両方を修得することで実践科目として認定します。

(5)「アントレプレナーシップ教育プログラム」の構成科目

原則として、プログラムで指定する専門科目については、所属学部等の開講科目を履修してください。所属学部等以外の学部等が開講する専門科目を履修する場合には、開講学部等以外の学生の履修を制限している科目もありますので、必ずシラバスを確認してください。

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
基盤教育科目/ コア科目(必修)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/アントレプレナーシップ入門Ⅰ	1
基盤教育科目/ コア科目(必修)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/アントレプレナーシップ入門Ⅱ	1
基盤教育科目/ コア科目(必修)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/アントレプレナーシップ入門Ⅲ	1
基盤教育科目/ コア科目(選択必修)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/ビジネスプランデザイン	2
基盤教育科目/ コア科目(選択必修)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/アントレプレナーシップ型インターンシップ Ⅰ,Ⅱ	計2
基盤教育科目/ コア科目(選択必修)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/ビジネスプランデザイン実践演習	2
基盤教育科目・専門科目 /コア科目(選択必修)	各学部等及びスチ ューデントサクセ スセンター	インターンシップ	1~2
基盤教育科目(経営系)	スチューデントサ クセスセンター	経済・経営/エネルギー経済論	1
基盤教育科目(経営系)	スチューデントサ クセスセンター	経済・経営/キャリア論入門;女性のキャリアとワーク ライフバランス	1
基盤教育科目(経営系)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/キャリアデザイン論	1
基盤教育科目(経営系)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/仕事を考える	1
基盤教育科目(経営系)	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/社会的価値創造論	2
基盤教育科目(経営系)	スチューデントサ クセスセンター	グローバル・スタディーズ/環境と経済のサステイナビ リティ:気候変動編	1
基盤教育科目(経営系)	スチューデントサ クセスセンター	グローバル・スタディーズ/環境と経済のサステイナビ リティ:エネルギー編	1
基盤教育科目(経営系)	スチューデントサ クセスセンター	経済・経営/会社とはなにか	1
基盤教育科目(数理系)	スチューデントサ クセスセンター	技術と社会/プログラミング入門	1
基盤教育科目(数理系)	スチューデントサ クセスセンター	技術と社会/データ分析の基礎	1
基盤教育科目(数理系)	スチューデントサ クセスセンター	技術と社会/統計学の基礎	1
基盤教育科目	スチューデントサ クセスセンター	公共社会/知的財産と社会実装	1
基盤教育科目	スチューデントサ クセスセンター	共生とコミュニケーション/短期海外研修(ブルネイ)	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	経営学概論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	会計学概論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	仕事の経済学	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	経営管理論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	マーケティング論Ⅰ	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	財務会計論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	経営戦略論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	経営組織論	2

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
専門科目(経営系)	人文社会科学部	原価計算論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	管理会計論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	イノベーション論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	監査論	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	マーケティング論Ⅱ	2
専門科目(経営系)	人文社会科学部	経営財務論	2
専門科目(数理系)	人文社会科学部	マーケティング・サイエンスⅠ	2
専門科目(数理系)	人文社会科学部	マーケティング・サイエンスⅡ	2
専門科目(数理系)	人文社会科学部	情報活用論	2
専門科目(数理系)	人文社会科学部	社会調査法【国際・地域共創メジャー】	2
専門科目(数理系)	人文社会科学部	データ分析法	2
専門科目(数理系)	人文社会科学部	情報学	2
専門科目(数理系)	人文社会科学部	社会調査演習Ⅱ	4
専門科目(数理系)	人文社会科学部	社会調査演習Ⅲ	4
専門科目(数理系)	人文社会科学部	社会調査演習Ⅳ	4
専門科目(数理系)	人文社会科学部	社会調査法【経済学・経営学メジャー】	2
専門科目	人文社会科学部	社会調査演習Ⅰ	4
専門科目	人文社会科学部	商法	2
専門科目	人文社会科学部	労働法Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	経済法	2
専門科目	人文社会科学部	知的財産法	2
専門科目	人文社会科学部	労働法Ⅱ	2
専門科目	人文社会科学部	労働法Ⅲ	2
専門科目	人文社会科学部	金融論	2
専門科目	人文社会科学部	統計学	2
専門科目	人文社会科学部	地域金融論	2
専門科目	人文社会科学部	金融システム論	2
専門科目	人文社会科学部	労働経済論	2
専門科目	人文社会科学部	地域金融特論	2
専門科目	人文社会科学部	地域連携論Ⅰ	2
専門科目	人文社会科学部	地域連携論Ⅱ	2
専門科目(数理系)	教育学部	情報技術概論	2
専門科目	教育学部	英語文学概論B	2
専門科目	教育学部	英語文学特講Ⅰ	2
専門科目	教育学部	英語文学・文化演習B	2
専門科目(数理系)	理学部	地球科学データ処理	2
専門科目(数理系)	理学部	地球科学データ処理実習	1
専門科目	理学部	地球環境科学入門Ⅱ(社会へのかかわり)	1
専門科目(経営系)	工学部	経営情報学	2
専門科目(数理系)	工学部	プログラミング演習Ⅰ【機械システム】	2
専門科目(数理系)	工学部	プログラミング演習Ⅱ【機械システム】	2
専門科目(数理系)	工学部	プログラミング演習Ⅰ【機械システム】	2
専門科目(数理系)	工学部	プログラミング演習Ⅰ【電気電子システム】	2
専門科目(数理系)	工学部	プログラミング演習Ⅰ【物質科学】	2

科目区分	開講部局	授業科目	単位数
専門科目(数理系)	工学部	数理統計【物質科学】	2
専門科目(数理系)	工学部	数理統計【都市システム】	2
専門科目(数理系)	工学部	プログラミング演習Ⅰ【都市システム】	2
専門科目	工学部	シミュレーション工学Ⅱ	2
専門科目	工学部	情報スキル【機械システム】	1
専門科目	工学部	機械学習Ⅱ	2
専門科目	工学部	情報スキル【電気電子システム】	1
専門科目	工学部	情報スキル【物質科学】	1
専門科目	工学部	情報スキル【都市システム】	1
専門科目(数理系)	農学部	統計学	2
専門科目(数理系)	農学部	プログラミング基礎	2
専門科目(数理系)	農学部	統計学入門	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	ソーシャル・アントレプレナーシップⅠ	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	ソーシャル・アントレプレナーシップⅡ	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	経営学概論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	会計学概論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	経営戦略論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	マーケティング論Ⅰ	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	経営管理論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	財務会計論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	経営組織論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	マーケティング論Ⅱ	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	経営財務論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	経営情報学	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	原価計算論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	管理会計論	2
専門科目(経営系)	地域未来共創学環	イノベーション論	2
専門科目(数理系)	地域未来共創学環	機械学習	2
専門科目	地域未来共創学環	商法	2
専門科目	地域未来共創学環	金融論	2
専門科目	地域未来共創学環	金融システム論	2
専門科目	地域未来共創学環	シミュレーション工学Ⅱ	2
専門科目	地域未来共創学環	コーオペ実習Ⅰ	6
専門科目	地域未来共創学環	コーオペ実習Ⅱ	4

2-6 日本語教員養成プログラム



(1) 「日本語教員養成プログラム」について

本プログラムは、外国語としての日本語を指導するために必要な専門的基礎知識と基礎能力の習得を目的とします。

本プログラム修了に必要な単位数は26単位(必修科目12単位、選択科目14単位)です(注1)。

必要単位数を取得した者には、「茨城大学日本語教員養成プログラム修了証」を交付します。本修了証は、本プログラムの所定の単位を取得し、本プログラムを修了したことを証明するもので、日本語教員資格などを認定するものではないことに注意してください。

(注1) 本プログラムの教育課程編成は、文化庁が平成12年3月30日に取りまとめた「日本語教育のための教員養成について」において示された教育内容に準拠します。また、法務省による日本語教育機関の告示基準(平成29年8月1日施行)の第1条第1項13号及び「日本語教育機関の告示基準解釈指針」に示された「日本語教育機関における教員の要件」(平成29年度4月以降入学者から適用)を満たす教育課程となっています。なお、本プログラムは、国家資格である登録日本語教員養成のための「登録実践研修機関及び登録日本語教員養成機関」としては未登録です(2024年4月時点)。

(2) 「日本語教員養成プログラム」の受講対象者について

本プログラムを受講できるのは人文社会科学部と教育学部の学生です。なお、本プログラムは人文社会科学部のサブメジャーとなっています。詳しくは人文社会科学部の履修要項等を確認してください。

本プログラムは学年進行で開講されます。

(3) 「日本語教員養成プログラム」の履修科目及び履修基準について

本プログラムは選択科目と必修科目から構成されています。それぞれの履修科目及び履修基準は次のとおりです。

1) 選択科目

① 選択科目(注3)は、指定された基盤教育科目(注4)及び人文社会科学部・教育学部開講の専門科目から選択すること。

(注3) 「ナンバリングコード」に「JTP」のコードが付された科目

(注4) 基盤教育科目は、異なる授業題目であれば同一授業科目を複数履修することができる。

② 履修に当たっては、所属学部の履修基準に従い、各授業科目の履修上の注意をよく読んで履修すること。

③ 選択科目は、領域1「言語、言語と心理、言語と教育」、領域2「言語と社会、社会・文化・地域」の各領域4単位以上含み、14単位以上を履修すること。

2) 必修科目

① 「共生とコミュニケーション[日本語を考える]」は(日本語の諸相)、(日本語文法)の計2単位を履修すること。

② 「日本語教授法」はI、IIの順で履修すること。

③ 「日本語教授法演習」「日本語教授法演習(海外)」はいずれか1科目を履修すること。

④ 「日本語教授法演習」及び「日本語教授法演習(海外)」は3年次後学期又は4年次に受講す

るが「日本語教授法演習」「日本語教授法演習（海外）」開始前に当該授業以外の所要単位をすべて取得済みであることが履修条件なので注意すること。また、「日本語教授法演習（海外）」は学内の交換留学に応募し、受入校への交換留学派遣候補者として推薦を受けることが履修条件となっている。

- ⑤ 必修科目の「日本語教育概論」、「多文化社会と日本語教育」、「日本語教授法Ⅰ」、「日本語教授法Ⅱ」、「日本語教授法演習」「日本語教授法演習（海外）」は、基盤教育科目として開講される。
- ⑥ 「日本語教授法演習」の受講者数は、3年次以上後学期10名程度、4年次前学期10名程度であり、希望者が受入可能数を超えた場合は、必修科目（共生とコミュニケーション[日本語を考える(日本語の諸相)及び(日本語文法)]、日本語教育概論、多文化社会と日本語教育、日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ)の成績によって選抜する。選抜の時期は、3年次前学期の成績が出た時点（9月中旬頃）とする。その結果、「日本語教授法演習」を受講できず、本プログラムを修了できないことがあるので注意すること。
- ⑦ 「日本語教授法演習」及び「日本語教授法演習（海外）」以外の必修科目は、必ずしも本プログラム修了を目指さない人文社会科学部・教育学部の学生も履修できる。
- ⑧ 「日本語教授法演習」及び「日本語教授法演習（海外）」は履修条件を満たしているかどうか、確認の上、履修申告すること。

表1 必修科目(12単位)

※基盤： 基盤教育科目

	授業科目	履修年次	開講学期	単位
基盤	共生とコミュニケーション 「日本語を考える(日本語の諸相)」	1年次以上	1年第3クォーター	1
基盤	共生とコミュニケーション 「日本語を考える(日本語文法)」	1年次以上	1年第4クォーター	1
基盤	共生とコミュニケーション「日本語教育概論」	2年次以上	前学期	2
基盤	共生とコミュニケーション 「多文化社会と日本語教育」	2年次以上	前学期	2
基盤	共生とコミュニケーション「日本語教授法Ⅰ」	2年次以上	後学期	2
基盤	共生とコミュニケーション「日本語教授法Ⅱ」	3年次以上	前学期	2
基盤	共生とコミュニケーション「日本語教授法演習」 または 共生とコミュニケーション「日本語教授法演習（海外）」	3年次以上	3年後学期/ 4年前学期	2

(注1) 「日本語教授法演習」の期間は約4週間である。その期間中に茨城大学の日本語クラスでの教壇実習を含む13回(30時間)の授業を行う。

(注2) 「日本語教授法演習（海外）」は大学間交流協定校との協力でを行う。渡航前に本学の担当教員によるガイダンスを受ける。受入協定校で、協定校の担当教員の指導のもと、1学期に26時間以上日本語教育に関する学修（授業見学、採点補助、会話パートナー、教材作成補助、教壇実習など）を行う。帰国後レポートを提出し、帰国報告会を行う。受入協定校はインドネシア教育大学、ウィスコンシン大学（米国）、レンヌ第一大学（フランス）、マレーシア科学大学、ハイフォン大学（ベトナム）。受け入れ協定校が追加される場合や、協定校の事情等により受入れできない年度もあるため、留学申請前にプログラム担当教員に相談すること。

(4)「日本語教員養成プログラム」の開講科目について

「日本語教師養成プログラム」に対応する科目は表2「日本語教師養成プログラム」対応科目一

覧のとおりです。

原則として、指定する専門科目については、所属学部の開講科目を履修してください。開講学部以外の学生の履修を制限している科目もありますので、やむを得ず、所属学部以外の学部が開講する専門科目を履修する場合には、履修登録前に必ずシラバスを確認してください。

表2 「日本語教師養成プログラム」対応科目一覧

区分	領域	学部	授業科目	対象年	単位	学部	授業科目	対象年	単位
必修科目		基盤	共生とコミュニケーション 【日本語を考える(日本語の諸相)】	1年	1	基盤	共生とコミュニケーション 【日本語教授法Ⅰ】	2年	2
		基盤	共生とコミュニケーション 【日本語を考える(日本語文法)】	1年	1	基盤	共生とコミュニケーション 【日本語教授法Ⅱ】	3年	2
		基盤	共生とコミュニケーション 【日本語教育概論】	2年	2	基盤	共生とコミュニケーション 【日本語教授法演習】 または 【日本語教授法演習(海外)】	3年	2
		基盤	共生とコミュニケーション 【多文化社会と日本語教育】	2年	2				
選択科目	領域1	人	国語学概論	1年	2	教	英語学概論A	1年	2
		人	国語史Ⅰ	2年	2	教	英語科指導法演習Ⅰ(注1)	2年	2
		人	国語史Ⅱ	2年	2	教	初等国語科総合内容論(注1)	1年	1
		人	言語学概論	1年	1	教	初等国語科教育法(注1)	2年	2
		人	認知心理Ⅰ	2年	2	教	中等国語科教育法Ⅲ(注1)	2年	2
		人	ドイツ語Ⅰ	1年	2	教	国語学概論	1年	2
		人	ドイツ語Ⅱ	1年	2	教	教育心理学(注1)	1年	2
		人	フランス語Ⅰ	1年	2	基盤	ドイツ語入門	1年	1
		人	フランス語Ⅱ	1年	2	基盤	フランス語入門	1年	1
		人	中国語Ⅰ	1年	2	基盤	中国語入門	1年	1
		人	中国語Ⅱ	1年	2	基盤	朝鮮語入門	1年	1
		人	朝鮮語Ⅰ	1年	2	基盤	スペイン語入門	1年	1
		人	スペイン語Ⅰ	1年	2	基盤	学術日本語Ⅰ(注2)	1年	1
		人	知的財産法	3年	2	基盤	学術日本語ⅡA(注2)	1年	1
		人	理論言語学	3年	2	基盤	学術日本語ⅡB(注2)	1年	1
		教	英語科教育法Ⅰ(注1)	1年	2	基盤	学術日本語ⅡC(注2)	1年	1
	教	英語科教育法Ⅱ(注1)	2年	2	基盤	思想・文学	1年	1	
	領域2	人	多文化社会論	2年	2	教	異文化理解概論A	2年	1
		人	異文化コミュニケーション論	2年	2	教	異文化理解概論B	2年	1
		人	国際開発学	2年	2	教	異文化理解概論	2年	2
人		国際協力論	2年	2	基盤	共生とコミュニケーション	1年	1~2	
人		平和学	2年	2	基盤	グローバル・スタディーズ	1年	1~2	
人		比較文化論	2年	2					

◆必修科目…12単位履修

◆選択科目…領域1「言語、言語と心理、言語と教育」、領域2「言語と社会、社会・文化・地域」の各領域4単位以上を含み、14単位以上を3年次後学期開始前までに取得しておくこと。

注1:「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」、「初等国語科総合内容論」、「初等国語科教育法」、「中等国語科教育法Ⅲ」、「英語科指導法演習Ⅰ」、「教育心理学」は、教育学部生向け科目。(他学部生受講不可)

注2:「学術日本語Ⅰ」「学術日本語ⅡA」「学術日本語ⅡB」「学術日本語ⅡC」は外国人留学生対象の科目。(日本人学生受講不可)

第 IV 部

付 録

初修外国語の紹介

初修外国語の紹介

はじめに

いよいよ大学生活が始まります。いろいろな期待で胸をふくらませていることでしょう。例えば「新しい外国語を学んでみたい」とか。茨城大学はみなさんのそんな期待に応えるため、初歩からの「ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語」の授業を開講しています。

さてそれでは、どの外国語を学んだらよいのでしょうか？

自分が興味を持つ学問分野に関連して、もう既に決めている人もいるでしょう。でも、まだ決めていない人がほとんどだと思います。そこで、「それぞれの言語についての紹介文」を用意しました。履修する外国語がまだ決まっていないあなた、そして「決めつつも」のあなたも、どうぞこれらの紹介文を読み、考え、そして選択してください。

では、楽しく外国語を学びましょう！

(注意)購入した教科書や辞書は返品できませんので、「クラス分け掲示」で自分の学生番号を確認し、第1回の授業に出席し、担当教員の説明を聞いて、分からないことを質問して疑問を解消してから、教科書売り場で購入するようにしてください。

ドイツ語を学ぼう！

(1) 英語に近い

ドイツ語はゲルマン語派のなかの1つです。ゲルマン語派は北ゲルマン語と西ゲルマン語に分かれていて、北ゲルマン語はアイスランド語、ノルウェー語、スウェーデン語、デンマーク語に分かれますが、西ゲルマン語は英語、オランダ語、ドイツ語から成っています。つまりドイツ語と英語は、家族にたとえれば姉妹や兄弟の関係にあります。ちなみにフランス語とスペイン語はイタリック語派に属していますから、ドイツ語や英語から見ると、いところ同士にあたります。

(2) むずかしい？

なにごと最初はむずかしいものです。これはドイツでもことわざになっていて、アラー・アンフアング・イスト・シュヴェア(Aller Anfang ist schwer.)と言います。aller は英語の all、ist は英語の be動詞とおなじです。Anfang が「最初」、「初め」という意味ですが、ドイツ語では普通名詞でも頭文字を大文字で書きます。schwer は形容詞で「むずかしい」。でも schwer には「重い」、「大切な」という意味もありますから、なにごと最初が肝心で、むずかしい。これはなにもドイツ語に限ったことではありません。

島国イギリスで使われている英語とちがいで、ヨーロッパ大陸の言語は、人称変化や名詞の性別など、複雑な仕組みをよく保存しています。ドイツ語も例外ではなく、「わたしは飲む」イッヒ・トリンケ(ich trinke)、「彼女は飲む」ズイー・トリンクト(sie trinkt)のように、主語の人称に応じて動詞の語尾が変わります。名詞の性別もあらかじめ決まっていて、「太陽」ゾンネ(Sonne)は女性名詞、「月」モント(Mond)は男性名詞、「少女」メートヒェン(Mädchen)は中性名詞です。

4月あるいは9月からはじまる1年次生向けの授業は、ドイツ語についてなにも知らないことを前提にしてスタートしますから、まったく心配はいりません。英語と比べると文法上の決まりが多いので、複雑な言語であるかのような印象を受けますが、基礎をしっかり学べば、あとは順調についていくことができます。発音はおおむねローマ字式なので、日本人にとってありがたい側面もあります。むしろドイツ人に言わせれば、文字が50もある日本語のほうがずっとむずかしいのだそうです。やっと覚えたかと思うとカタカナもあるし、漢字にいたってはいくら覚えてもきりがありませんよね。

(3) ことばを学ぶことの意義

ことばは、人の心のとびらを開く大切な鍵です。ドイツ語を学ぶことによって始めて、ドイツ人の心や文化に、じかに触れることができるようになります。和歌や俳句を味わうには日本語の知識が必要であるのとおなじように、音楽、美術、映画、スポーツ、演劇、思想、文芸、歴史、科学などドイツの文化や社会を深く知るためには、ドイツ語の初級程度の知識は最低限必要不可欠なものです。

そして、これはドイツ語に限りませんが、外国語を学ぶことにはもうひとつ、わたしたちの日本語を見つめ直すという大切な意義があります。ドイツの詩人ゲーテのことばを引いておきましょう。「複数の外国語を知らない人は、自国語についてなにも知らない。」(Wer fremde Sprachen nicht kennt, weiß nichts von seiner eigenen.)

フランス語を学ぼう！

(1) フランスは、どんな国？

ヨーロッパの地図を思い出して下さい。フランスはヨーロッパの主要4カ国(イギリス、スペイン、イタリア、ドイツ)に取り巻かれ、「ヨーロッパの十字路」に位置します。政治や経済のみならず、首都パリは芸術の都でもあり、美術や映画、ファッションや音楽など、世界中の注目を集めています。

また、フランスは名だたる観光国です。ルーヴルを始め、パリには美術館がたくさんありますし、街並みも美しく、世界中から観光客がやって来ます。また、世界遺産モン・サン・ミッシェルも有名で、パリ以外にも見どころがたくさんあります。あなたもフランス語を少し話せるようになって、フランスを旅行してみたいはいかが？

(2) スイス連邦とモロッコ王国の共通点は？

「2022年のサッカー・ワールドカップ・カタール大会に出場した国である。」はい、正解です。でも、他にも共通することがあります。どちらの国もフランス語を公用語としている点です。

フランス語を話す人々は世界にほぼ3億人。フランス以外のヨーロッパの国々や、カナダ、アフリカ、中近東の国々でもフランス語が通じます。そんなあちこちから人が移り住み、フランスは人種のるつぼとなっています。ユダヤ系、スラヴ系、アフリカ系、そして東南アジアや中国系の人々がいて、とてもバラエティーに富んだ国なのです。なにしろモロッコ生まれの小説家ターハル・ベン・ジェルーンがフランス語で小説を書いて賞をもらい、フランス文化使節団の一員に任命されたくらいですから、「フランス人」といっても実に様々で、まさに十人十色だと言えるでしょう。

(3) フランス語は、なんか難しそうだけど・・・

さて、そんな多様なフランス人の共通語である「フランス語」を勉強し始めたあなたが、最小の努力で最大の効果を上げるためには、まず、動詞に注目して下さい。「行く」とか「持つ」とか電車に「乗る」とか、動詞が上達のポイントです。

私は／きみは／彼・彼女は／私たちは／きみたちは／彼ら・彼女らは。一人称と二人称と三人称、単数と複数で計6種類の主語があり、それに応じて動詞の形が決まります。それぞれ語尾が変わるので見た目は難しそうですが、しかし実はこれには「法則」があり、それさえ分かればあとは簡単です。動詞は文の幹なので、先ず動詞を押さえ、そこから少しずつ枝葉を伸ばして行ってください。

発音にもパターンがあります。英語のように「同じ read でも読み方が違う」などということはフランス語にはありません。この綴りならこう読む、と決まっていますから、そのルールさえ覚えれば自動的に読めるようになるのです。やったね！

(4) 学び始めて、その先は？

英検を知っている人は多いと思いますが、フランス語にも仏検(「実用フランス語技能検定試験」)があります。この検定試験の最初の段階「仏検 5 級」が茨城大学の「フランス語 I」(1年次の前学期に週2回の授業)にほぼ相当しますので、この「I」を修得すれば仏検5級をクリアできるでしょう。続けて後学期の「II」が、4級です。毎年何人もチャレンジしています。

パティエールと聞いて「ああ、エールだから女性ね」なんて分かったり、CMのセリフの一言が聞き取れれば、コミュニケーションの世界が広がり、心がはずみます。さあ、あなたもフランス語を学んでみませんか！

中国語を学ぼう！

新入生の皆さん、入学おめでとうございます！

初修外国語を選択する際、いろいろ迷ったりしてはいませんか。ここで私は中国語を選ぼう、と強く推薦します。理由は次の二点です。

まず中国語は他の言語と比べ、学びやすいという利点があります。ですからまじめに履修するなら中国人と話せるようになります。中国語の新聞・文章等も読めるようになり、中国人及び中国社会におけるコミュニケーションの道具として使えるようになるのです。卒業すると同時に、習ったことをきれいに忘れてしまうようなことは、まずありません。それは中国語が同じ漢字文化圏の日本人にとって身に付けやすいからです。中国語は漢字で書くので、発音が分からなくても大体の意味はつかめます。発音を覚え、基本的な文法を理解したら、すぐに簡単な会話ができるようになります。とはいえ一つの民族言語としてそれなりの構造と理論もあり、漢字の発音も日本語とは違います。

中国の文字は漢字しかありません。しかし発音を表すものとしてピンインがあります。このピンインを通して中国語の発音を学びますが、日本の音読とは違うところがあるので、徐々に慣れることが必要です。たとえば、電話の発音はピンインで Dianhua (ディエンファ)、新幹線は Xing anxian (シンカンシエン) といいます。また中国語を話す際、「声調」という音の高低のパターンを間違えずに発音することが非常に大切です。

ちょっと困るのは中国の略字です。昔は日本と同様に旧漢字でしたが、1955年の文字改革でたくさんの略字(簡体字)が作られたからです。たとえば「習」は「习」、「話」は「话」と書きます。でも字形が似ているので、初歩の単語であれば慣れるのは容易です。このような内容をマスターすると、もう中国語の学習はかなり楽です。

推薦するもう一つの理由は、何よりも中国語の実用性です。世界総人口の約四分の一を占めているのは中国人です。日本経済の最大パートナーも中国です。中国語ができるようになれば、皆さんの今後の社会生活や就職などに大いに役に立つに違いありません。これまで中国語を履修した皆さんの先輩たちの就職を見ても、この点は十分に分かるでしょう。

本学では中国語が十分身に付くようにするため、ネイティブ及び日本人の先生方によって授業が行われます。どのクラスに割り振られても同じ内容の授業を受けられるように、統一教材を使用して行われますのでご安心ください

ではこれから一緒に中国語を学びましょう、我们一起学习汉语吧！

朝鮮語/韓国語/ハングルを学ぼう！

「안녕하세요(アンニョンハセヨ)」茨城大学では、朝鮮語とっていますが、韓国では韓国語と呼んでいます。また、使用する文字のことをハングルと言います。(ハングルは文字のこと:日本語で言うひらがなカタカナのようなものです)「안녕하세요!(アンニョンハセヨ!)」から分かる様に、ㅇやㅏやㅓを組み合わせたハングルは、一見むずかしそうに感じるかもしれませんが、心配いりません。最初の授業で、それが子音と母音の組み合わせからなるローマ字のような表音文字であることがすぐ理解できます。文字の構造さえわかっしまえば、ハングルで表記された看板やメニューもすぐに読めるようになります。韓国語は、日本語とほぼ同じ語順で、文法構造も日本語と非常によく似ていますので、日本語話者にとっては、じつに学びやすい言語といえるでしょう。

近年、世界的に韓国の音楽や映画、ドラマが人気を博しています。メディアコンテンツだけでなく、化粧品や食文化なども大変人気があります。アメリカやヨーロッパだけでなく世界中のあらゆる国で、韓国文化は注目を集めていて、世界中で韓国語を学習する人が増加の一途を辿っています。韓国語学習を通して、世界中に広がる韓国好きの友達とオンライン上で繋がれるのも、学習を通して学べる喜びの一つではないでしょうか。韓国語で検索し、チャットし、繋がれる世界は、全世界へと広がっています。

冒頭で使用した「アンニョンハセヨ」というあいさつは耳にしたことのある方が多いと思います。これは、「安寧ですか(お元気ですか)」という意味で、朝昼晩一日中いつでも使える便利なあいさつ言葉です。韓国語も日本語も中国大陸に影響を受けた漢字文化圏ですので、共通の漢字を使用している単語が多く存在しています。例えば「記憶」「約束」「無理」「簡単」「気分」といった単語は、日本語の発音とほぼ同じですので、そのまま使用しても通じます。そのため、応用も非常に簡単で「記憶する」は「キオク」に日本語の「する」にあたる韓国語の「ハダ」を付け、「キオクハダ」とすれば良いのです。同様に「約束する」は「ヤクソクハダ」となります。簡単でしょう?発音もしやすいですので、ルールさえわかっしまえば、どんどん応用していけますので、漢字を知っている日本人にとっては大変学びやすい言語であると言えます。著名人やあなたの好きな芸能人がどのようにハングルで表記されるのかを確認して見るのも興味深い体験となるでしょう。

韓国は日本から最も近い隣国です。そのため、朝鮮半島と日本列島はずっと昔から交流があり、現在でもさまざまな交流が活発に行われています。例えば、現在日本を訪れる訪日外国人のうち、圧倒的一位を占めているのは韓国人です。日本でも韓国文化は人気ですが、韓国でも日本文化は大変人気があり、日本のアニメや食べ物に親しんでいる若者たちがたくさんいます。日本人にとっても、韓国は最も人気のある旅行先の一つです。飛行機に乗って2時間もあれば到着しますので、休みを利用してぜひ本場の韓国の文化に触れ、授業で学んだ成果を試してみましょう。韓国語を少し学ぶだけで、韓国料理を自分で注文したり、同世代の友人を作ったり、映画やドラマのロケ地を自分たちだけで巡るなど、韓国がグッと身近になるはずです。また茨城大学は、現在、韓国の忠北大学・仁済大学・国民大学と交流協定を結んでいますので、留学や短期語学研修に行くことができます。興味のある方は直接現地の大学で韓国の大学生たちと共に学び、語り、交流を重ねることで、映画やドラマを観るだけでは分からない相手国への理解を一層深めることができるでしょう。今までに多くの先輩たちが韓国で貴重な体験をしてきています。また、茨城大学には韓国からの留学生もいますので、ぜひ留学生とも交流をし、生きた韓国を知る機会を積極的に作ってみてください。

さあ、一緒に「アンニョンハセヨ」からはじめましょう。

スペイン語を学ぼう！

スペイン語はラテン語から派生した言語の一つです。発音と読み方は日本人にとって非常に易しく、ほぼ1回の授業でマスターできます。また、一度スペイン語の文法をマスターしてしまえば、他の同系列の言語であるポルトガル語・イタリア語・フランス語などにも、その知識を応用することができます。

スペイン語はスペインとラテンアメリカ及びカリブ海地域で広く用いられている言語で、その母語としての話者数は4億人を超えており、これは中国語に次いで世界2位、また英語話者をわずかに凌いでいます。また、20世紀後半からは米国においてスペイン語圏に出自をもつ人々が急増しており、2050年までには米国人の半数がスペイン語ネイティブになると予想されています。

スペイン語世界はとても広大であり、その文化や歴史は一枚岩ではありません。例えば、スペインの文化は歴史的にアラブ系・ユダヤ系文化の影響を強く受けてきました。またスペインの各地方には、カタルーニャ語やバスク語、ガリシア語といった固有の歴史を持った言語が並存しています。

スペイン語を学ぶことで、多様なラテンアメリカの文化に触れることもできます。かつて北・中米で栄華を誇ったアステカ文明やマヤ文明、南米アンデス地域を広く統治したインカ文明などのアメリカ大陸独自の文化、あるいは、カリブ海地域などに奴隷として連れてこられたアフリカ系の人々によって生まれた文化などがそうです。

このように、スペイン語世界は複数の文化が混交する驚異的な世界です。分かりやすい例をいくつか挙げましょう。

まず、スペイン語諸国は「音楽の宝庫」と言われています。スペインのフラメンコは言うにおよばず、カリブのサルサ等のダンス音楽、アルゼンチンのタンゴ、アンデス地域のフォルクローレなどが世界的に知られていますが、その他にも数えきれないほどの種類の民俗音楽があちこちに存在します。

また、食文化のバリエーションも際立っています。日本でもおなじみのスペインのパエージャ(パエリア)や、今や世界遺産にもなっているメキシコ料理、インカ・ヨーロッパ・アジアの文化的交流の中から生まれたペルー料理、世界一洗練されたアルゼンチン牛など、どこへ行っても美味しい食べ物に出会うことができます。

さらには、EUの一員でありながらもカタルーニャ州自治権など古くからの問題に揺れるスペインや、未だに貧富の格差が激しいにもかかわらず未知の潜在力を持ったラテンアメリカ・カリブ諸国の社会・政治経済などカーレントな話題を日本語や英語を通さずに直に知るにも、スペイン語は心強い味方となってくれます。

スペイン語は、こうした豊かなスペイン語世界へ皆さんを誘う、魅力に満ちたパスポートとなるはずです。

i Bienvenidos al mundo fantástico de español(驚異のスペイン語の世界へようこそ)!

時間割表

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					

(1年次用) 時間割表 (履修登録用メモ：前学期)

講時	クォーター	月	火	水	木	金
1	1Q					
	2Q					
2	1Q					
	2Q					
3	1Q					
	2Q					
4	1Q					
	2Q					
5	1Q					
	2Q					

集中講義等	月 日	時 間
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	

(1年次用) 時間割表 (履修登録用メモ：後学期)

講時	クォーター	月	火	水	木	金
1	3Q					
	4Q					
2	3Q					
	4Q					
3	3Q					
	4Q					
4	3Q					
	4Q					
5	3Q					
	4Q					

集中講義等	月 日	時 間
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	

(2年次用) 時間割表 (履修登録用メモ：前学期)

講時	クォーター	月	火	水	木	金
1	1Q					
	2Q					
2	1Q					
	2Q					
3	1Q					
	2Q					
4	1Q					
	2Q					
5	1Q					
	2Q					

集中講義等	月 日	時 間
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	

(2年次用) 時間割表 (履修登録用メモ：後学期)

講時	クォーター	月	火	水	木	金
1	3Q					
	4Q					
2	3Q					
	4Q					
3	3Q					
	4Q					
4	3Q					
	4Q					
5	3Q					
	4Q					

集中講義等	月 日	時 間
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	

(3年次用) 時間割表 (履修登録用メモ：前学期)

講時	クォーター	月	火	水	木	金
1	1Q					
	2Q					
2	1Q					
	2Q					
3	1Q					
	2Q					
4	1Q					
	2Q					
5	1Q					
	2Q					

集中講義等	月 日	時 間
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	

(3年次用) 時間割表 (履修登録用メモ：後学期)

講時	クォーター	月	火	水	木	金
1	3Q					
	4Q					
2	3Q					
	4Q					
3	3Q					
	4Q					
4	3Q					
	4Q					
5	3Q					
	4Q					

集中講義等	月 日	時 間
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	

(4年次用) 時間割表 (履修登録用メモ：前学期)

講時	クォーター	月	火	水	木	金
1	1Q					
	2Q					
2	1Q					
	2Q					
3	1Q					
	2Q					
4	1Q					
	2Q					
5	1Q					
	2Q					

集中講義等	月 日	時 間
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	

(4年次用) 時間割表 (履修登録用メモ：後学期)

講時	クォーター	月	火	水	木	金
1	3Q					
	4Q					
2	3Q					
	4Q					
3	3Q					
	4Q					
4	3Q					
	4Q					
5	3Q					
	4Q					

集中講義等	月 日	時 間
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	
科目名：	月 日 ()	

学問分野コード
教育プログラムコード一覧

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

● 学問分野コード一覧（アルファベット順）

コード	学問分野	英訳名
AAG	代数幾何学	Algebra and geometry
AAS	水圏応用化学	Applied aquatic science
ABE	建築学	Architecture and building engineering
ABS	農学基礎科目	Agricultural Basic Subjects
AEE	建築環境・設備	Architectural environment/Equipment
AGC	農芸化学	Agricultural chemistry
AGE	農業工学	Agro-engineering
AHD	建築史・意匠	Architectural history/Design
ALG	代数学	Algebra
ALS	動物生命科学	Animal life science
ANA	解析学	Analysis
ANT	人類学	Anthropology
APC	複合化学	Applied chemistry
APM	応用数学	Applied Mathematics
APP	応用物理学	Applied physics
APS	畜産学	Animal Production Science
ARC	考古学	Archaeology
ARS	地域研究	Area studies
ART	芸術学	Art studies
ASE	社会経済農学	Agricultural science in society and economy
AST	天文学	Astronomy
BAA	解析学基礎	Basic analysis
BAB	基礎生物学	Basic biology
BAC	基礎化学	Basic chemistry
BAM	基礎医学	Basic medicine
BAN	看護学	Basic nursing
BIE	人間医工学	Biomedical engineering
BIO	生物学	Biology
BIS	生物科学	Biological Science

コード	学問分野	英訳名
BMS	生体分子科学	Biomolecular science
BOA	境界農学	Boundary agriculture
BRS	脳科学	Brain sciences
BSM	建築構造・材料	Building structures/Materials
CAM	文化財科学・博物館学	Cultural assets study and museology
CBR	生物資源保全学	Conservation of biological resources
CCC	土木材料・施工・建設マネジメント	Civil engineering materials/Construction/Construction management
CEE	土木環境システム	Civil and environmental engineering
CHC	漢文学	Chinese Classic
CHD	保育学	Child Development
CHE	化学	Chemistry
CHI	中国語	Chinese
CHS	子ども学	Childhood science
CIE	土木工学	Civil engineering
CLM	臨床医学	Clinical medicine
CMS	計算材料学	Computational Materials Science
CNE	通信・ネットワーク工学	Communication/Network engineering
COA	コンピュータ応用	Computer Application
COE	制御工学/制御・システム工学	Control engineering
COM	コミュニケーション学	Communication
COP	調理学実習	Cooking Practicum
COS	認知科学	Cognitive science
CPS	計算機システム	Computer system
CRC	異文化コミュニケーション	Cross-cultural communication
CSC	計算科学	Computational science
CSN	コンピュータシステムとネットワーク	Computer Systems and Networks
CTE	土木計画学・交通工学	Civil engineering project/Traffic engineering
CTS	被服学	Clothing and Textile Science

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

コード	学問分野	英訳名
CUA	文化人類学	Cultural anthropology
CUL	栽培学	Cultivation
CUS	文化研究	Cultural studies
DEE	設計工学	Design engineering
DES	デザイン学	Design science
EAE	環境解析学	Environmental analyses and evaluation
EAS	地学	Earth science
ECC	電気回路	Electric Circuit
ECO	経済学	Economics
EDS	教育科学	Educational science
EDT	教育工学	Educational technology
EDU	教育学	Education
ELC	電子回路	Electronic Circuit
ELD	電子デバイス・電子機器	Electron device
ELE	電気エネルギー	Electric Energy
ELM	電子・電気材料工学	Electric materials
EMA	電磁気学	Electromagnetic
ENC	環境保全学	Environmental conservation
ENE	エネルギー工学	Energy engineering
ENG	英語	English
EPS	地球惑星科学	Earth and planetary science
EST	組み込みシステム技術	Embedded System Technology
ETH	倫理学	Ethics
EXP	実験（特別実験等）	Experiment
FFP	森林圏科学	Forest and forest products science
FLE	流体工学	Fluid engineering
FOI	情報学フロンティア	Frontiers of informatics
FOS	食物学	Food Science
FQS	量子基礎科学	Fundamental Quantum Science
FRE	フランス語	French

コード	学問分野	英訳名
FRM	生活経営学	Family Resource Management
GEE	地盤工学	Geotechnical engineering
GEL	地質学	Geology
GEM	幾何学	Geometry
GEN	ジェンダー	Gender
GEO	地理学	Geography
GER	ドイツ語	German
GHS	グローバル化と人間社会	Globalization and Human society
GNS	ゲノム科学	Genome science
GRE	ギリシア語	Greek
GRT	卒業論文・卒業研究	Graduation thesis
HEE	家庭科教育学	Home Economics Education
HII	ヒューマンインタフェース・インタラクション	Human interface and interaction
HIS	歴史学	History
HLS	生活科学	Human life science
HOS	住居学	Housing Science
HSS	健康・スポーツ科学	Health/Sports science
HUG	人文地理学	Human geography
HUI	人間情報学	Human informatics
HUM	ヒューマニティーズ	Humanities
HYE	水工学	Hydraulic engineering
IBS	茨城学	Ibaraki Studies
ICT	情報とコンピュータ	Information and Computer Technology
IFS	情報セキュリティ	Information security
IIP	情報処理概論	Introduction to Information Processing
INE	生産工学	Industrial engineering
INF	情報学	Informatics
INI	知能情報学	Intelligence Informatics
INL	情報リテラシー	Information Literacy
INM	知能機械学	Intelligent mechanics

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

コード	学問分野	英訳名
INS	学際科目・総合科目	Interdisciplinary Studies
INT	インターンシップ	Internship
ISS	社会科学入門	Introduction to Social Science
JPN	日本語	Japanese
KOR	朝鮮語	Korean
LAN	その他の語学	Language
LAS	実験動物学	Laboratory animal science
LAW	法学	Law
LIN	言語学	Linguistics
LIT	文学	Literature
LID	ライフデザイン	Life Design
MAC	材料化学	Materials chemistry
MAE	材料工学	Material engineering
MAI	数理情報学	Mathematical informatics
MAN	経営学	Management
MAS	生産技術工学	Manufacturing Systems
MAT	数学	Mathematics
MCI	情報数学	Mathematics for Computer and Information Sciences
MED	機械力学	Mechanical dynamics
MEE	計測工学	Measurement engineering
MEI	電子機能材料学	Materials Science for Electronic and Information Devices
MEW	金属加工学	Metal Working
MFE	機械機能要素	Machine functional elements
MFP	数理物理・物性基礎	Mathematical physics/Fundamental condensed matter physics
MIT	経営情報技術	Management of Information Technology
MMP	材料組織・プロセス学	Materials Microstructure & Processing Engineering
MOM	材料力学	Mechanics of Materials
MUD	マルチメディア・データベース	Multimedia database
MUL	総合・複合分野	Multi
NEH	自然・環境と人間	Nature, the Environment and the human Race

コード	学問分野	英訳名
NEM	中性子材料科学	Neutron Materials Science
NEU	神経科学	Neuroscience
NMS	ナノ・マイクロ科学	Nano/Micro science
NUE	原子力工学	Nuclear engineering
OED	光・電子デバイス	Optical and Electric device
ONC	腫瘍学	Oncology
OPE	光工学	Optical engineering
PAA	パフォーマンス&アート	Performance and Art
PCE	プロセス・化学工学	Process/Chemical engineering
PCI	情報科学基礎	Principles of Computer and Information Sciences
PEA	生産環境農学	Plant production and environmental agriculture
PHA	身体活動	Physical Activities
PHI	哲学	Philosophy
PHY	物理学	Physics
PIP	知覚情報処理	Perceptual information processing
PLS	プラズマ科学	Plasma science
POE	パワーエレクトロニクス	Power Electronics
POI	情報学基礎/計算基盤	Principles of Informatics
POL	政治学	Politics
PRA	実習（特別実習等）	Practice
PRE	プレゼンテーション	Presentation
PSY	心理学	Psychology
PUH	保健学演習	Public health
QBS	量子ビーム科学	Quantum beam science
RES	研究（特別研究等）	Research
RIS	リスク科学	Risk Science
SCH	学校保健学	School health
SED	環境創成学	Sustainable and environmental system development
SEM	構造工学・地震工学・維持管理工学	Structural engineering/Earthquake engineering/Maintenance management engineering
SFC	ソフトコンピューティング	Soft computing

学問分野コード・教育プログラムコード一覧

コード	学問分野	英訳名
SFH	健康の科学	Science for Health
SHS	科学社会学・科学技術史	Sociology/History of science and technology
SMI	演習・ゼミナール（特別演習、卒業論文関連ゼミナール、卒業研究ゼミナール、基礎演習、主題別ゼミナール等）	Seminars
SNT	養護実践学	School nurse teacher practice
SOC	社会学	Sociology
SOM	材料強度物性学	Strength of Materials
SPA	スペイン語	Spanish
SSS	社会・安全システム科学	Social/Safety system science
SST	ソフトウェア学	Software Science and Technology
STB	構造生物学	Structural Biology
STS	統計科学	Statistical science
TAP	都市計画・建築計画	Town planning/Architectural planning
TEE	技術英語	Technical English
THE	熱工学	Thermal engineering
TOS	観光学	Tourism Studies
WOW	木材加工学	Wood Working

● 教育プログラムコード一覧（アルファベット順）

コード	教育プログラム名
COE	地域志向教育プログラム
ENT	アントレプレナーシップ教育プログラム
GCP	グローバルコミュニケーションプログラム
JTP	日本語教員養成プログラム
MDA	数理・データサイエンス・AI 教育プログラム
SUS	サステナビリティ学教育プログラム

別紙

(別紙)

学校保健安全法施行規則 18 条に規定する感染症

第1種感染症：

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。）及び特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症

第2種感染症：

インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症を除く。）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。）、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎

第3種感染症：

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

学校保健安全法施行規則 19 条に規定する出席停止の期間の基準

感染症の種類	出席停止の期間の基準
第1種	治癒するまで。
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
	百日咳にあつては、特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで。
	麻疹にあつては、解熱した後3日を経過するまで。
	流行性耳下腺炎にあつては、耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
	風しんにあつては、発しんが消失するまで。
	水痘にあつては、すべての発しんが痂皮化するまで。
	咽頭結膜熱にあつては、主要症状が消退した後2日を経過するまで。
	新型コロナウイルス感染症にあつては、発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	結核及び髄膜炎菌性髄膜炎にあつては、病状により医師において感染のおそれがないと認めるまで。
第3種	医師において感染のおそれがないと認めるまで。

忌引きの期間（葬儀のため遠隔の地に赴く場合にあっては、往復に要する日数を加えた日数）

親族	日数
配偶者	7日
父母	
子	5日
祖父母	3日（学生が代襲相続し、かつ、祭具等の承継を受ける場合に あっては7日）
孫	1日
兄弟姉妹	3日



茨城大学
Ibaraki University

茨城大学スチューデントサクセスセンター
スタディサポート室
〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1
TEL:029-228-8415/8416
E-mail:adm-cfge.sbx@vc.ibaraki.ac.jp
<http://www.lae.ibaraki.ac.jp/>